

ステップアップガイド

PC-9821 *Nw150/Nw133*


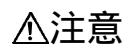
- 本機の機能について
- 周辺機器を使う
- システムの設定を変える

98 NOTE *Lavie*^{ラヴィ}

- ・ 注意事項を守って製品をご使用ください。
- ・ このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に保管してください。

このマニュアルでは、製品を安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

注意事項を守っていただけない場合、どの程度の影響があるかを表しています。

 警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 注意	人が傷害を負う可能性が想定されること、および、物的損害のみの発生が想定されることを示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。

 毒物注意	毒性の物質による傷害の可能性が想定されることを示します。	 感電注意	感電の可能性が想定されることを示します。
 発火注意	発煙または発火の可能性が想定されることを示します。	 けが注意	けがを負う可能性が想定されることを示します。
 破裂注意	破裂の可能性が想定されることを示します。	 高温注意	高温による傷害の可能性が想定されることを示します。

その他の注意事項は次のマークで表しています。

 禁止	禁止事項を示します。	 電源プラグを抜く	電源コードのプラグを抜くように指示するものです。
---	------------	---	--------------------------



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。

対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMXは Intel Corporationの登録商標です。

TranXitは Puma Technology, Inc. の商標です。

Hayesは米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

OS/2は米国IBM Corporationの商標です。

NIFTY Managerは、ニフティ(株)の商標です。

BitWareはCheyenne Software, Inc.の登録商標です。

Sound Canvasは、ローランド株式会社の商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

本文中に記載されているWindows 95の正式名称はMicrosoft® Windows® 95 Operating Systemです。

本文中に記載されているWindows 3.1の正式名称はMicrosoft® Windows® Operating System Version 3.1です。

本文中に記載されているWindows NT 3.51の正式名称はMicrosoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51です。

本文中に記載されているWindows NT 4.0の正式名称はMicrosoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0です。

©NEC Corporation 1997

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

電話回線 :S97-3068-0

専用回線(帯域品目):L97-N123-0

専用回線(符号品目):M97-N055-0

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

[バッテリパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリパックを取り付けている場合]

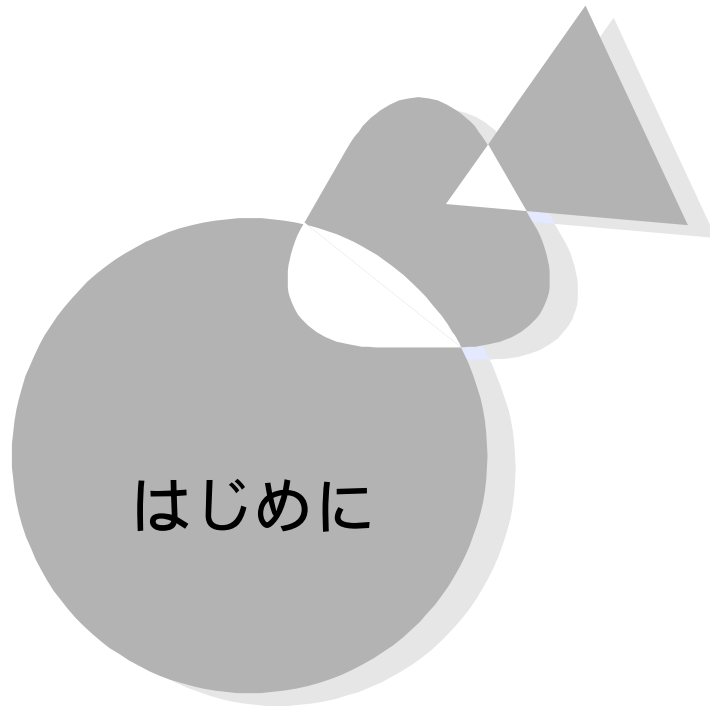
本装置にバッテリーパック実装時は、社団法人日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS-C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。







はじめに


このマニュアルは、本機の基本的な操作方法を習得された方のために、より詳しい使用方法を説明しています。本機固有の機能や機器の拡張方法について詳しく説明していますので、必要に応じてご利用ください。

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号には、次のような意味があります。

	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。場合によっては、本機が故障したり、本機で使用しているソフトウェアや、お客様が作成されたデータが壊れたりする可能性もあります。
	参考にしていただきたいことを説明しています。
	本文中に出てくる用語の説明や、知っておくとよいことなどを説明しています。
	参照ページを表しています。

このマニュアルで使用している表記には、次のような意味があります。


本機	次の各モデルを表します。 PC-9821Nw150/S20modelIQ 型番:PC9821NW150S20C] PC-9821Nw150/S20modelIQ 型番:PC9821NW150S20D] PC-9821Nw133/D14modelIQ 型番:PC9821NW133D14C] PC-9821Nw133/D14modelIQ 型番:PC9821NW133D14D]
Windows	Microsoft® Windows® 95を指します。
MS-DOS	MS-DOS® 6.2を指します。
[XXX]	[]で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。例：[OK]ボタン
クリック	操作手順中「クリック」とある場合は、特にことわりがない限り左クリックを表します。
	キーボードのキーは、枠で囲んで表記しています。

- ・ 本文中の画面は、実際の画面と異なることがあります。
- ・ 本文中の本機のイラストは特にことわりがない場合はPC-9821Nw133/D14のものを記載しています。

安全にお使いいただくために


異常や故障の場合には


⚠警告



発火注意


万一次のような異常や故障が起こった場合には、すぐに電源をOFFにして電源コードのプラグをACコンセントから抜いてください。バッテリーパックを取り付けているときには、バッテリーパックを本機から取り外してください。そのまま使用すると発煙、発火、感電のおそれがあります。





感電注意


- ・煙が出たり、異臭がしたりする
- ・手で触れられないほど熱い
- ・異常な音がする
- ・本機やコード類が破損した



高温注意

詳しい対処についてはご購入元、最寄りのBit - INN、または当社指定のサービス窓口にご相談ください。

⚠注意




毒物注意

液晶ディスプレイ内部の液体を口に入れしないでください。また、内部の液体に触れないでください。

液晶ディスプレイが破損して内部の液体が口に入った場合は、すぐくわいをしてください。また、皮膚に付着したり目に入った場合は、すぐに流水で15分以上洗浄してください。

取り扱い上の注意


⚠注意



感電注意

濡れた手で触らないでください。

電源コードがACコンセントに接続されているときに濡れた手で本機に触ると、感電の原因となります。



発火注意

本機内部に異物を入れないでください。

本機内部に金属類や燃えやすいものなどの異物が入ると、回路がショートして火災の原因となります。

使用上の注意

⚠警告



高温注意

ひざの上で長時間使用しないでください。

使用中本機底面が熱くなり、低温やけどを起こす可能性があります。
低温やけどは、長時間にわたり一定箇所に発熱体が触れたままになっているときなどに肌に紅班、水泡などの症状を起こすやけどのことです。肌の弱い方などは、特にご注意ください。



感電注意

雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



感電注意



発火注意

電源はAC100V(50/60Hz)を使用してください。
異なる電圧で使用すると、感電、発煙、火災の原因となります。

電源コードの上にものを載せないでください。
コードが傷つき、感電、火災の原因となります。



感電注意

内部に水などの液体を入れないでください。また、水分や湿気の多い場所では使用・保管しないでください。

風呂場など湿気の多い場所で使用・保管すると、感電の原因となります。
万一液体が入った場合は、電源をOFFにしてご購入元、最寄りのBit-INN、または当社指定のサービス窓口にご相談ください。乾いているようでも本機内部に水分が残っていることがあります。



発火注意

本機内部に異物や薬品などが入るおそれのある場所では使用・保管しないでください。

本機内部に異物や薬品が入ると、回路がショートして火災の原因となります。

タコ足配線にしないでください。

電源コードをタコ足配線にすると、コンセントが過熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードやACアダプタのつけ根部分を無理に曲げないでください。

壁に押し付けて曲がった状態など、プラグのつけ根部分を圧迫するような使い方をするとう、発煙、火災の原因となります。






電源コードを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

コードを引っ張って抜くと、脱線して火災の原因となります。

⚠注意



ケーブル類は整理してください。
ケーブル類を整理していないと、つまずいたり引っかかりたりしてけがの原因となります。

<p>落としたりぶつかけたりしないよう、平らで十分な強度がある場所で使用してください。</p> 	<p>本機のそばで飲食や喫煙をしないでください。</p> 	<p>上にものを載せないでください。</p> 
<p>通風孔をふさがないでください。</p> 	<p>指定以外の方法で改造しないでください。</p> 	<p>先のとがったもので傷付けしないでください。</p> 
<p>汚れたフロッピーディスクは使用しないでください。</p> 	<p>長期間使用しないときは、電源コードのプラグをACコンセントから抜いてください。</p> 	<p>静電気に注意してください。 電子部品は静電気によって破損することがあります。部品に触れる前に身近な金属に手を触れるなどして身体の静電気を取り除くようにしてください。</p>
<p>本機を移動するときには必ず電源をOFFにし、ACコンセントから電源コードのプラグを抜いてください。輸送する場合にはノートパソコン用のキャリングバッグやご購入時の梱包箱を使用してください。</p> 	<p>次のような場所では使用しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホコリが多い場所 ・暖房機具の近く ・磁気を発するものの近く ・直射日光が当たる場所 ・落下の可能性がある場所 ・テレビ、ラジオ、コードレス電話などの近く ・自動車内など、熱のこもる場所 	

バッテリーパック使用上の注意

⚠警告



発火注意



破裂注意



毒物注意

バッテリーパックは分解しないでください。
分解すると、破裂したり液漏れしたりすることがあります。

バッテリーパックには強い衝撃を加えないでください。また、マニュアルの指定の方法で充電してください。
衝撃を加えたり指定以外の方法で充電したりすると、発熱、発火、破裂、液漏れすることがあります。

健康のために.....

コンピュータを使った作業では、長時間同じ姿勢になりやすいため、他の一般事務作業にくらべて次のような症状がおこりやすくなると言われています。

- ・眼が疲れたり、重く感じる。
- ・ものがぼやけてみえる。
- ・疲れやすい。
- ・頸から肩、手の指にかけて、しびれたり全体的に痛みを感じたりする。

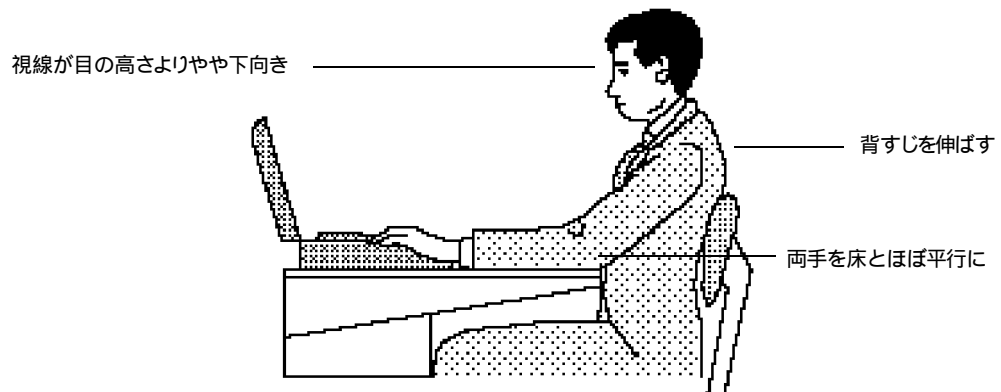
このような症状の感じ方は、作業時間や状況により個人差がありますが、次のことを心がけるようにしましょう。

- ・1時間の作業につき10～15分の作業休止時間をとる。
- ・適度な休憩をとり、軽い体操をするなど、気分転換をはかる。

万一、疲労が翌日まで残るような場合は、早めに医師に相談してください。

良い作業姿勢をとりましょう

コンピュータを使用する際の基本的な姿勢は、背すじを伸ばして椅子に座り、両手を床とほぼ平行にキーボードに置き、視線が目の高さよりやや下向きに画面に注がれているという姿勢です。良い姿勢とは、この基本的な姿勢をとったとき、身体のどの部分にも余分な力が入っていない姿勢です。



機器をこまめに調節しましょう

機器の調節ができる場合は、使いやすい状態にこまめに調節してください。

液晶ディスプレイの角度調節

本機の液晶ディスプレイは、角度調節ができるようになっています。まぶしい光が画面に映り込むのを防いだり、表示内容を見やすくするために、液晶ディスプレイの角度を調節することは大変重要です。

画面の輝度(明るさ)・コントラスト調節

年齢や個人差、周囲の明るさなどによって、画面の最適な輝度やコントラストは異なります。そのため、画面の輝度やコントラストは、状況に応じて見やすいようにこまめに調節することが必要です。



機器を清掃しましょう

液晶ディスプレイの画面は、ほこりなどで汚れると表示内容が見にくくなる原因となります。また、98スライドパッドに水分や油分などの汚れが付着すると正常に操作できなくなることがあります。本機は定期的に清掃してください(☞P.167)。

目次

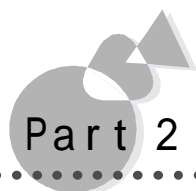
はじめに	
このマニュアルの表記について	iv
安全にお使いいただくために	v
健康のために	ix



Part 1 本機の機能について

各部の名称	2
バッテリー	10
バッテリーの充電	10
バッテリーで使う	11
バッテリーパック交換のめやす	13
バッテリーパックを交換する	13
サスペンド/レジューム機能	16
サスペンド/レジュームする	16
サスペンド/レジュームするときの注意	20
ハイバネーション機能	22
ハイバネーションを使えるように設定する	22
ハイバネーション状態にする	24
ハイバネーション状態にするときの注意	25
ハイバネーション機能の有効/無効を切り替える	27
省電力機能	28
CPUの節電	28
ディスプレイの節電	29
ハードディスクの節電	31
セキュリティ機能	32
パワーオンパスワード設定時の電源のON	33
パワーオンパスワード設定時のレジューム	34
通信機能	35
電話回線を接続する前に	35
電話回線を接続する	35
通信機能使用上の注意	37
赤外線通信機能	39
赤外線通信機能を使えるように設定する	39
機器の配置について	41
サウンド機能	43
音量を調節する	43
サウンドデバイスの切り替え	46
サウンド機能利用上の注意	48

表示機能	50
表示できる解像度と表示色	50
解像度と表示色を変更する	51



Part 2 周辺機器を使う

接続できる周辺機器	54
周辺機器の取り付け/取り外しの注意	56
ケーブルについて	56
周辺機器を利用する前に	57
周辺機器用のドライバ	57
プリンタを使う	63
プリンタを接続する	63
プリンタを設定する	64
メモリを増やす	70
メモリを取り付ける/取り外す	70
増やしたメモリを確認する	75
PCカードを使う	77
PCカードの取り扱い上の注意	77
PCカードの出し入れ	78
PCカードの設定をする	80
ディスプレイ/プロジェクタを使う	87
ディスプレイの種類と解像度	87
液晶プロジェクタの種類と解像度	88
CRTディスプレイを接続する	89
テレビを接続する	91
ディスプレイに合わせて本機を設定する	93
表示を切り替える	95
表示画面の大きさを変える	96
MIDI対応機器/ジョイスティックを使う	97
MIDI対応機器/ジョイスティックを接続する	97
MIDI音源使用上の注意	97
入力装置を使う(マウス・キーボード・テンキーボード).....	98
入力装置を接続する	98
オーディオ機器を使う	99
シリアル対応機器を使う	100



Part 3 システムの設定を変える

98NOTEメニューと98NOTEメニューユーティリティ	102
98NOTEメニューを起動する	102
98NOTEメニューユーティリティを起動する	106
98NOTEメニューの設定項目	107
98NOTEメニューユーティリティの設定項目	108
98NOTEメニューの使い方	109
各項目の詳細	110
割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間	127
設定の変更	127
メモリスイッチ(98環境設定ユーティリティ)	131
98環境設定ユーティリティをインストールする	131
メモリスイッチを変更する	132



付録

Windows 95でMS-DOSモードを利用する	136
MS-DOSモードを利用する	136
DOS環境設定ユーティリティ	138
MS-DOSモード用のDOSコマンドおよびドライバを 利用できるようにする	142
USKCGMコマンド	143
マルチメディア機能の利用	149
日本語入力機能	151
CD-ROMドライバ	153
ATコマンド(電話回線接続時)	156
コマンドの構成	156
ATコマンド一覧	157
本機のお手入れ	167
消耗品一覧	169
オプション品一覧	170
本製品の譲渡について	171
本機の廃棄方法について	172
バッテリーパックの廃棄について	172
サブバッテリーの廃棄について	172
目的別索引	175
索引	177

機能仕様	179
内蔵FAXモデムボード機能仕様	181



Part 1

本機の機能について

各部の名称

バッテリー

サスペンド/レジューム機能

ハイバネーション機能

省電力機能

セキュリティ機能

通信機能

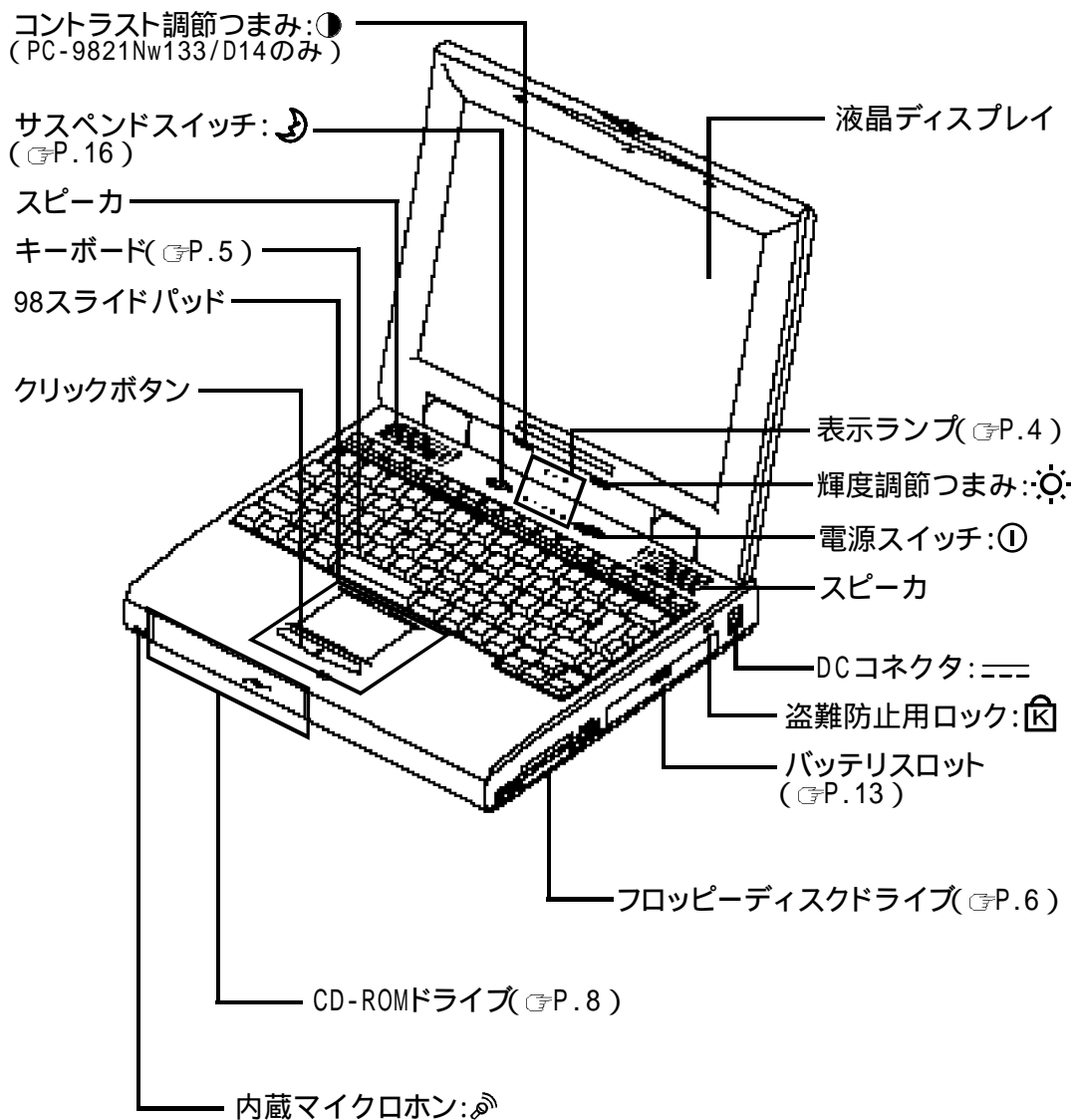
赤外線通信機能

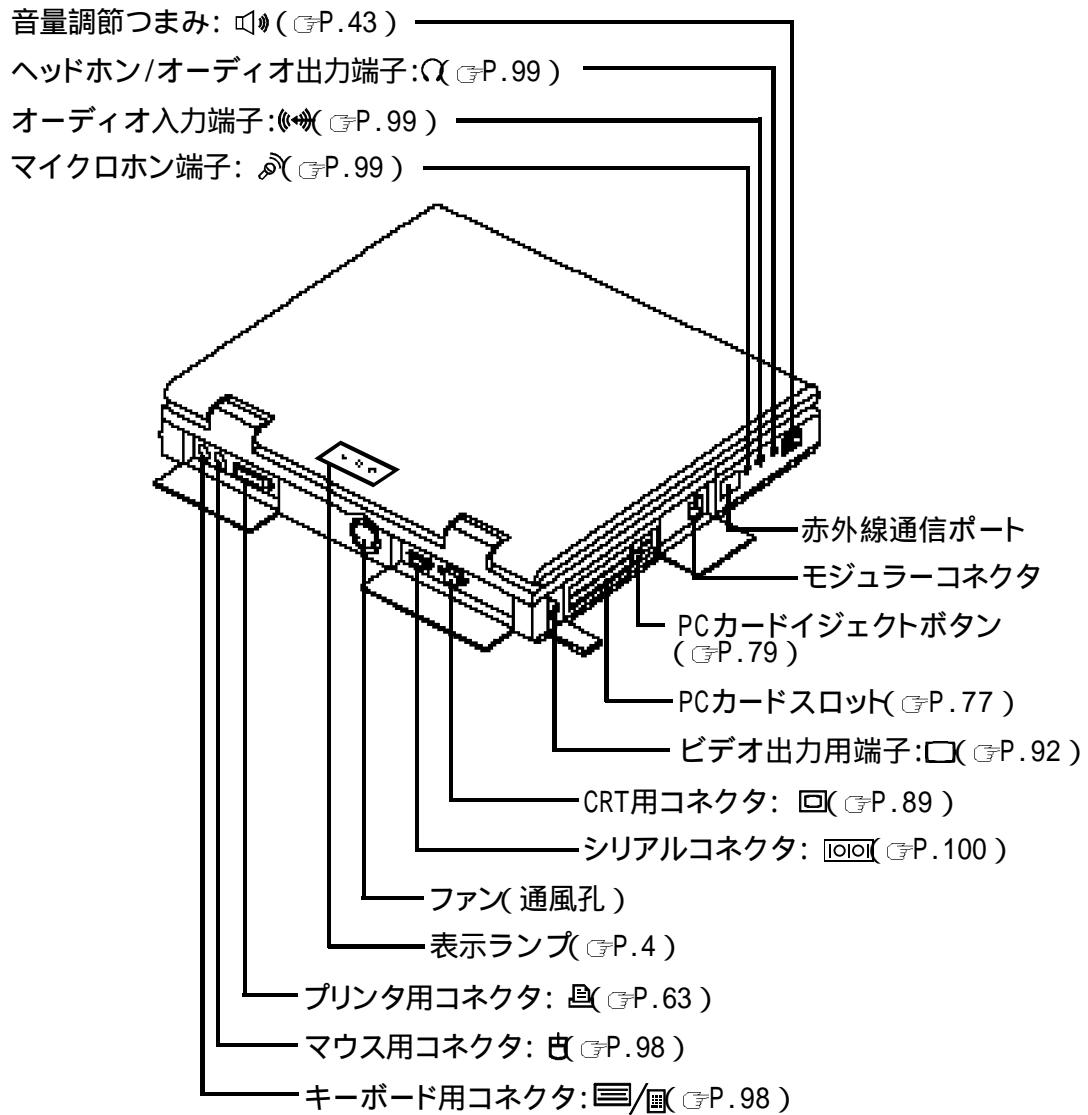
サウンド機能

表示機能

各部の名称

ここでは、本機の各部の名称について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。



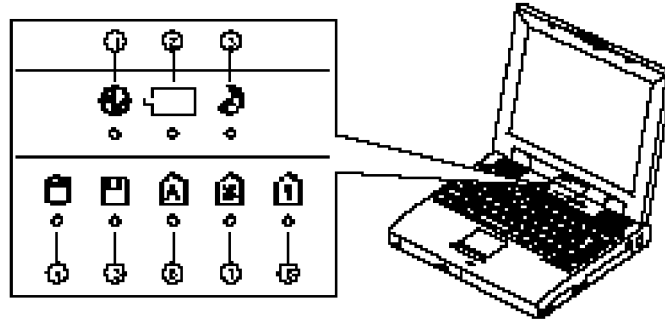


盗難防止用ロック

盗難防止用ロックは、Kensington社製のマイクロサーパーセキュリティシステムに対応しています。
日本国内総販売代理店の連絡先は、以下のとおりです。

日本パラロイド株式会社 電子映像事業部
〒105 東京都港区虎ノ門3丁目2番2号 第30森ビル
Tel: 03-3438-8879 Fax: 03-5473-1630

表示ランプ



電源ランプ

緑	電源ON
オレンジ	バッテリー容量が少ない
消灯	電源OFFまたはサスペンド状態

バッテリー充電ランプ

オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーリフレッシュが必要(P. 111)
消灯	バッテリー充電完了	

サスペンドランプ

緑	サスペンド状態
消灯	サスペンド状態でない

ハードディスクアクセスランプ

緑	ハードディスクのデータにアクセス中
消灯	ハードディスクのデータにアクセスしていない

フロッピーディスクアクセスランプ

緑	フロッピーディスクのデータにアクセス中
消灯	フロッピーディスクのデータにアクセスしていない

[CAPS]キーロックランプ

緑	[CAPS]がロックされている この状態のときに 英字を入力すると大文字で入力されます。
消灯	[CAPS]がロックされていない

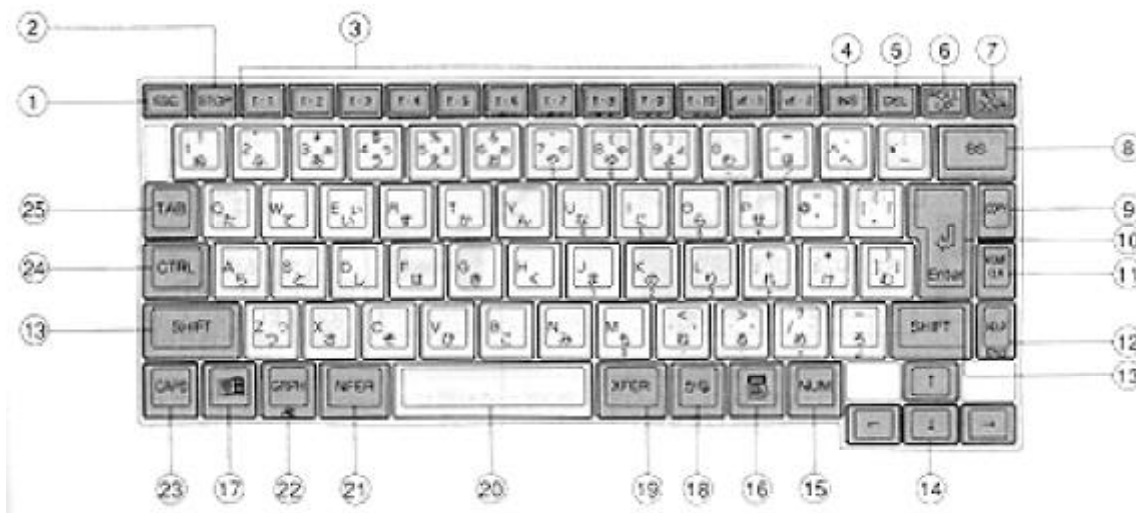
[かな]キーロックランプ


緑	[かな]がロックされている この状態のときにキー入力するとかなが入力されます。
消灯	[かな]がロックされていない

[NUM]キーロックランプ


緑	[NUM]がロックされている この状態のときにキー入力するとキー前面の文字が入力されます。
消灯	[NUM]がロックされていない

キーボード






・薄いグレーのキー 

英数字やカタカナ、記号などの文字を入力するキーです。

・濃いグレーのキー 

コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。このキーの働きはお使いになるアプリケーションソフトによって違います。

- ① **ESC**: エスケープキー
- ② **STOP**: ストップキー
- ③ **f・1** ~ **f・10**
vf・1 ~ **vf・2**: ファンクションキー
- ④ **INS**: インサートキー
- ⑤ **DEL**: デリートキー
- ⑥ **ROLL UP**: ロールアップキー
(PgDn: ページダウンキー)
- ⑦ **ROLL DOWN**: ロールダウンキー
(PgUp: ページアップキー)
- ⑧ **BS**: バックスペースキー
- ⑨ **COPY**: コピーキー
- ⑩ **Enter**: エンターキー(リターンキー)
- ⑪ **HOME CLR**: ホームクリアキー
- ⑫ **HELP**: ヘルプキー
(End: エンドキー)



- ⑬ **SHIFT**: シフトキー
- ⑭ **↑ ↓ → ←**: カーソル移動キー
- ⑮ **NUM**: ニューメリックキー
- ⑯ : アプリケーションキー
- ⑰ : Windowsキー
Windows 95使用時に使うことができます。
- ⑱ **かな**: かなキー
- ⑲ **XFER**: エクスファーキー
- ⑳ : スペースキー
- ㉑ **NFER**: エヌファーキー
- ㉒ **GRPH**: グラフキー
(Alt: オルトキー)
- ㉓ **CAPS**: キャップスキー
- ㉔ **CTRL**: コントロールキー
- ㉕ **TAB**: タブキー

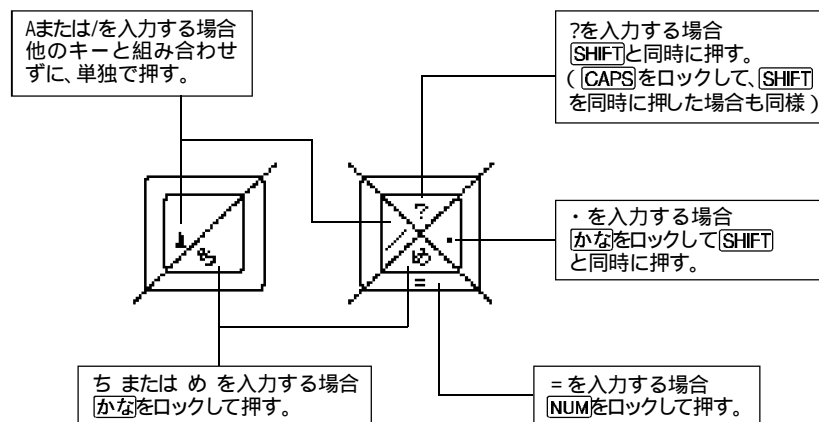
1

本機の機能について

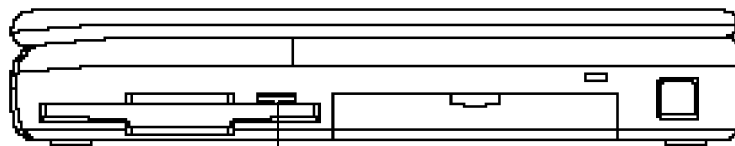
キーの使い方

一つのキーにいくつかの文字や記号が書かれているキーがあります。これは、キーの数が多すぎて使いにくならないように、一つのキーに何種類かの文字や記号が割り当てられているため、**[SHIFT]**、**[CAPS]**、**かな**と組み合わせることで文字や記号を入力しわけることができるようになっています。

(例)   の場合




フロッピーディスクドライブ




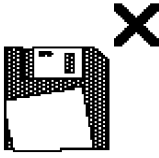

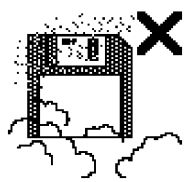
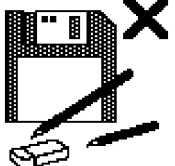
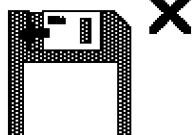

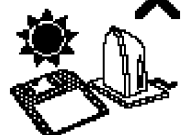
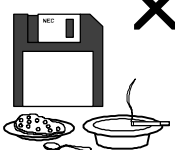

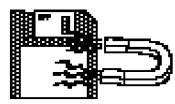
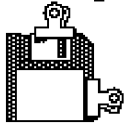
イジェクトボタン



フロッピーディスクアクセスランプ () が点灯しているときにはフロッピーディスクを取り出さないでください。データの破損や本機の故障の原因となります。

フロッピーディスクの取り扱い上の注意

フロッピーディスクが壊れると、大切なデータやソフトウェアが使えなくなります。次のことに注意して大切に取り扱いしてください。

<p>フロッピーディスクドライブには、正しい位置に奥まで静かに挿入してください。</p> 	<p>ラベルは正しい位置に貼ってください。</p> 	<p>使用後は収納箱へ入れて保管してください。</p> 	<p>ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。</p> 
<p>鉛筆での記入や消しゴムの使用は避けてください。</p> 	<p>シャッターは開けないでください。</p> 	<p>フロッピーディスクの上にもものを載せないでください。</p> 	<p>直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど、温度の高くなる場所に置かないでください。</p> 
<p>飲食、喫煙しながらの使用は避けてください。</p> 	<p>溶剤類、飲み物などを近づけないでください。</p> 	<p>磁石などの磁気をおびたものを近づけないでください。</p> 	<p>クリップ等ではさんたり、投げたり、落としたりしないでください。</p> 

フロッピーディスクのフォーマット(初期化)

フロッピーディスクを使うには、フォーマット(初期化)をする必要があります。フォーマットはWindows 95で行うことができます。詳しくはWindows 95のヘルプをご覧ください。

1.44Mバイトフォーマットのフロッピーディスクを使用する際の注意

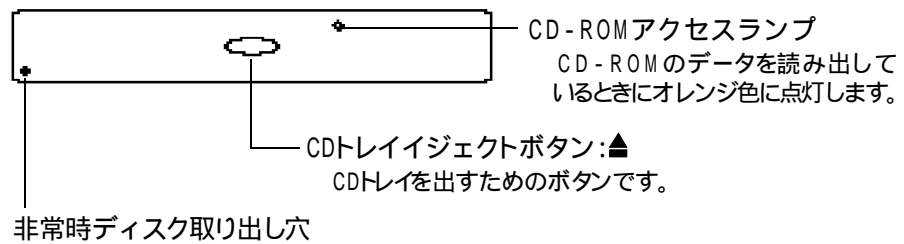
本機で、1.44Mバイトでフォーマットされたフロッピーディスクを使う場合には、次のような制限があります。

- ・システムディスクとしては使用できません。データの読み書き用としてのみお使いください。
- ・2DDタイプの起動ディスクでシステムを起動した場合は、1.44Mバイトフォーマットのフロッピーディスクは使用できません。

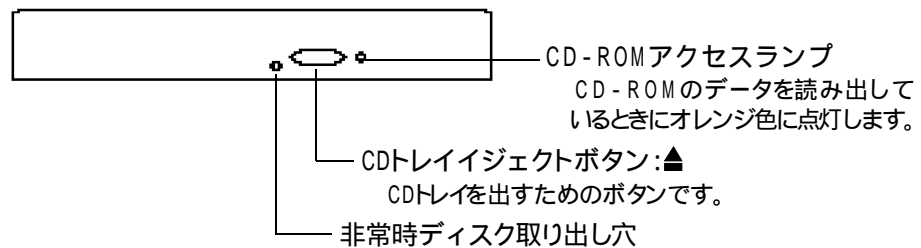
CD-ROMドライブ

CD-ROMドライブの形状はモデルによって異なります。

PC-9821Nw150の場合



PC-9821Nw133の場合


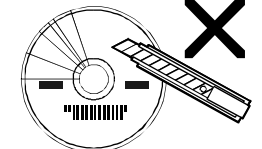


CD-ROMドライブ使用上の注意

- ・ CD-ROMドライブのレンズには触れないでください。
- ・ ラベルが貼ってあるなど、重心バランスの悪いCD-ROMを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じる場合があります。
- ・ CD-ROMアクセスランプが点灯しているときには、CD-ROMを取り出さないでください。本機の故障の原因となります。

CD-ROMを取り扱うときの注意

CD-ROMを壊さないよう、次のことに注意して大切に取り扱いってください。

<p>信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。</p> 	<p>ケースの中央を押しながら取り出してください。</p> 	<p>文字の書かれている面を上にして、CDトレイに正しい向きに置いてください。</p> 	<p>CD-ROMの上にものをのせたり曲げたりしないでください。</p> 
<p>ラベルなどを貼らないでください。</p> 	<p>キズをつけたり字などを書いたりしないでください。</p> 	<p>落として強い衝撃を与えないでください。</p> 	<p>指紋やホコリが付いたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けて拭いてください。</p> 
<p>清掃の際は、CD専用のクリーナーをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナー、ベンジン、シンナーなどは、使わないでください。</p> 	<p>ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。</p> 	<p>直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度が高くなる場所に置かないでください。</p> 	<p>使用後は収納ケースへ入れるようにしてください。</p> 

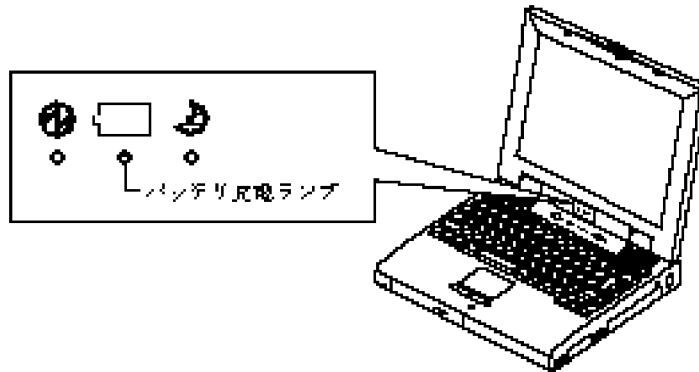
バッテリー

ACコンセントのない場所で本機を使うには、添付のバッテリーパックを使います。

バッテリーの充電.....

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタを接続すると、自動的にバッテリーの充電がはじまります。バッテリーは、電源がOFFの状態でも充電できます。

バッテリー充電中	バッテリー充電ランプがオレンジに点灯
バッテリー充電完了	バッテリー充電ランプが消灯

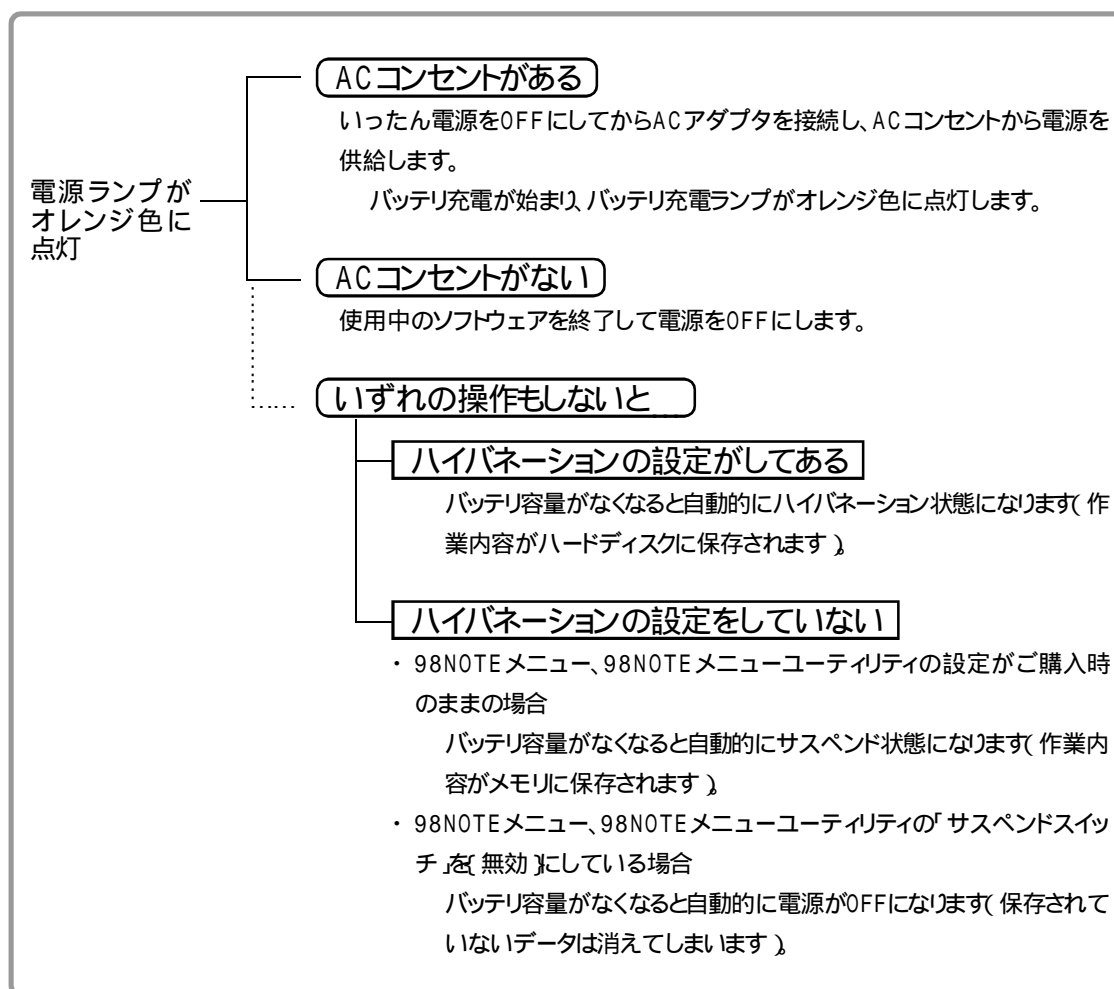


バッテリーパックの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。
バッテリーの充電時間についてはP.180をご覧ください。

バッテリーで使う.....

ACアダプタを接続しない状態で電源をONにすると、本機をバッテリーで使うことができます。バッテリーでの駆動時間についてはP. 180をご覧ください。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなると、電源ランプ(④)がオレンジ色に点灯し、警告音がなります。このような場合は次の操作をしてください。



サスペンドについてはP. 16をご覧ください。ハイバネーションについてはP. 22をご覧ください。

バッテリーの残量を確認する




Windowsでバッテリーの残量を確認することができます。

- ・ タスクバーの  アイコンをポイントして確認する



- ・ タスクバーの  アイコンをダブルクリックして詳細を確認する



 ACコンセントから電源を供給しているときは  は  になります。

バッテリー使用時の注意

- ・ 周囲の温度によって、充電する電池容量が変わります。18～28度での充電をおすすめします。
- ・ 充電中はバッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・ フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源がOFFになってしまうと、作成中のデータが失われるだけでなく、フロッピーディスクやハードディスクのデータが壊れてしまうことがあります。
- ・ Windowsの [スタート ボタン] [設定] [コントロールパネル] [パワーマネージメント] で「Windowsでコンピュータの電源管理をする」を (オフ) にしているときには、バッテリー残量は表示されません。

バッテリーパック交換のめやす

添付のバッテリーパックは充電を繰り返し長期間使用すると自然に充電能力が低下します。このようなときにはバッテリーリフレッシュ機能 (P. 111) を使ってバッテリーの能力を回復させることができます。ただし、次のような症状がでたら、新しいバッテリーパック (PC-9821NR-U02) を購入して交換してください。

- ・バッテリーを満充電しても、使用時間が少ない
- ・バッテリーリフレッシュしても充電可能容量が回復しない

バッテリーパックを交換する

⚠警告



雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

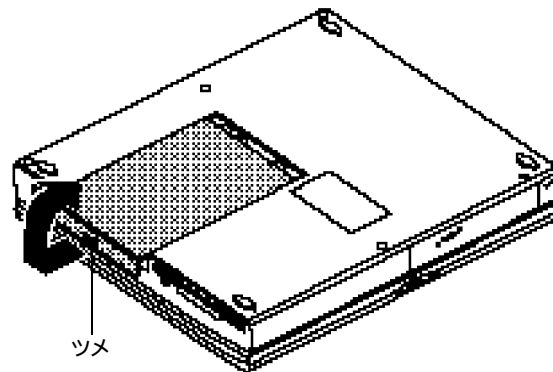
⚠注意



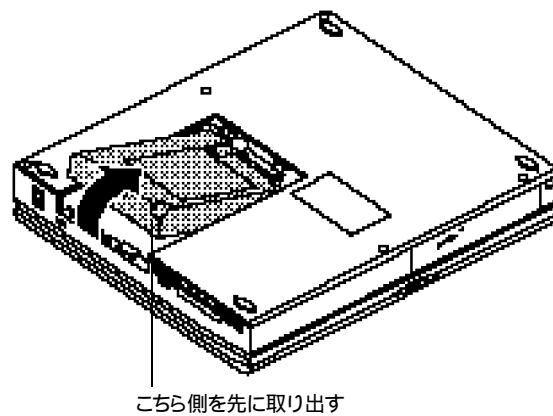
濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

- 1 本機の電源をOFFにします。
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機のフタ (液晶ディスプレイ) を閉じ、本機を裏返します。

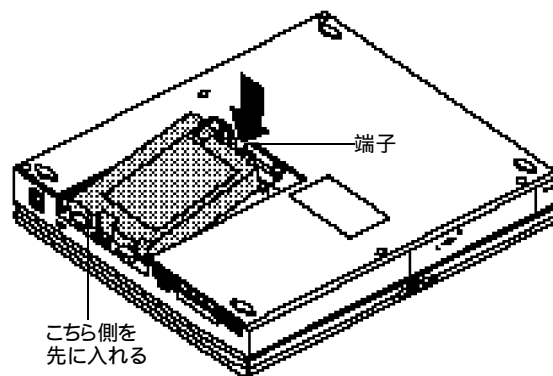
- 5** バッテリスロットカバーのツメ部を押しながらカバーを矢印の方向にスライドさせてから、上方向に取り外します。



- 6** 図のようにしてバッテリーパックを取り外します。



- 7** 新しいバッテリーパックを取り付けます。





バッテリーパックの端子部分には絶対に触らないでください。接触不良の原因になります。

8 手順5で外したカバーを、取り外したときと逆の手順で取り付けます。



- ・ 別売のバッテリーパックに添付のバッテリーケースは、本機では使用しません。
- ・ 不要になったバッテリーパックは地方自治体の条例に従って廃棄してください。

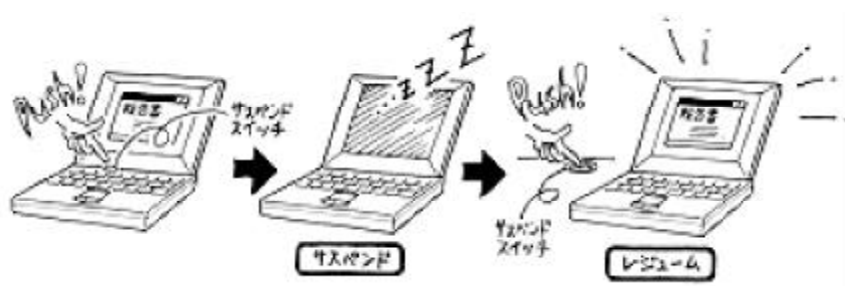
1

本機の機能について

サスペンド/レジューム機能

実行中の作業を一時中断して作業内容をメモリ(RAM)に保存しておく機能をサスペンド機能といいます。また、サスペンド状態にした作業を再開することをレジュームといいます。

サスペンド状態のときにはデータ保存用以外の電源供給が停止されます。



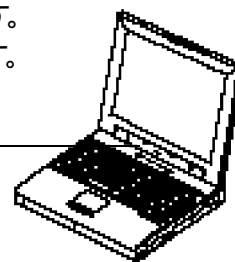
サスペンド/レジュームする.....

サスペンド/レジュームするには次のような方法があります。

サスペンドスイッチを使う

サスペンドするには サスペンドスイッチを押します。
レジュームするには サスペンドスイッチを押します。

サスペンドスイッチ



- ・ サスペンド状態にしてからすぐにもとの状態に戻すときには、本機の負担とならないよう、サスペンドランプ()が点灯してから少なくとも5秒以上の間隔をあけて行ってください。
- ・ サスペンドスイッチを押しながら同時に電源スイッチをスライドさせたときには、サスペンド状態にならずに電源がOFFになってしまうので注意してください。
- ・ 98NOTEメニュー、98NOTEメニューユーティリティで「サスペンドスイッチ」を「無効」にしているときには、この方法でサスペンドできません。

Windowsのスタートメニューを使う

サスペンドするには [スタート]メニューの [サスペンド] をクリックします。
レジュームするには サスペンドスイッチを押します。



[サスペンド] をクリックします

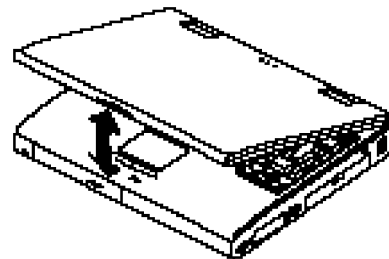
[スタート] ボタンをクリックし、[スタート] メニューを表示させます



- Windowsの [コントロールパネル] [パワーマネージメント] [電源のプロパティ] [パワーマネージメント] で、[Windowsでコンピュータの電源管理をする] を (オフ) に設定しているときには、この方法でサスペンドすることはできません。
- Windowsの [コントロールパネル] [パワーマネージメント] [詳細] [スタートメニューのサスペンドコマンドの表示] を (オフ) にしているときには、スタートメニューに [サスペンド] が表示されません。

液晶ディスプレイの開閉でサスペンド/レジュームする

サスペンドするには 液晶ディスプレイを閉じます。
レジュームするには 液晶ディスプレイを開けます。



この機能を使うには、98NOTEメニューまたは98NOTEメニューユーティリティの「LCD連動サスペンド/レジューム」で設定が必要です(P.117)。





- ・ この設定をした場合は、Windowsの終了処理中にフタ(液晶ディスプレイ)を閉じないでください。
- ・ サスペンド状態にしてからすぐにもとの状態に戻すときには、本機の負担とならないよう、サスペンドランプが点灯してから少なくとも5秒以上の間隔をあけて行ってください。

自動的にサスペンド/レジュームする(オートサスペンド)

サスペンドするには ポインティングデバイスやキーボードからの入力がなく設定した時間が経過すると、自動的にサスペンド状態になります。
レジュームするには サスペンドスイッチを押すと、自動的にレジュームされます。

この機能を使うには、98NOTEメニューまたは98NOTEメニューユーティリティの「オートサスペンド」で設定が必要です(P.117)。また、この機能はWindowsで設定することもできます。Windowsでは、自動的にレジュームするように設定することもできます。

Windowsのコントロールパネルからの設定方法

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[パワーマネジメント]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [SLエンハンスドオプション]ボタンをクリックします。



- 3 [自動中断]の欄で、[?分後]をクリックしにし、何分後にオートサスペンドにするかを選びます。



設定できる時間は5、9、13、17、21、25、29分のみです。これ以外の時間を設定したときは、この値にくり上がって実行されます。

- 4 [再開]の欄で、[日付/時刻で指定]をクリックして☑にします。
- 5 レジュームしたい日にちと時間を入力します。
- 6 [OK]ボタンをクリックします。
- 7 さらに[OK]ボタンをクリックします。



電話やFAXでレジュームする

レジュームするには 電話やFAXを受信すると自動的にレジュームします。

この機能を使うには、Windowsでの設定が必要です。



この機能は内蔵のモデムを使用しているときのみ有効です。

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[パワーマネージメント]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [SLエンハンスドオプション]ボタンをクリックします。



- 3 [再開]の欄で、[モデムリングで指定]のチェックボックスをクリックして☑にします。
- 4 [OK]ボタンをクリックします。
- 5 さらに[OK]ボタンをクリックします。


サスペンド/レジュームするときの注意.....

こんなときはサスペンドしないでください

- ・プリンタへ出力中のとき
- ・赤外線通信をしているとき(赤外線通信用のアプリケーションソフト実行中)
- ・音声再生中
- ・動画再生中
- ・フロッピーディスクアクセス中
- ・CD-ROMアクセス中
- ・ハードディスクアクセス中
- ・電話回線を使って通信しているとき
- ・通信用のアプリケーションソフト実行中
- ・Windows95の終了処理中
- ・PC-9801-106またはPC-9801-119以外の外付けキーボードを使用しているとき
- ・サスペンド機能に対応していないアプリケーションソフトを使用しているとき
- ・サスペンド機能に対応していないIPCカードを使用しているとき
- ・16ビットPCカードサポートを使用しているとき(P.80)



オートサスペンドするときには、必ず次の手順でWindowsの[CD-ROM自動挿入]の機能をオフにしてください。オンのままではオートサスペンドできない場合があります。

- 1 [スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル] の順にクリックし [システム] アイコン  をダブルクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ] タブをクリックします。
- 3 [CD-ROM] アイコンの前の + をクリックします。
- 4 表示されたCD-ROM名をクリックします。
- 5 [プロパティ] ボタンをクリックします。
- 6 [設定] タブをクリックします。
- 7 [自動挿入] のチェックボタンをクリックし (オフ) にします。
- 8 [OK] ボタンをクリックします。

サスペンド処理中の注意

フロッピーディスクやCD-ROM、PCカードの入れ替えなど、本機の環境を変更しないでください。サスペンドできなくなります。

サスペンド状態のときの注意

- ・ サスペンド状態のときに機器構成を変更すると、レジュームできなくなることがあります。
- ・ サスペンド状態のときに電源スイッチをスライドさせても本機の状態は変わりません。

こんなときはサスペンドしたデータが消えてしまいます

- ・ ACアダプタが未接続でバッテリーが消耗したとき
- ・ 98NOTEメニューを起動したとき

レジューム処理中の注意

- ・ フロッピーディスクやCD-ROM、PCカードの入れ替えなど、本機の環境を変更しないでください。レジュームできなくなります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDを入れたままサスペンドしたときは、レジュームに若干時間がかかることがあります。

「RESUME FAILURE」とは

サスペンド/レジュームに対応していないアプリケーションソフトを使用している最中にサスペンドしたとき、レジューム後に「RESUME FAILURE」と表示されることがあります。これは、レジューム処理がうまくいかなかったことを表すメッセージです。


このようなアプリケーションソフトを使用しているときは、サスペンド/レジューム機能を使わないでください。

ハイバネーション機能

電源OFFと同時に実行中の作業の内容をハードディスクに自動的に保存することを「ハイバネーション状態にする」といいます。

サスペンドと異なり、バッテリーが消耗してもデータの消失の心配はありません。




-  本機をバッテリー駆動で使用しているときにハイバネーションを使用するように設定しておく、バッテリーの容量がなくなったときに自動的にハイバネーション状態になります。バッテリーの容量がなくなってデータが消えてしまわないよう、バッテリー駆動時にはハイバネーション機能を使用するように設定しておくことをおすすめします。
- ハイバネーション機能は、本機にインストールされているWindows 95でのみ使用できます。市販のWindows 95では使用できません。
- 市販のWindows 3.1とMS-DOS 6.2でハイバネーション機能を使うにはOSのアップグレードが必要です(『再セットアップガイド』)。

ハイバネーションを使えるように設定する.....

ハイバネーション機能を使うには、あらかじめ「^{ハイバネーション}Hibernation設定ユーティリティ」での設定が必要です。

「Hibernation設定ユーティリティ」では、ハードディスク内にハイバネーションのための空き容量があるかどうかをチェックし、ハイバネーション時にデータを保存するための一時待避ファイルを作成することができます。

 Hibernation設定ユーティリティはMS-DOSモードで起動します。Windows 95のMS-DOSプロンプト・ウィンドウでは実行することはできません。必ず次の手順で操作してください。

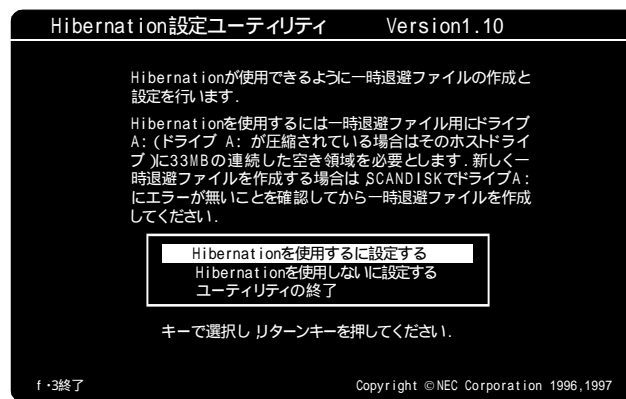
- 1 [スタート]ボタン [Windowsの終了]の順にクリックします。
- 2 [MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]をクリックします。
- 3 [はい]ボタンをクリックします。

本機がMS-DOSモードで再起動します。

4 キーボードから次のように入力します。

HIBER 

5 次の画面が表示されたら、キーボードの を押して反転表示を「Hibernationを使用するに設定する」に移動します。



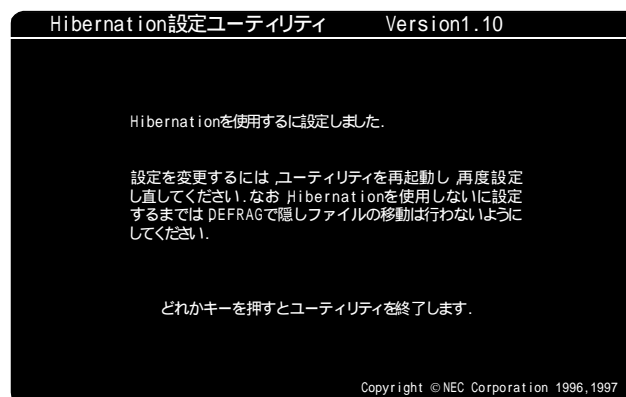
6 を押します。



ハードディスクの空き容量が不足しているというメッセージが表示されたときには、画面の指示に従ってハードディスクの空き容量を確保したあと、手順1からやりなおしてください。必要なハードディスクの空き容量の目安は「本機に搭載されているメモリ容量 + 1Mバイト」です。

その他のエラーメッセージが表示された場合は、それぞれ画面の指示に従って処置したあと手順1からやりなおしてください。

7 次の画面が表示されたら、キーボードのキーをどれか押します。



Hibernation設定ユーティリティが終了します。

- 8** 本機の電源をOFFにして、5秒以上間隔をあけてから再度電源をONにします。
これでハイバネーション機能が使えるようになります。

ハイバネーション状態にする.....

ハイバネーション状態にするには 電源スイッチをスライドさせます(Windowsを終了させる必要はありません)
もとの状態に戻すには 電源スイッチをスライドさせます。



- ・ 電源のON/OFFを連続して行くと、本機の負担になります。電源のON/OFFは、電源ランプが消灯してから少なくとも5秒以上の間隔をあけて行ってください。
- ・ Windowsの[コントロールパネル][パワーマネジメント][電源のプロパティ][パワーマネジメント]で、[Windowsでコンピュータの電源管理をする]を□(オフ)に設定しているときには、ハイバネーション状態にすることはできません。
- ・ Windows95のMS-DOSモードではハイバネーション機能は使用できません。MS-DOSモードで電源スイッチをスライドすると、ハイバネーションが実行されずに電源がOFFになってしまうので注意してください。
- ・ サスペンドスイッチを押しながら同時に電源スイッチをスライドさせたときには、ハイバネーション状態になりません。
- ・ ハイバネーション機能が設定されていない状態で電源スイッチをスライドさせると、Windowsを終了してよいかどうか確認のメッセージが表示されます。

ハイバネーション状態にするときの注意.....

こんなときはハイバネーションしないでください

- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 赤外線通信をしているとき(赤外線通信用のアプリケーションソフト実行中)
- ・ 音声再生中
- ・ 動画再生中
- ・ フロッピーディスクアクセス中
- ・ CD-ROMドライブアクセス中
- ・ ハードディスクアクセス中
- ・ 電話回線を使って通信しているとき
- ・ 通信用のアプリケーションソフト実行中
- ・ カスタム再セットアップを実行し、「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)」で「Y」を選んだとき
- ・ PC-9801-106またはPC-9801-119以外の外付けキーボードを使用しているとき
- ・ ハイバネーション機能に対応していないアプリケーションソフトを使用しているとき
- ・ ハイバネーション機能に対応していないPCカードを使用しているとき
- ・ 16ビットPCカードサポートを使用しているとき

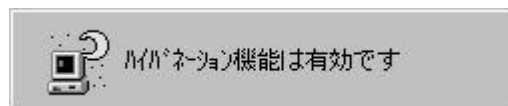
1


本機の機能について



ハイバネーション機能の有効/無効を表示する

次の設定をしておくと、次にWindowsを起動したときにハイバネーション機能の有効か無効かを表示させることができます。



- 1** [スタート] [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[ハイバネーション アイコン - 2** [ハイバネーション機能の有効/無効を表示する]のチェックボックスをクリックして (オン)にします。
- 3** [OK] ボタンをクリックします。

こんなときはハイバネーションしたデータが消えてしまいます

98NOTEメニューを起動したときはハイバネーションしたデータが消えてしまいます。

ハイバネーション処理中の注意

フロッピーディスクやCD-ROM、PCカードの入れ替えなど、本機の環境を変更しないでください。ハイバネーションができなくなります。

ハイバネーション状態のときの注意

ハイバネーション状態のときに機器構成を変更すると、データを復元できなくなることがあります。

データ復元中の注意

フロッピーディスクやPCカードの入れ替えなど、本機の環境を変更しないでください。データを復元できなくなります。

こんなときは再設定が必要です

次のようなときはHibernation設定ユーティリティでの再設定が必要です。


- ・ メモリボードの取り付け/取り外しをしたとき
- ・ 再セットアップを実行したとき
- ・ ハードディスクからハイバネーション用の一時待避ファイルを削除したとき

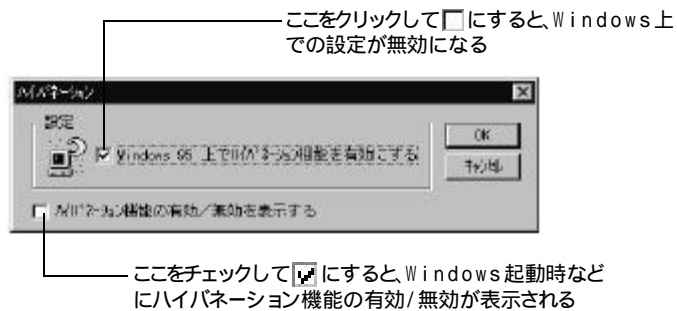
ハイバネーション機能の有効/無効を切り替える..


ハイバネーション機能を無効にする

ハイバネーション機能を無効にするにはHibernation設定ユーティリティで設定します。ただし、Windowsでハイバネーション機能を使用しているときには、Hibernation設定ユーティリティを起動しなくても、ハイバネーション機能を無効にすることができます。

Windowsでハイバネーションの有効/無効を切り替える



- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[ハイバネーション]アイコンをダブルクリックします。
- 2 次のような画面が表示されたら、「Windows95上でハイバネーション機能を有効にする」のチェックボックスをクリックして有効/無効を切り替えます。



-  ハイバネーション機能が有効に設定されていない場合はこのチェックボックスは選択できない状態になっています。

- 3 [OK]ボタンをクリックします。

「CPUの速度調整」の設定のしかた

- 1 [スタート]ボタン-[設定]-[コントロールパネル]の順にクリックします。
- 2 [パワーマネージメント]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [SLエンハンスドオプション]ボタンをクリックします。
[SLエンハンスドオプション]が表示されます。
- 4 [CPU速度]の欄で速度を選び[OK]ボタンをクリックします。



ここでCPUの速度を選びます。

ディスプレイの節電

「液晶ディスプレイ自動停止」、「低電力スタンバイ」、「電源断」の三種類の省電力機能があります。

液晶ディスプレイ自動停止

ポインティングデバイスやキーボードからの入力がなく設定時間が経過すると、自動的に液晶ディスプレイの表示が真暗になり、節電モードになる機能です。何か作業をするともとに戻ります。

この機能は、98NOTEメニューまたは98NOTEメニューユーティリティの「液晶ディスプレイ自動停止」で設定します(P.116)。

この機能は別売のディスプレイでは使えません。


低電力スタンバイ

ポインティングデバイスやキーボードからの入力がなく設定時間が経過すると、自動的にディスプレイの表示が真暗になり、節電モードになる機能です。何か作業をするともとに戻ります。パワーマネジメント対応の別売のディスプレイでも使えます。この機能は、Windowsのコントロールパネルで設定します。

電源断

ポインティングデバイスやキーボードからの入力がなく設定時間が経過すると、自動的にディスプレイの電源がオフになる機能です。本機の液晶ディスプレイの場合は、何か作業をするともとに戻ります。別売のディスプレイの場合は、再度ディスプレイの電源をオンにしないする必要があります。この機能は、Windowsのコントロールパネルで設定します。

「低電力スタンバイ」と「電源断」の設定のしかた

- 1 [スタート]ボタン-[設定]-[コントロールパネル]の順にクリックし、[画面]アイコンをダブルクリックします。
[画面のプロパティ]が開きます。
- 2 [スクリーンセーバー]タブをクリックします。



低電力スタンバイ
ここをクリックしてにしてから
時間を設定します。

電源断
ここをクリックしてにしてから
時間を設定します。



ディスプレイの節電機能を使うときには、必ずWindowsの[CD-ROM自動挿入]の機能をオフにしてください。オフにしないと節電機能が働かない場合があります(P. 20)

ハードディスクの節電.....

「内蔵ハードディスク自動停止」「ディスクドライブの省電力モード」の二種類の省電力機能があります。

内蔵ハードディスク自動停止

ポインティングデバイスやキーボードからの入力がなく設定時間が経過すると、自動的にハードディスクを停止する機能です。何か作業をするともとに戻ります。この機能はWindows 95以外のOSで本機を利用するときに設定できます。

この機能は、98NOTEメニューまたは98NOTEメニューユーティリティの「内蔵ハードディスク自動停止」で設定します(P. 116)。

ディスクドライブの省電力モード

ポインティングデバイスやキーボードからの入力がなく設定時間が経過すると、自動的にハードディスクのモータを停止する機能です。何か作業をするともとに戻ります。

この機能は、Windowsのコントロールパネルで設定します。

「ディスクドライブの省電力モード」の設定のしかた

1 [スタート ボタン] [設定] [コントロールパネル] の順にクリックし、[パワーマネジメント アイコン] をダブルクリックします。

2 [ディスクドライブ] タブをクリックします。



本機の電源をACコネクタから取っているとき、ハードディスクのモータを停止させるまでの時間を設定します。

本機の電源をバッテリーから取っているとき、ハードディスクのモータを停止させるまでの時間を設定します。



- ・ 本機をWindows 95で使うときには「内蔵ハードディスク自動停止」は設定しないでください。
- ・ ハードディスクの節電機能を使うときには、必ずWindowsの[CD-ROM 自動挿入]の機能をオフにしてください。オフにしないと節電機能が働かない場合があります(P. 20)。

セキュリティ機能

セキュリティ機能は、本機の不正使用やデータの盗難を防止するための機能です。ただし、セキュリティ機能を設定してあっても「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの取り扱いには十分ご注意ください。

パワーオンパスワード

本機起動時にパスワード入力画面を表示する機能です。パスワードを知らない人が無断で本機を使用するのを予防することができます。パワーオンパスワードは98NOTEメニューの「パワーオンパスワード」で設定します（P.119）。

セットアップパスワード

98NOTEメニュー起動時にパスワード入力画面を表示する機能です。パスワードを知らない人が無断で98NOTEメニューの設定を変更するのを予防することができます。セットアップパスワードは98NOTEメニューの「セットアップパスワード」で設定します（P.120）。

I/Oロック

シリアルインターフェイス、赤外線通信機能、プリンタ、フロッピーディスクドライブを使用不可に設定する機能です。プログラムやデータの不正流出を予防することができます。I/Oロックは98NOTEメニューの「セキュリティの設定」のそれぞれの項目で設定します（P.123）。



- ・ I/Oロックを使用するときには必ずセットアップパスワードを設定してください。
- ・ I/OロックはWindows3.1、Windows95、WindowsNT3.51/4.0、OS/2にのみ対応しています。
- ・ MS-DOS用のアプリケーションソフトではI/Oロック機能は使えません。

セキュリティ機能の使用例

利用者以外が本機の設定を管理したい場合

日常的に本機を使用する人とは別の人が本機の設定を管理したい場合、はじめに管理者がセットアップパスワードとパワーオンパスワードの両方を設定しておき、パワーオンパ

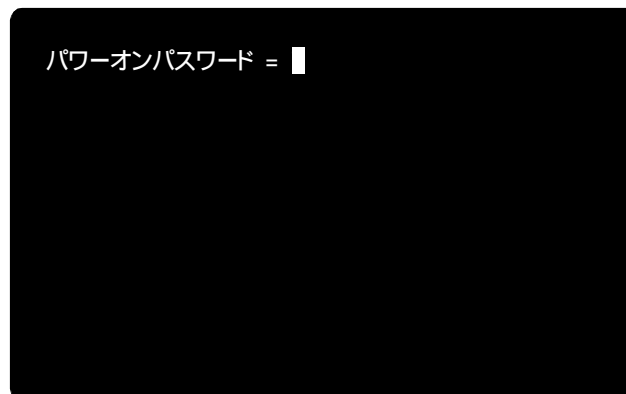
パスワードのみを各利用者に通知します。この設定により、管理者以外が98NOTEメニューの設定を変更することができなくなり、管理者と利用者以外は本機の起動ができなくなります。

利用者自身が本機の設定を管理したい場合

日常的に本機を使用する利用者が98NOTEメニューの設定も自由に行いたい場合、利用者がパワーオンパスワードとセットアップパスワードの両方を設定します。この設定により、利用者以外は本機を起動したり98NOTEメニューの設定を変更したりできなくなります。

パワーオンパスワード設定時の電源のON.....

パワーオンパスワードを設定している場合は、本機の電源スイッチをスライドさせると電源ランプが点灯し、次のような画面が表示されます。



- 1 キーボードから、設定されているパスワードを入力します。



パスワードの入力中にキーボードの [BS] を押しても、文字を修正することはできません。



パワーオンパスワードとセットアップパスワードの両方が設定されているときには、どちらのパスワードを入力しても本機を起動することができます。

- 2 キーボードの [Enter] を押します。

正しいパスワードが入力されると、メモリチェックのあとWindowsが起動します。



- ・ 誤ったパスワードが入力されると「パスワード不一致」と表示されます。正しいパスワードを入力してください。
- ・ パスワードの入力に3回失敗すると「パスワードエラー」と表示され、「ピー」という警告音の後、自動的に電源がOFFになりますので、最初からやり直してください。



- ・ セットアップパスワードを設定しているときの98NOTEメニューの起動方法については、P. 103をご覧ください。
- ・ パスワード設定中にハイバネーション状態にしたときも、上記と同じ手順で本機を起動してください。
正しいパスワードが入力されると、保存されていた内容が復元されます。

パワーオンパスワード設定時のレジューム

パワーオンパスワードを設定しているときにサスペンド状態にした場合には、サスペンドスイッチを押すと電源ランプが点灯し、「ピッピッピッ」と警告音が鳴ります。画面には何も表示されません。

- 1 キーボードから、設定されているパスワードを入力します。



パスワードの入力中にキーボードの **[BS]** を押しても、文字を修正することはできません。



パワーオンパスワードとセットアップパスワードの両方が設定されているときには、どちらのパスワードを入力してもレジュームすることができます。

- 2 キーボードの **[Enter]** を押します。

正しいパスワードが入力されるとレジュームされ、サスペンドの内容が表示されます。



- ・ 誤ったパスワードが入力されると「ピーピッピッ」と警告音が鳴ります。正しいパスワードを入力してください。
 - ・ パスワードの入力に3回失敗すると「ピー」という警告音のあと、自動的にサスペンド状態に戻りますので、最初からやり直してください。
-

通信機能

インターネットや電子メールなど内蔵モデムを使った通信機能を使うには、添付のモジュラーケーブルで本機と電話回線を接続する必要があります。

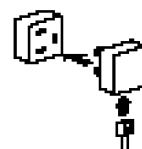
電話回線を接続する前に.....

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。
電話回線を接続する前に、使用する場所の電話回線の種類を確認してください。

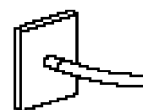
・モジュラージャック式
添付のモジュラーケーブルで接続できます。



・3ピンプラグ式コンセント
市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、
NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。



・直結配線方式
モジュラー式コンセントに変更する必要があります。
NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。



内蔵のFAXモデムボードは加入電話回線に適合するように設定されています。
加入電話回線以外と接続すると、内蔵のFAXモデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

電話回線を接続する.....

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

1

本機の機能について

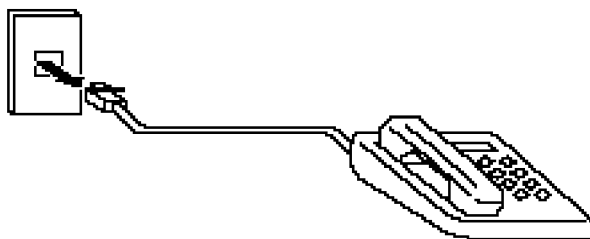
⚠注意



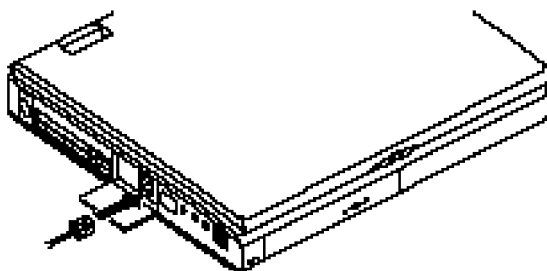
モジュージャックの端子に触れないでください。

電話回線と接続しているモジュージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

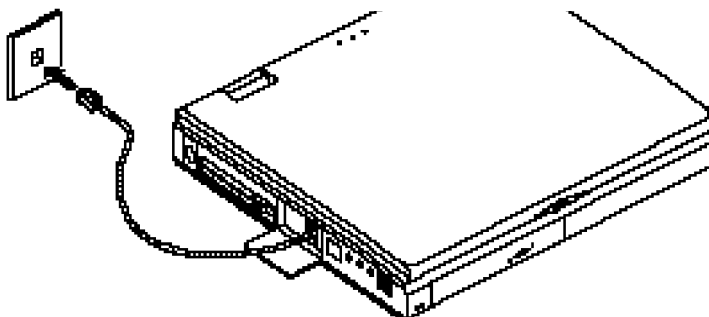
- 1** 本機の電源をOFFにし、電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。
- 2** 本機からACアダプタを取り外します。
- 3** 電話機のモジュラーケーブルを、モジュラープレートなどから取り外します。



- 4** 本機のモジュラーコネクタのカバーを開け、添付のモジュラーケーブルの一方をモジュラーコネクタに接続します。



- 5** モジュラーケーブルのもう一方をモジュラープレートなどに接続します。



通信機能使用上の注意

- ・ 本機では、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信、留守番電話機能、スピーカホン機能(ハンズフリー機能)の各機能が使えますが、これらの機能は添付のソフトウェア以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については『アプリケーション操作ガイド』『インターネットスタートガイド』をご覧ください。
- ・ 付属のソフト「BitWare」を使用してFAX情報サービスを利用する場合、市販の二股の中継アダプタと電話機が必要となります。
- ・ 98NOTEメニューの「動作環境の設定」の「サウンド」を「使用しない」にすると、留守番電話機能やスピーカホン機能は使用できません。
- ・ 内蔵FAXモデムボードはファクシミリ通信網には対応していません。
- ・ スピーカホン機能をご使用の際、回線の接続場所や状態により内蔵スピーカからの音量が小さくなる場合があります。このような場合は、ヘッドホンやイヤホン、または外付けスピーカのご使用をおすすめします。また、スピーカホン機能を使うときには内蔵または外付けのマイクロホンのご使用をおすすめします。
- ・ スピーカホン通話中に相手側からの肉声以外の音(保留音など)が入るとスピーカからの音が大きくなったり、小さくなったりすることがあります。その場合、送話の音量レベルを下げてください。
- ・ 加入電話回線がトーン式かダイヤル式かわからないときにはNTTに確認してください。
- ・ 回線の状態によっては接続しにくい場合があります。
- ・ 内蔵FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号にあわせた調整が必要です。(付録のATコマンド一覧の「ダイヤルパルススピードの設定」をご覧ください。)
- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れてしまいます。
- ・ コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・ 回線の状態により、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・ 回線の状態によっては希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでファクシミリの通信ができないことがあります。この場合は、通信速度を9600bpsにしてください。

1

本機の機能について


- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルはご購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪くうまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。



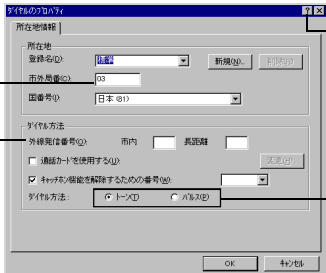
ダイヤルの設定

ダイヤルの設定を確認したり変更したりしたいときには、Windowsのコントロールパネルでダイヤルの設定を確認することができます。

設定について詳しくはヘルプをご覧ください。

- 1 [スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル] の順にクリックします。
- 2 [モデム アイコン]  をダブルクリックします。
- 3 [ダイヤルのプロパティ] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。



お使いの場所の市外局番を入力します。

外線を使用している場合は入力します。

各項目の設定について詳しく知りたい場合は、このアイコンをクリックした後で、目的の項目をクリックするとヘルプが表示されます。

お使いの電話回線を選択します。プッシュ回線を使用するときは「トーン」、ダイヤル回線を使用するときは「パルス」に設定してください。なお、お使いの電話回線がわからない場合はNTTにお問い合わせください。


赤外線通信機能

赤外線通信とは、ケーブルを接続せずに赤外線でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA SIR Data Link Std. に準拠した赤外線通信ができます。本機には、赤外線通信用のアプリケーションソフト「TranXit」がインストールされています。赤外線通信を行うには、次の各設定が必要です。

1

本機の機能について


赤外線通信機能を使えるように設定する.....

- 1 98NOTEメニューを起動します(P. 102)
- 2 「入出力デバイスの設定」の「赤外線通信機能」を使用するにします(P. 118)。また、「セキュリティの設定」の「赤外線通信機能I/Oロック」が設定されているときに、設定しないに、「入出力デバイスの設定」の「モデム」が使用しないになっているときに、使用しない以外にしてください。
- 3 98NOTEメニューを終了します(P. 109)
Windowsが起動します。
- 4 [スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル] の順にクリックします。
- 5 [コントロールパネル] にある [システム アイコン ] をダブルクリックします。
[システムのプロパティ] ウィンドウが表示されます。
- 6 [デバイスマネージャ] タブをクリックした後、[ポート (COM と LPT)] の [FIR (NAFIRL001)] をダブルクリックします。



- 7 [情報] タブの「デバイスの使用」の「このハードウェア環境で使用不可にする」チェックボックスをクリックして (オフ) にし、[OK] ボタンをクリックします。

8 再起動するようメッセージが表示された場合は再起動してください。メッセージが表示されない場合は [システムプロパティ] ウィンドウの [閉じる] ボタンをクリックします。

9 [コントロールパネル] にある [システム アイコン ] をダブルクリックします。
[システムのプロパティ] ウィンドウが表示されます。

10 [デバイスマネージャ] タブをクリックした後、[ポート(COMとLPT)] の前の + をクリックし [FIR(NAFIRL001)] が接続されているCOMポートを確認します。



この番号
を確認する

確認がすんだら [OK] ボタンをクリックします。

11 [スタート] ボタン [プログラム] [TranXit] [TranXit] の順にクリックします。
TranXitが起動します。

12 「セットアップ」メニューの「接続設定」をクリックします。

13 [接続の設定] ボタンをクリックし、[赤外線デバイスの設定] ウィンドウでポートリストから [FIR(NAFIRL001)] が接続されているCOMポートを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



14 [接続の設定] ウィンドウで [OK] ボタンをクリックします。

異なる機器との通信には、両装置間の通信に対応したソフトウェアが必要です。



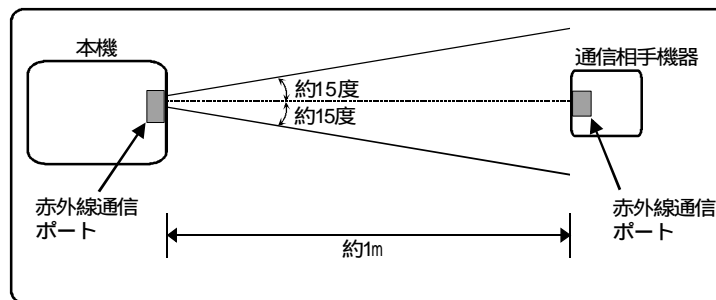
バッテリーのみで本機を使用中に赤外線通信機能を利用する場合は、通信を行う前にWindowsでCPU速度を100%に設定してください(P.29)。この操作を行わずに赤外線通信すると、本機の動作が停止し、データが失われる場合があります。

1

本機の機能について

機器の配置について

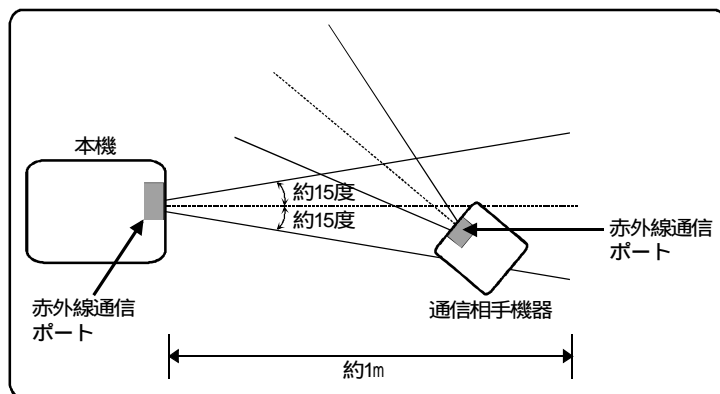
本機で赤外線通信を行う場合には、通信を行う機器を次のように配置してください。



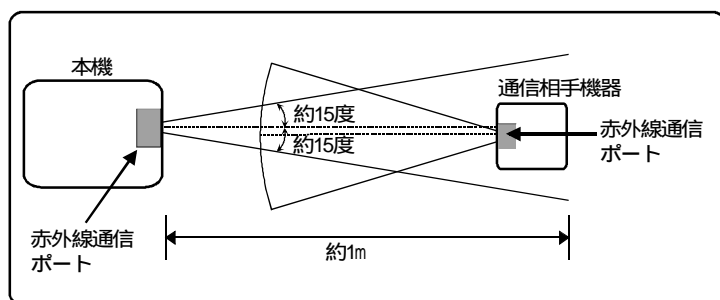
- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにしてください。
- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にしてください。

通信相手の機器が本機の通信可能範囲内にあっても、次のような場合には通信できません。

通信相手機器の赤外光が本機に届かない



通信相手機器の通信可能距離が本機より短い



このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面でも向きあわせ、できる限り近くに置いてください。

なお、このとき装置どうしは接触させないようにしてください。

その他の注意事項については、通信相手機器のマニュアルをご覧ください。



- ・ 赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしないように注意してください。
- ・ 本機の赤外線通信ポートの指向性としては約15度程度の余裕がありますが、この角度が広がるにつれ、通信可能距離は短くなります。
- ・ 互いの機器どうしを接触させないようにしてください。
- ・ 通信相手機器と本機の間には物を置かないでください。
- ・ 次のようなときには通信可能距離が短くなることがあります。
 - 直射日光や蛍光灯の直下
 - 異なる機器との接続時(相手の機器の性能に依存します)
 - 機器どうしが正しく向き合っていないとき
 - 他の赤外線通信機器の近く
 - ノイズを発生する機器の近く
 - 通信相手機器がIrDA規格に準拠していない場合

サウンド機能

本機には次のようなサウンド機能が搭載されています。

- PCM 録音 / 再生機能
- FM 音源機能
- MIDI 音源機能

音量を調節する

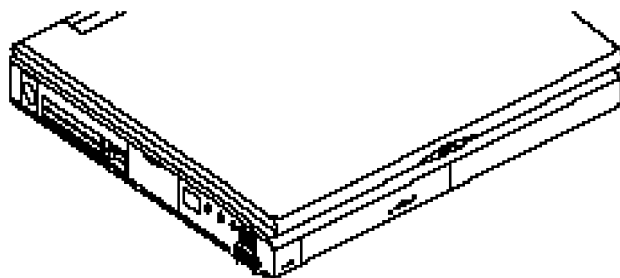


スピーカのボリュームを最小にしていると、各種の警告音が鳴りません。スピーカのボリュームはなるべく最小にしないでください。

1
本機の機能について

音量調節つまみで音量調節する

本機の音量調節つまみを奥へまわすと音が大きくなり、手前にまわすと小さくなります。



Windows で音量調節する

[スタート ボタン [プログラム] [アクセサリ] [マルチメディア] [ボリュームコントロール] の順にクリックします。

[ボリュームコントロール] の画面が表示されます。

このつまみを上にドラッグすると音量が大きくなり、下にドラッグすると小さくなります。

ZV ポート対応の PC カードを使ったときの音量を調節することができます。

(オン) にすると全ての音声が消えます。
 (オフ) にするとともに戻ります。

項目ごとの音量調節

ボリュームコントロールでは、項目ごとの音量調節が可能です。

ボリュームコントロールの画面で「オプション」「プロパティ」を選び、「録音」「再生」「その他」のどれかを選ぶと、それぞれの機能で調整可能な項目のみがボリュームコントロールの画面に表示されるようになります。

項目名	音量の調整の種類別			機能
	再生	録音	その他	
ボリュームコントロール				スピーカシステムから出力されているすべての音量を調整します。
Compactdisc				CDから出力される音量を調整します。
WAVE				WAVE データなどのPCM 音源、またはMIDI 音源 VSC 88 を使用して出力される音量を調整します。
FMSynthesizer				FM音源 YMF715 互換FM Synthesizer を使用して出力される音量を調整します。
ライン入力				オーディオ入力端子に接続されている機器から入力される音を、スピーカから出力するとき、または録音するときの音量として調整します。
マイク				マイクロホン端子に接続されているマイクロホンから入力される音を、スピーカから出力するとき、または録音するときの音量として調整します。
Television				TVから出力される音量を調整します(本機では使用できません)
Telspeaker				FAXモデムボードから入力される音を、スピーカから出力するときの音量として調整します(本機では使用できません)
Auxiliary				AUX(TV, CD)から出力される音を録音するときの音量を調整します。
ループバック				スピーカシステムから出力されているすべての音を録音するときの音量を調整します。
Wide Stereo				スピーカシステムから出力されている音のワイドステレオ効果を調整します。

:選択可能

トーンを調整する

本機には、トーン調整機能が内蔵されています。Windows 95では次の手順でトーン調整を行うことができます。

- 1 [スタート]ボタン-[プログラム]-[アクセサリ]-[マルチメディア]-[ボリュームコントロール]の順にクリックします。

[ボリュームコントロール]ウィンドウが表示されます。

- 2 [ボリュームコントロール]の全ミュートの下に[トーン]ボタンが表示されていない場合は、[オプション]メニューの[トーン調整]をクリックします。

[トーン]ボタンが追加されます。

- 3 [トーン]ボタンをクリックします。

[ボリュームコントロールの詳細設定]ウィンドウが表示されます。

- 4 [トーン調整]の[低音]または[高音]のコントロールバーをドラッグします。

[低音]のコントロールバーをドラッグすると低音を、[高音]のコントロールバーをドラッグすると高音を調節することができます。



低音も高音も「高」の方にドラッグすると強調されます。

- 5 設定が終わったら、[閉じる]ボタンをクリックします。

- 6 [ボリュームコントロール]ウィンドウの[X]をクリックします。


ウィンドウが閉じます。

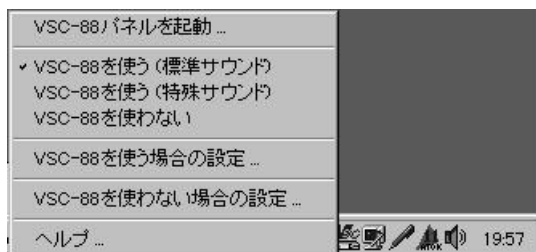
1

本機の機能について




サウンドデバイスの切り替え

VSC 88 を使うには

使用するサウンドデバイス(VSC 88)を切り替えるには、タスクバーのアイコンを使います。MIDI音源を使ったゲームなどで出力されない音があるときには、VSC 88を使う/使わないを切り替えることによって音を出力することができるようになります。タスクバーに表示されているをクリックすると次のようなメニューが表示されます。表示された項目の中から目的の項目をクリックしてください。ボリュームコントロールが切り替わります。




詳しくは、メニューから「ヘルプ」をクリックして表示されるVSC 88のヘルプ画面から、「VSC 88ヘルパーアイコンの使い方」をご覧ください。

 「VSC-88を使う(標準サウンド)」または「VSC-88を使う(特殊サウンド)」を選択すると、タスクバーに表示されるアイコンはになります。「VSC-88を使わない」を選択するとになります。

MIDI音源を使うには


MIDI音源(入力/出力)を使うには、次のように設定します。

 どのMIDI音源が使用可能かは、「コントロールパネル」の「デバイスマネージャ」の画面で確認できます。赤い×マークがついているのが使用できないMIDI音源です。

1 「PCI-1130 Card Bus Controller PCIステアリング用IRQホルダー」の割り込みレベルをIRQ10から他の割り込みへ移します。詳しい方法についてはWindowsのヘルプをご覧ください。

- 2** 98NOTEメニューを起動して「MIDIの割り込み」の設定を使用する音源によって次のように設定してください。

使用する音源	98NOTEメニューの設定
MIDI入出力(MIDI IN/OUT)	{使用する}
MIDI出力(MIDI OUT)のみ	{使用しない}

- 3** 98NOTEメニューを終了してWindows 95を起動します。
- 4** [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
- 5** [システム アイコン ]をダブルクリックします。
- 6** [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 7** [サウンド、ビデオおよびゲームコントローラ]をクリックします。
- 8** [YMF715互換MPU401Out]または[YMF互換MPU401]がある場合は [削除]ボタンをクリックし、画面の指示にしたがってドライバを削除します。
- 9** [更新]ボタンをクリックします。

自動的にドライバが組み込まれます。

これでMIDI音源が使えるようになります。

サウンド機能利用上の注意

本機では、内蔵のサウンド機能、または別売のPCカードを増設して、Windows 95上でマルチメディア機能を利用することができます。

利用できるマルチメディアの各機能、必要な周辺機器について次の表に示します。

ウェーブフォームデータの録音、再生	
MIDIデータの再生	注2
MIDIデータの録音	注1

： 本体内蔵のサウンド機能で利用できます。

： オプション機能の増設で利用できます。

注1： 外部MIDI音源*を使用する場合はMIDI/JOYSTICK変換ケーブルA/B(PC-9821N-K07, PC-9821N-K08)をプリンタコネクタに接続することにより、利用できます。

*外部MIDIデータ音源は、GENERAL MIDI規格対応音源の使用を推奨します。

注2： FM音源での再生およびソフトウェアMIDIによる再生が可能です。



- ・ MIDIデータの録音を行うには、別途アプリケーションソフトが必要です。
- ・ MIDIデータの再生をFM音源で行う場合、同時に再生できる音の数が限られているため、再生できないデータがあります。
- ・ MIDIデータの再生をFM音源で行う場合、外部MIDI音源をつないだ場合よりも音質が悪くなります。
- ・ 淡色表示されているコントロールは、ハードウェアにその機能がないため使用できません。
- ・ 内蔵のFM音源でMIDIデータを再生する場合、外部MIDI音源をつないだ場合に比べ、音質が劣ります。また、同時に再生できる音の数が限られるため、再生できないデータもあります。
- ・ アプリケーションソフトの中には「MIDI演奏」の機能と「オーディオ再生」の機能を両方使用するものがあります。[コントロールパネル][マルチメディア]の[MIDI]タブで[MIDI出力]が[RolandVSC 88]に設定されているときにこのようなアプリケーションを使用すると、音の種類によっては出力されないものがあります。このような場合には、VSC 88付属のユーティリティソフトで設定を変更してみてください。詳しくは、[スタート]ボタン[プログラム][Virtual Sound Canvas VSC-88][Virtual Sound Canvas VSC 88Help]の[VSC-88ヘルパーアイコンの使い方]および「トラブルシューティングQ&A」を参照してください。上記の設定だけで改善されない場合は、VSC-88を使用しないよう設定してみてください。

- ・ [CDプレーヤー]などでオーディオCD再生中に、[コントロールパネル][マルチメディア]の[音楽CD]で音量を変更した場合、次回[CDプレーヤー]を起動したときから変更が有効になります。
- ・ ディスプレイの解像度が640×480ドットなどの低解像度の場合、ボリュームコントロールですべての音源コントロールが表示されなかったり、右端の音源コントロールの一部が欠けて表示されたりすることがあります。このような場合はディスプレイの解像度を800×600ドット以上にするか、ボリュームコントロールの[オプション][プロパティ]の[表示するコントロール]で使用しない音源を表示させないようにして必要なコントロールが表示できるようにしてください。
なお、ボリュームコントロールの表示が一部欠けた状態で解像度を切り替えた場合は、一度ボリュームコントロールを終了してから再起動すると正しく表示されるようになります。
- ・ ボリュームコントロールで[ボリュームコントロール]および[Wide Stereo]のボリュームを最大にしているときには内蔵スピーカから出力される音がひずむことがあります。このような場合は音量を下げてください。

1

本機の機能について



表示機能

画面上に表示できる文字や図形の情報量を表すものを「解像度」といいます。本機の液晶ディスプレイでは標準で次の解像度と表示色を表示できます。

表示できる解像度と表示色.....

解像度	表示色	Windows 95	MS DOS *1
640×400ドット*2	4,096色中16色	-	
	4,096色中256色	-	
640×480ドット	4,096色中256色		

: 表示可 (本機の液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示が可能。液晶ディスプレイでは画面のまわりが黒く表示されます。)

- : 表示不可

*1: Windows 95のMS DOSモードおよびMS DOS 6.2でサポート

*2: 水平走査周波数を31kHzに設定している場合、CRTディスプレイにのみ表示可能です。

また、内蔵のウィンドウアクセラレータ機能により、Windowsでは標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度	表示色	本機の液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示*1	別売のCRTディスプレイのみに表示	テレビ、ビデオ等のみに表示
640×480ドット	26万色中256色	*3		
	65,536色			
	1,677万色			
800×600ドット*2	26万色中256色		*5	×
	65,536色		*5	×
	1,677万色		*5	×
1,024×768ドット*4	26万色中256色	×		×
	65,536色			
1,280×1,024ドット*4	26万色中256色	×	*5	×

:画面のまわりが黒く表示されます(Windows 95では密度変換機能でフルスクリーン表示可能)

:フルスクリーンで表示可能

× :表示不可

*1:本機にCRTディスプレイが接続されていないときには、液晶ディスプレイにのみ表示可能


*2:ご購入時の解像度です。

*3:800×600ドットの解像度に対応していないCRTディスプレイや液晶プロジェクタで液晶ディスプレイとの同時表示をするには、「プロジェクタと液晶ディスプレイを同時表示にする」(P.88)の手順でディスプレイアダプタを変更する必要があります。

*4:別売のCRTディスプレイ接続時のみ表示可能です。

この解像度を選択したまま本機の電源をOFFにしてCRTディスプレイを取り外すと、次に電源をONにしたときにはメッセージが表示されます。この場合は800×600ドット以下の解像度に設定しなおしてからWindowsを再起動してください。


*5:リフレッシュレートは、CRTディスプレイにより60Hz/75Hzを選択できます。

-  320×200ドットおよび320×240ドットの解像度対応のアプリケーションソフトなどは、本機では画面のまわりが黒く表示されます。
 このようなときには、Windows 95の密度変換機能でフルスクリーン表示が可能です。
 また、320×200ドットおよび320×240ドットの解像度はテレビにのみ表示することもできます。

1

本機の機能について

解像度と表示色を変更する

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
 [コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 2 [画面]アイコン  をダブルクリックします。
 [画面のプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 3 [ディスプレイの詳細]タブをクリックします。
- 4 解像度または表示色を変更します。

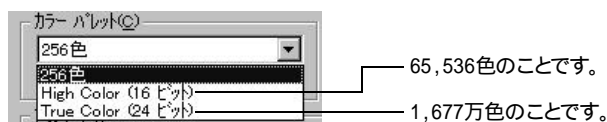


・ 解像度の変更

解像度を高解像度に設定する場合は、[デスクトップ領域]のつまみを「大」の方向へドラッグしてずらしします。低解像度に設定する場合は、つまみを「小」の方向へドラッグしてずらしします。


・ 表示色の変更

表示色を変更するには[カラーパレット]の欄で選択します。カラーパレットの選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されています。



5 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックします。

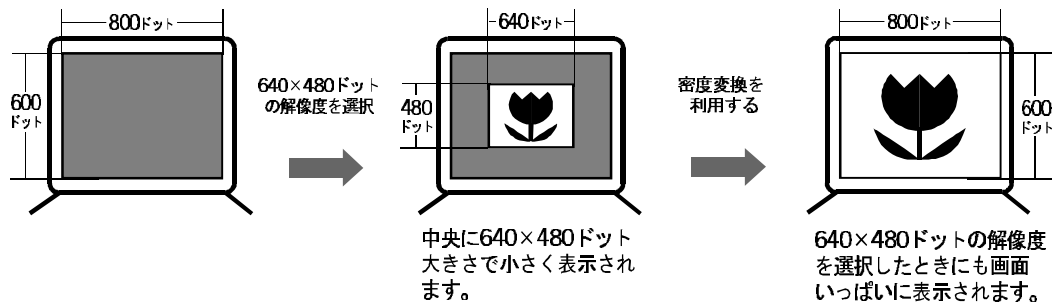
この後は画面の指示に従ってください。

 解像度を640×480ドットの通常表示モードにすると、本機の液晶ディスプレイでは画面が中央に表示され、上下左右に黒い部分ができます。このようなときにはWindowsの密度変換ユーティリティで画面の大きさを大きくすることができます(P.96)。



密度変換

本機の液晶ディスプレイでは最大で横800ドット、縦600ドットが表示できます。640×480ドットの解像度を選択したときには、液晶ディスプレイのドット数のうち選択したドット数のみを使って画面が表示されるため、800×600ドットの解像度を選択したときに比べ、表示される画面の大きさが小さくなります。密度変換機能を使うとこのような解像度のときでも画面が大きく表示されます(P.96)。





Part 2

周辺機器を使う

接続できる周辺機器

周辺機器を利用する前に

プリンタを使う

メモリを増やす

PCカードを使う

ディスプレイ/プロジェクタを使う

MIDI対応機器/ジョイスティックを使う

入力装置を使う

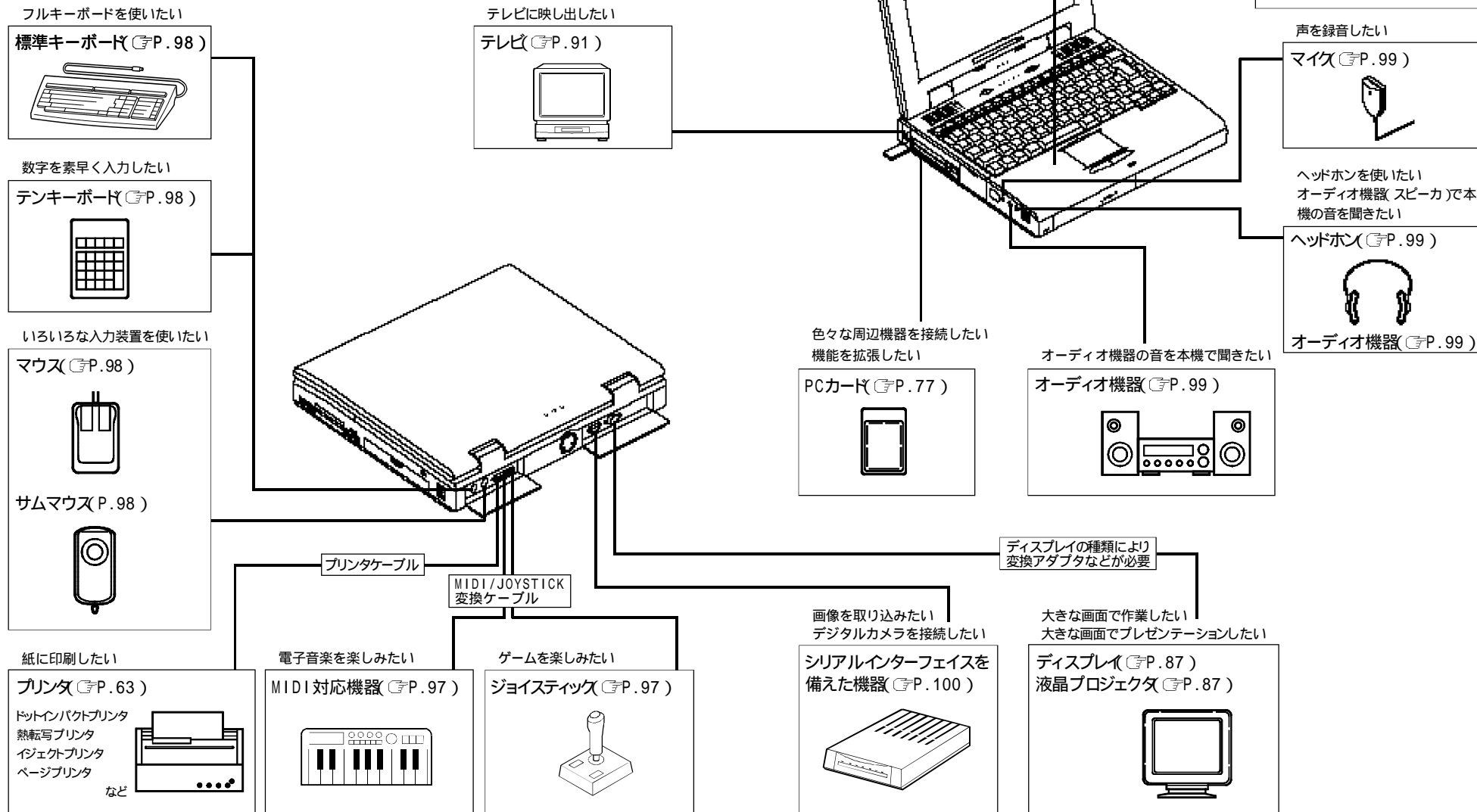
(マウス・キーボード・テンキーボード)

オーディオ機器を使う

シリアル対応機器を使う

接続できる周辺機器

プリンタ、ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。ここでは本機に接続できる周辺機器について、一覧で説明しています。当社製のオプション製品についてはP. 170をご覧ください。



周辺機器の取り付け/取り外しの注意.....

- ・ サスペンド状態やハイバネーション状態のときには機器の取り付け/取り外しをしないでください。サスペンド状態やハイバネーション状態のときに機器の取り付け/取り外しをしたいときには、保持されているデータを復元させて保存してから本機の電源をOFFにし、取り付け/取り外しを行ってください。
- ・ プリンタ用コネクタには、プリンタケーブルとMIDI/JOYSTICK変換ケーブル以外のケーブルを接続しないように注意してください。



- ・ 別売の周辺機器を取り付けるときには、周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合があります。周辺機器の説明書などをよくご覧のうえ使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元または発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・ 周辺機器の取り付け/取り外しは取扱説明書にしたがって正しく行ってください。

ケーブルについて.....

周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に用意してください。詳しくは、「オプション品一覧」をご覧ください（P.170）。

周辺機器を利用する前に

本機に周辺機器を接続して利用する際は次のことを確認してください。

周辺機器用のドライバ.....

周辺機器を使うためには、それぞれの機器専用のプログラムが必要です。

このプログラムのことを「ドライバ」といいます。

Windowsの「プラグ&プレイ機能」に対応している周辺機器を使うときには、機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

Windowsの「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器を使うときには、機器を接続したあとドライバの設定が必要な場合があります。

ドライバの設定について詳しくはREADME ファイルもしくはそれぞれの機器のマニュアルをご覧ください。




- ・ドライバが正しく組み込みなかった場合は、周辺機器が使えないばかりか、本機の動作が不正になることもあります。その場合は、周辺機器のマニュアルに従って、正しくドライバを組み込んでください。
- ・READMEファイルの読み方については『困ったときにお読みください』をご覧ください。

DirectX対応のゲーム等を使用する場合のご注意

NEC製サウンドカードを追加した環境でDirectX対応のゲーム等を使用する場合は、以下の手順でDirectXドライバをインストールしてください。

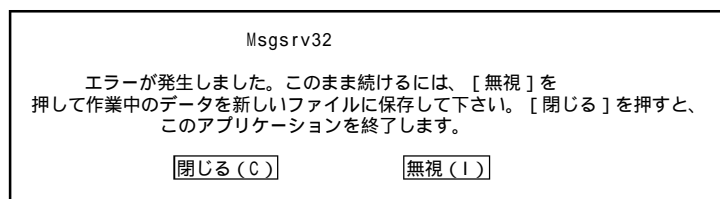
(1)チュートリアルCD-ROMの¥Redist¥Directx¥DrvsnecフォルダのInstall.txtファイルをお読みください。

(2)チュートリアルCD-ROMの¥Redist¥Directx¥Dxsetup.exeを実行し、DirectXドライバをインストールしてください。

また、DirectX(Direct Sound)とMIDIを同時に使用するアプリケーションの場合、タスクバーのアイコンをクリックして表示されるメニューから、[VSC-88を使う(特殊サウンド)]を選びます。

サウンドドライバについてのご注意

現在インストールされているサウンドドライバは最新のバージョンのもので、以前のバージョンのドライバを上書きしないようにしてください。しかしアプリケーションソフトによっては、インストール中にサウンドドライバが以前のバージョンへ置き換わってしまう場合があります。再起動中に下記のようなエラーが表示されて起動できない場合は、[閉じる] ボタンをクリックしてください。その後、次の手順に従ってドライバをアップデートしてください。



- 1** Windows 95を終了し、Safeモードで本機を再起動。電源をONにして「Windows 95を起動しています」のメッセージが表示されている間に [F8] キーを押す させます。
- 2** [スタート] メニューから [設定] を選択し、[コントロールパネル] を開きます。
- 3** [コントロールパネル] の [システム] アイコンをダブルクリックし、[システムのプロパティ] を表示させます。
- 4** [デバイスマネージャ] タブをクリックします。
- 5** [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ] をダブルクリックします。
[YMF715互換 Sound System(拡張FMのみ)] が表示されます。
- 6** [YMF715互換 Sound System(拡張FMのみ)] を選択して [プロパティ] ボタンをクリックします。

- 7** [YMF715互換 Sound System(拡張FMのみ)のプロパティ]で[ドライバ]タブをクリックします。



- 8** [ドライバの更新]をクリックして[デバイスドライバウィザード]を表示させます。



- 9** [一覧からドライバを選ぶ(N)]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。

- 10** [デバイスドライバウィザード]の[完了]ボタンをクリックします。



表示のタイムスタンプは異なることがあります。


- 11** Windows 95を再起動すると正常に利用できるようになります。

周辺機器に添付されているディスクからドライバのインストールをする場合のご注意(ドライバの組み込みができない場合)

新たな周辺機器を接続すると[新しいハードウェア]ウィンドウが表示され、[デバイスドライバウィザード]が起動します。[次へ]ボタンをクリックし、[場所の指定]ウィンドウで周辺機器に添付されているマニュアルなどに記述されているディレクトリを指定すると、次のような画面が表示され、[場所の指定]ウィンドウに戻ってしまいます。



このような場合は、次の手順でドライバをインストールしてください。

- 1** 上記の画面が表示された状態で、[完了]ボタンをクリックします。
[デバイスドライバウィザード]が終了します。
- 2** [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
- 3** [コントロールパネル]の[システム]アイコン  をダブルクリックします。
[システムのプロパティ]が表示されます。
- 4** [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 5** 新たに使用する周辺機器は、[その他のデバイス]の下に登録されていますので、該当するデバイス名を指定します。
- 6** [プロパティ]ボタンをクリックします。
- 7** [ドライバ]タブをクリックします。
- 8** [ドライバの更新]ボタンをクリックします。
[デバイスドライバウィザード]が表示されます。

- 9 [一覧からドライバを選ぶ] をクリックして、[次へ] ボタンをクリックします。
- 10 一覧からデバイスの種類を選び、[次へ] ボタンをクリックします。
- 11 [ディスク 使用] ボタンをクリックします。

この後は、周辺機器に添付されているマニュアルを参照しながら、画面の指示に従ってください。

周辺機器に添付されているディスクからドライバをインストールする場合の注意(ドライバの媒体を要求される場合)

プリンタなどの周辺機器に添付されているディスクからドライバをインストールする際、「Windows 95 Disk x x ラベルの付いたディスクを挿入して [OK] を押してください」というようなメッセージが表示される場合があります。

この場合は、次のように操作してください。

- 1 [OK] ボタンをクリックします。
[ファイルのコピー元] を入力する画面が表示されます。
- 2 次のように入力します。
A:¥Windows¥OPTIONS¥CABS
- 3 [OK] ボタンをクリックします。

この後は、周辺機器に添付されているマニュアルを参照しながら、画面の指示に従ってください。

本機に添付されている周辺機器用ドライバ

周辺機器をセットアップする際のドライバは、最新版が「チュートリアルCD-ROM」の・driversディレクトリに格納されていますので、そのドライバを使用してください。格納されているドライバの種類については、・drivers・readme.txtを参照してください。「チュートリアルCD-ROM」にないドライバについては「Windows 95 Companion CD-ROM」に格納されているドライバをご使用ください。



- ・ 周辺機器のドライバやマニュアルがWindows 3.1用のものしかない場合は、前ページの手順でドライバを探してご使用ください。
- ・ 周辺機器に添付されているドライバがWindows 95用で、前ページの手順でドライバが見つからない場合は、周辺機器に添付のドライバを使用してください。

なお、ドライバは本機出荷後にバージョンアップすることがあります。PC-VANなどの各BBSに登録されている情報を参照し、必要に応じてダウンロードしてください。



周辺機器とドライバの状態を調べる

Windows 95のコントロールパネルを使って、組み込んだドライバの状態を調べることができます。コントロールパネル内にある「システム」のアイコンを開き、「デバイスマネージャ」のタブをクリックしてください。接続されている周辺機器の一覧が表示できます。



ここで、もし各アイコンに赤い「×」印や黄色い「！」印がついていたら、ドライバや周辺機器に何らかの障害が発生していることを示しています。

アイコンが正しく表示されていれば、その周辺機器は正しく動作しています。



「スタンダードディスプレイアダプタ」と「YMF715互換MPU401」と「FIR(NAFIRL001)」には赤い「×」印がついていますが、異常ではありません。

プリンタを使う

プリンタを接続する

⚠警告



雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



プリンタの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、プリンタの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。



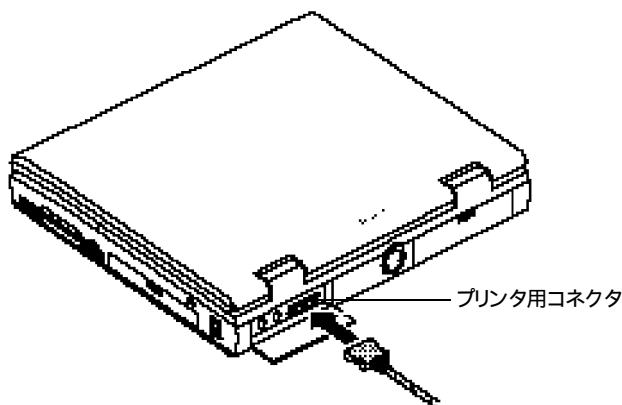
濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



プリンタを接続するには、プリンタケーブルが必要です。なお、本機には、プリンタケーブル(PC-9801N-19、PC-9801LV-13)は接続できません。

プリンタとの接続には、36ピンパラレルインタフェースに対応したプリンタケーブル(PC-CA202/204)のご使用をおすすめします。

- 1 本機とプリンタの電源をOFFにします。
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機のプリンタ用コネクタにプリンタケーブルの小さい方のコネクタを差し込みます。



5 プリンタケーブルの大きい方のコネクタをプリンタのコネクタに差し込み、ストッパでとめます。



プリンタの機種によって接続するコネクタの位置が異なります。詳しくは使用するプリンタのマニュアルをご覧ください。

6 プリンタの電源ケーブルをACコンセントに接続します。

7 本機の電源コードをACコンセントに接続します。

プリンタを設定する

プリンタを使うにはどんなプリンタを使用するのか、設定する必要があります。



- ・ プリンタの設定をする前にプリンタの製造元と製品(モデル)名を確認してください。
- ・ プリンタドライバが組み込まれていないと、印刷出力時にフォントが不正になる場合があります。出荷時に組み込まれているプリンタドライバは削除しないでください。

1 プリンタが正しく接続されていることを確認します。

2 [スタート]ボタン [設定] [プリンタ]の順にクリックします。
[プリンタ]ウィンドウが表示されます。すでに設定済みのプリンタがある場合は[プリンタ]ウィンドウにプリンタのアイコンが表示されています。



- 3 [プリンタの追加 アイコン]をダブルクリックします。
[プリンタウィザード]ウィンドウが表示されます。



- 4 [次へ] ボタンをクリックします。

- 5 表示されるリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ、または互換性のあるプリンタを選択します。



- 6 [次へ] ボタンをクリックします。



プリンタにインストールディスク(ドライバディスク)がついている場合は、[ディスク使用] ボタンをクリックして、インストールディスクのデータをインストールします。

- 7** 表示されるリストから、プリンタを使用できるポート(接続先)を選択します。



- 8** [次へ] ボタンをクリックします。

- 9** 使用するプリンタに名前を付けます。

通常使うプリンタにする場合は **はい** をクリックしてください。



- 10** [次へ] ボタンをクリックします。



ポート

ポートは外部のコンピュータや周辺機器との「窓口」になる部分です。添付のポートバーにはシリアルコネクタやプリンタ用コネクタがありますが、Windows 95で使われるポートはそれらに対応しています。COM1がシリアルコネクタ、LPT1がプリンタ用コネクタのことです。

11 テストページを印刷する場合は「はい」を選択します。



12 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックします。

手順5でインストールしなかった場合、インストールが必要な場合は、ここでディスクの挿入画面が表示されますので、プリンタに添付されていたマニュアルをご覧のうえ、指示されたディスクをセットしてください。設定がすべて終了すると、新しく追加したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。



設定したプリンタの「プリンタアイコン」が表示されます。

プラグアンドプレイ(PnP)対応プリンタを使うときの注意

プラグアンドプレイ(PnP)対応プリンタ(以下PnPプリンタとします)を本機と接続し、プリンタの電源を入れてからWindowsを起動させると、PnPプリンタが検出され、プリンタドライバを組み込むために自動的に「デバイスドライバウィザード」が起動します。このときにPnPプリンタの製造元から提供されているプリンタドライバのディスクをフロッピーディスクドライブに入れて、「デバイスドライバウィザード」の「次へ」ボタンをクリックしても、「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示され、プリンタドライバの組み込みができない場合があります。このような場合には、「完了」ボタンをクリックして「デバイスドライバウィザード」を一度終了し、次の手順でPnPプリンタのプリンタドライバを組み込んでください。

- 1** 「スタート」ボタン「設定」「プリンタ」の順にクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックします。
「プリンタウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「次へ」ボタンをクリックします。
- 4** 「ディスク使用」ボタンをクリックします。
「フロッピーディスクからインストール」が表示されます。
- 5** PnPプリンタの製造元から提供されているプリンタドライバのディスクをフロッピーディスクドライブに入れて、「配布ファイルのコピー元」にフロッピーディスクドライブのドライブ名を指定し、「OK」ボタンをクリックします。
「プリンタウィザード」の「プリンタ」にご使用になるPnPプリンタの名称が表示されます。
- 6** 「次へ」ボタンをクリックします。
- 7** 「プリンタウィザード」の「利用できるポート」から使用するポートを選択し、「次へ」ボタンをクリックします(通常は「LPT1:プリンタポート(36pinパラレルインターフェイス)」を選択します)。
- 8** PnPプリンタをWindowsアプリケーションで通常使用する場合は「Windowsアプリケーションで、このプリンタを通常のプリンタとして使いますか?」の「はい」をクリックします。「はい」がチェックされたことを確認して、「完了」ボタンをクリックします。
ファイルのコピーが始まり、必要なファイルをシステムにコピーします。

- 9** [スタート]ボタン [Windowsの終了] をクリックし、[コンピュータを再起動する] をクリックして [はい] ボタンをクリックします。

再起動後PnPプリンタのプリンタドライバが組み込まれます。

ネットワーク上の共有プリンタを使う

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。
設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。

プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

- 1** 「プリンタを設定する」の手順1～3を行います。
- 2** [次へ] ボタンをクリックします。
- 3** [ネットワークプリンタ] をクリックして [次へ] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。



- 4** ネットワークパス名を入力します。
[参照] ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタを表示することができますので、そこから選択することもできます。
- 5** [次へ] ボタンをクリックします。
後は、画面の指示に従ってプリンタをインストールしてください。

メモ리를増やす

本機には、あらかじめ32MバイトのRAMボードが内蔵されています。
メモ리를増設すると、データをより高速に扱うことができます。



使用できる増設RAMボードについてはP.170をご覧ください。

メモ리를取り付ける/取り外す.....

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



感電注意

増設RAMボードの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、増設RAMボードの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。



濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



- ・ 増設RAMボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと、増設RAMボードが破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、静電気を取り除くようにしてください。
- ・ 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など故障の原因となります。
- ・ ボード上の部品やハンダ付け面に触れないように注意してください。
- ・ 増設RAMボードの向きに注意してください(☞P.73)。増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機コネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。
- ・ あらかじめRAMボードが取り付けられている方のスロットを空の状態にすると、本機は使用できません。



増設RAMボードの取り付け/取り外しには+(プラス)ドライバが必要です。

増設RAMボードを取り付ける

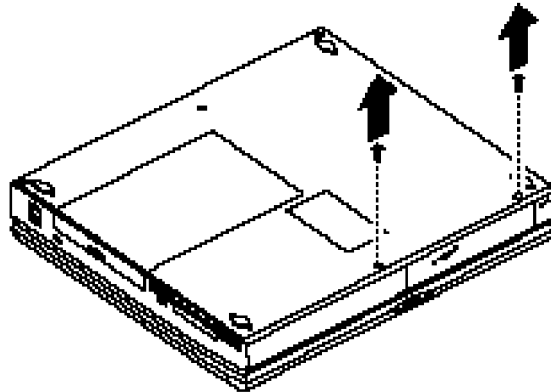
- 1 本機の電源がOFFになっていることを確認します。



サスペンド状態やハイバネーション状態のときに本機の機器構成を変更しないでください。サスペンド状態やハイバネーション状態のときには一度もとの状態に戻してデータを保存してから、本機の電源をOFFにし、機器の取り付け/取り外しを行ってください。

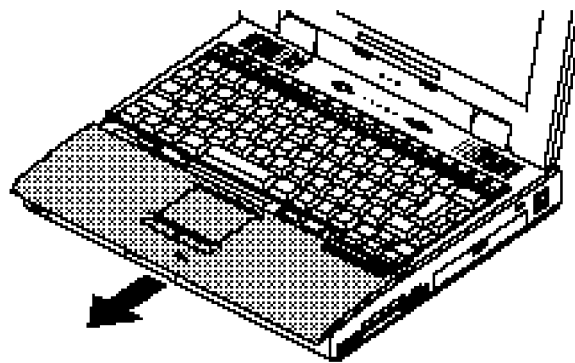
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから取り外します。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 本機にケーブル類が接続されている場合、すべて取り外します。
- 5 本機のフタ(液晶ディスプレイ)を閉じて本機を裏返します。
- 6 バッテリーパックを取り付けている場合はバッテリーパックを取り外します(☞P.13)。

- 7** 図の位置のネジ2カ所をプラスドライバで取り外します。

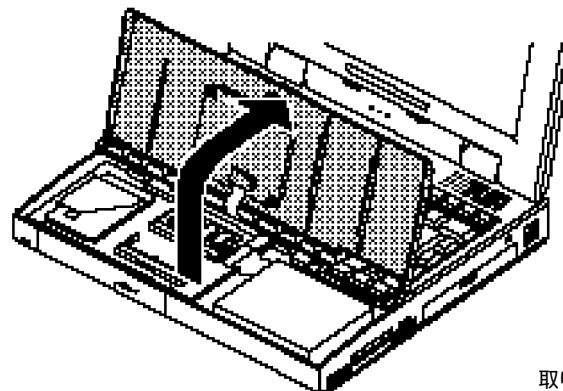


- 8** 本機を裏返し、もとに戻してフタ(液晶ディスプレイ)を開けます。

- 9** 本機前面の図の部分を手前に引きます。

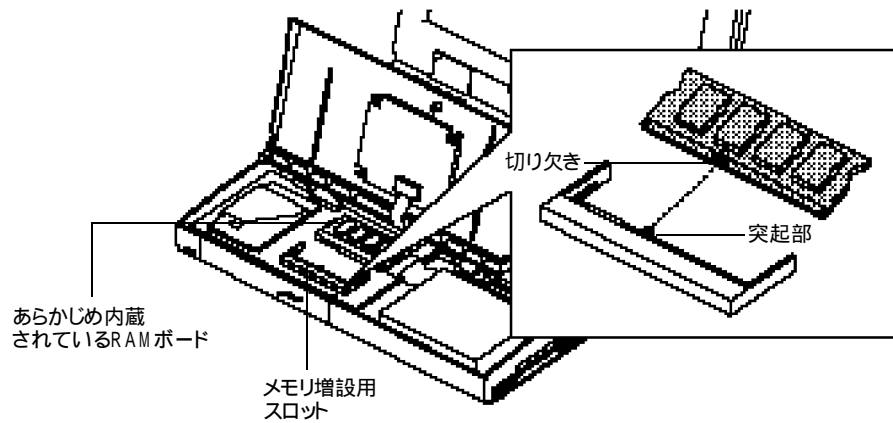


- 10** ずらした部分を図の矢印の方向に開けます。

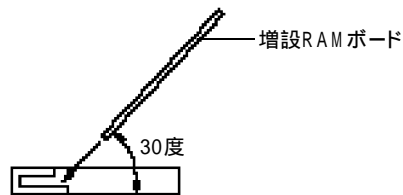


取り付けられているメモリボードの形状は異なることがあります。

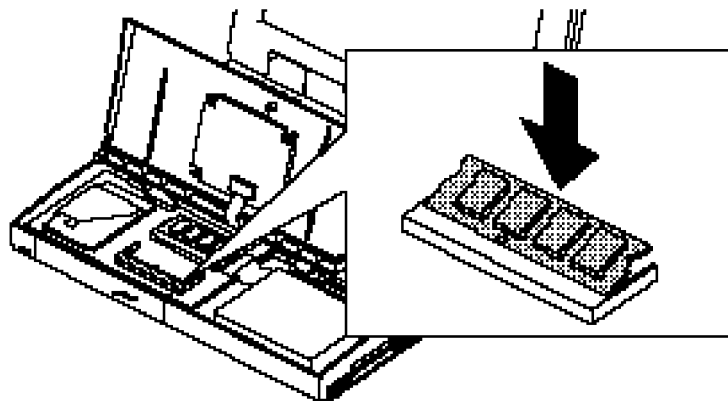
- 11** 増設RAMボードを取り付けます。増設RAMボードの切り欠き部分を本機コネクタの突起部にあわせて、端子部があたるまで挿入します。



増設RAMボードを挿入するときの角度は30度くらいにしてください。それよりも小さいと本機のコネクタが破損する恐れがあります。

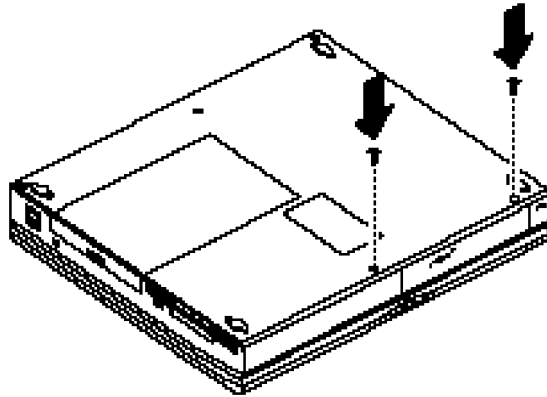


- 12** カチッと音がするまで増設RAMボードを本機に倒し込みます。



- 13** 手順 10で開いたカバーをもとに戻します。

14 手順 7で外したネジを取り付けます。



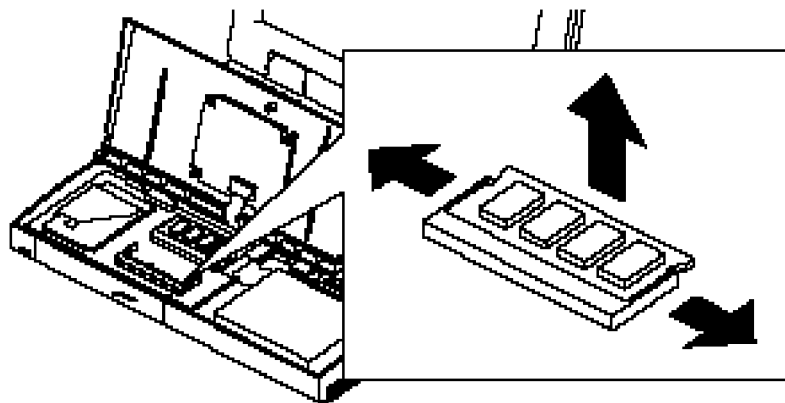
これで、増設RAMボードの取り付けができました。



ディップスイッチの設定がご購入時の設定に戻っていることがあります。必要な場合は設定し直してください。

増設RAMボードを取り外す


- 1** 「増設RAMボードを取り付ける」の1～10の手順で本機のカバーを開けます。
- 2** コネクタの両端を左右に押し広げながら、増設RAMボードを引き起こして取り外してください。



- 3** 手順1で開いたカバーをもとに戻します。

4 外したネジを取り付けます。

これで増設RAMボードが取り外せました。

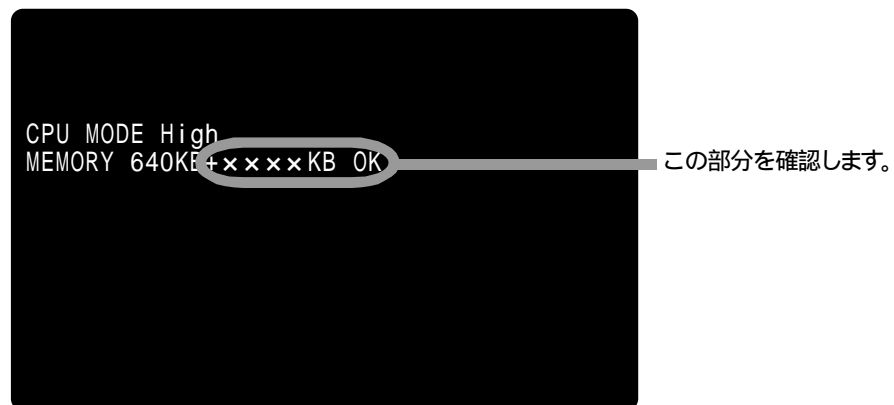
 増設RAMボードを取り外したあとはディップスイッチの設定がご購入時の設定に戻っていることがあります。必要な場合は、設定し直してください。

増やしたメモリを確認する.....


増やしたメモリが認識されたかどうかを確認します。

1 電源をONにします。

次のようなメモリチェックの画面が表示されます。



メモリ容量を確認します。

-  ・ 98NOTEメニューの「動作環境の設定」で「16Mバイトシステム空間」が「使用する」になっているときには、メモリチェックで表示される容量は実際のユーザーズメモリより1Mバイト少ない値になります。
- ・ ユーザーズメモリ容量は、搭載メモリの総容量より0.4Mバイト少なく表示されます。




メモリ容量が増えていなかったら、次のことを確認してください。

- ・ 増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・ 本機で使える増設RAMボードを取り付けているか



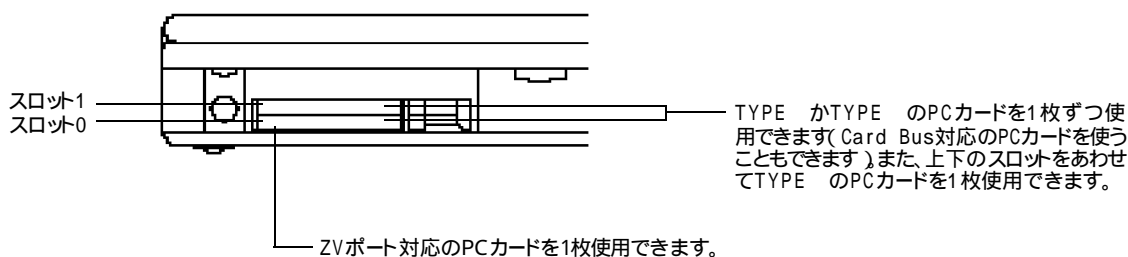
Windows 95でメモリ容量を確認する

メモリ容量はWindows 95でも確認できます。

- 1** [スタート ボタン]-[設定]-[コントロールパネル]の順にクリックします。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
 - 2** [システム]アイコン  をダブルクリックします。
[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されます。
[情報]タブまたは[パフォーマンス]タブで確認することができます。
-

PCカードを使う

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、機能を拡張したり、様々な周辺機器を接続することができます。



2

周辺機器を使う



- ・ ZVポートおよびCard Bus対応のPCカードは本機にインストールされているWindows 95でのみ使用できます。市販のWindows 95では使用できません。
- ・ Windows 95では上のスロットがソケット2、下のスロットがソケット1と表示されます。
- ・ Card Bus対応のPCカード使用時にはWindowsのCPU速度は100%にしておいてください。

PCカードの取り扱い上の注意

PCカードは非常に精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・ 高温・低温・多湿の場所に放置しないでください。
- ・ 濡らさないでください。
- ・ 重いものを載せないでください。
- ・ ぶついたり、落としたりなどの衝撃を与えないでください。
- ・ PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- ・ PCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないIPCカードは使えません。対応していないIPCカードを無理に押し込まないでください。故障の原因となります。

PCカードの出し入れ

⚠注意



高温注意

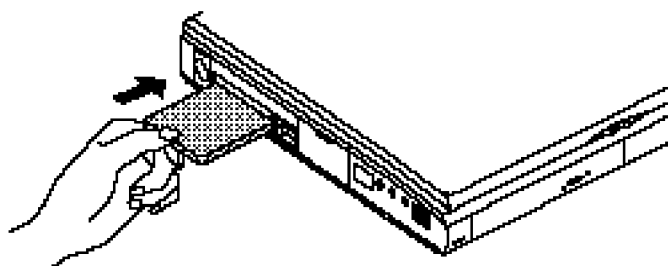
本機の使用や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

PCカードを入れる



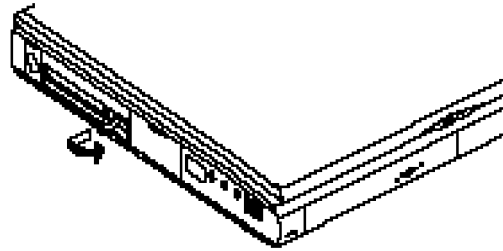
- ・ PCカードの方向に注意してください。PCカードには表と裏があり、PCカードスロットに挿入する向きが決まっています。逆に挿入しようとしてもできないようになっていますが、無理に押し込もうとすると本機内のピンが折れて、PCカードスロットが壊れてしまいます。PCカードの向きは、PCカードのマニュアルをご覧になり確認してください。
- ・ アプリケーションソフトを使用しているときは、PCカードを出し入れしないでください。PCカードの出し入れや取り扱いについては、PCカードに添付のマニュアルをあわせてご覧ください。

- 1 PCカードの上面(表)を上にして、矢印の方向へ静かに差し込みます。



- 2 PCカードが完全に差し込まれたかどうかを確認してください。完全に差し込まれると、PCカードスロットのイジェクトボタンが少しとび出します。

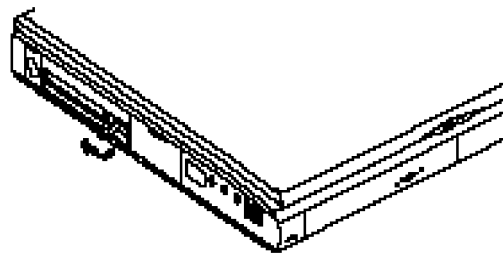
- 3** PCカードイジェクトボタンを完全に手前に引いてから、右に倒します。



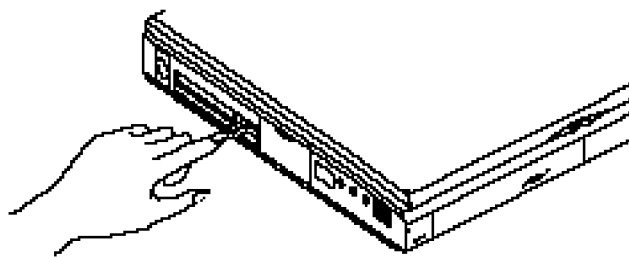
PCカードイジェクトボタンを倒すときは完全に引き出してから倒してください。完全に引き出さずに無理に倒そうとすると、破損の原因となります。

PCカードを取り出す

- 1** イジェクトボタンを図のように起こします。

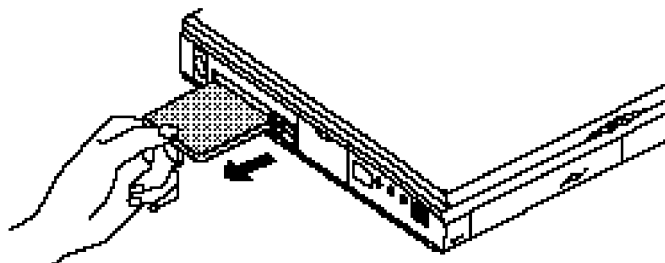


- 2** PCカードイジェクトボタンを押します。



PCカードが少しとび出します。

- 3** PCカードを持ち、矢印の方向に静かに引き抜きます。



PCカードの設定をする

PCカードを使うときには、ソフトウェアの設定が必要です。

割り込みの設定

PCカードによっては割り込みレベルの設定が本機の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルとこのマニュアルのP.128をご覧ください。割り込みが重なっていないことを確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

PCカードサポートソフトウェアの設定

Windows 95でPCカードを使用するには、PCカードに対応したPCカードサポートソフトウェアが必要です。PCカードサポートソフトウェアには、32ビットのものと16ビットのもの2種類があります。32ビットと16ビットのPCカードサポートソフトウェアの両方を同時に利用することはできません。どちらのPCカードサポートソフトウェアを利用するか設定します。

使用するPCカードの種類を確認する

まず最初に、使用するPCカードでどちらのPCカードサポートソフトウェアが必要かを確認します。Windows 95用ドライバの有無は、PCカードの販売元にお問い合わせください。

PCカードの種類	必要となるPCカードサポートソフトウェア
PC-9801N-J**の NEC製PCカード*1	32ビット
Windows 95用 ドライバがあるPCカード	32ビット
Windows 95用 ドライバがないPCカード	16ビット
ZVポート対応の PCカード*2	お使いになるカードにより異なります。PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

*1:PC-9801N-J01を除く

*2:ビデオキャプチャカード(PC-9821-CS02)TVチューナーアダプタPC-9821-CS02-01 をご使用の場合は、NECREAD.DOCをご覧ください。NECREAD.DOCは「スタート」ボタン-[プログラム]-[補助説明]の順にクリックすると表示されます。



- ・ 16ビットでPCカードを使用する場合は、ハイパーターミナルなどの32ビットアプリケーションソフトからPCカードを使用できない場合があります。
- ・ 16ビットでPCカードを使用する場合は、サスペンド/レジューム機能やハイパネーション機能を使うことはできません。
- ・ 16ビットPCカードを使う場合は、PCカードが使用するリソース(割り込みレベル、I/Oポート、メモリ)を予約しておいてください。リソースの予約についてはWindows 95のヘルプをご覧ください。
- ・ 32ビットで割り込みを必要とするPCカードを使う場合、PCカードが使用するための割り込みを空けておいてください。

32ビットでPCカードを利用する

初めて使うPCカードを入れると、「新しいハードウェア」ウィンドウが表示され、各PCカードごとに必要な設定が自動的に行われます。この作業には数十秒かかりますので、設定が終了するまでしばらくお待ちください。

* ウィンドウに表示されるメッセージはPCカードにより異なります。



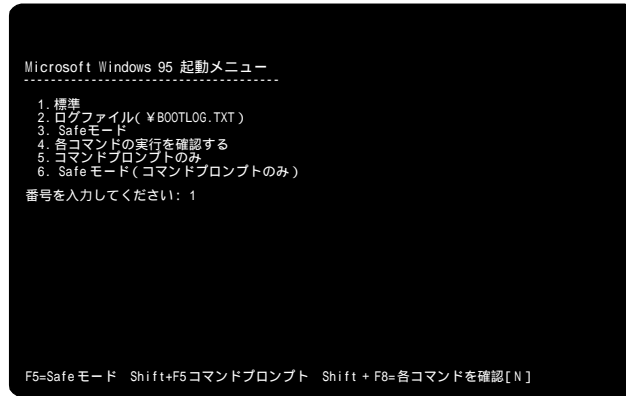
なお、同じPCカードを挿入した場合、2回目以降は「新しいハードウェア」ウィンドウは表示されません。


32ビットでフラッシュメモリカードユーティリティを利用する

本機でフラッシュメモリカード(PC-98HA-02)を使う場合は、次の手順でフラッシュメモリカードユーティリティのセットアップを行ってください。

- 1 本機の電源をONにします。
- 2 「Windows 95を起動しています...」のメッセージが表示されている間に、キーボードの[F8]を押します。

Windows 95起動メニューが表示されます。



 キーボードの **[F8]** を押すのが遅れた場合、Windows 95が起動します。その場合は、Windowsを終了させて、手順1からやり直してください。

3 キーボードの **[↑]** **[↓]** を使って、「コマンドプロンプトのみ」に反転表示を合わせ、**[↵]** を押します。

4 EDIT.EXEなどのテキストエディタを使って、CONFIG.SYSファイルに次の行を追加します。

```
DEVICE= <Windows 95のドライブ名> :¥WINDOWS¥SYSTEM¥CSMAPPER. SYS  
DEVICE= <Windows 95のドライブ名>  
        : ¥WINDOWS¥SYSTEM¥CARDDR. EXE /SLOT=n /MODE=m
```

nの値には、本機のPCカードスロットの数を指定します。

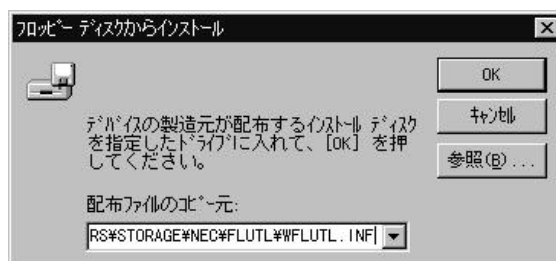
また、CSMAPPER.SYSとCARDDR.EXEのファイルが<Windows 95のドライブ名> : ¥WINDOWS¥SYSTEMフォルダにあることを確認してください。

mの値には、使用するPCカードの種類によって、次の値を指定します。

0	SRAMカード用のドライブを確保します。フラッシュメモリカードを使用することはできません。
1	フラッシュメモリカード用のドライブを確保します。SRAMカードを使用することはできません。
2	SRAMカード用とフラッシュメモリカード用のドライブを確保します。 /SLOT=2を指定した場合のドライブの割り当て方は、次の通りです。 最初の2ドライブ: SRAMカード用 後の2ドライブ: フラッシュメモリカード用

- 5 本機を再起動させます。
- 6 コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 7 [Windowsファイル] タブで「ディスク使用」ボタンをクリックします。
- 8 [フロッピーディスクからインストール] で、WFLUTL.INFを指定してフラッシュメモリーカードユーティリティをインストールします。

WFLUTL.INFは<Windows 95のドライブ名>: ¥DRIVERS¥STORAGE ¥NEC ¥FLUTLフォルダに格納されています。



16ビットでPCカードを利用する


16ビットでPCカードを使う場合は、次の手順が必要です。

- (1) PCカードサポートソフトウェアインストールディスクを作成する。
- (2) 「16ビットPCカードサポートソフトウェア」をインストールする。
- (3) 「16ビットPCカードサポートソフトウェア」を登録する。

(1) PCカードサポートソフトウェアインストールディスクを作成する

次の手順で「PCカードサポートソフトウェアインストールディスク」(以降「インストールディスク」)を作成します。

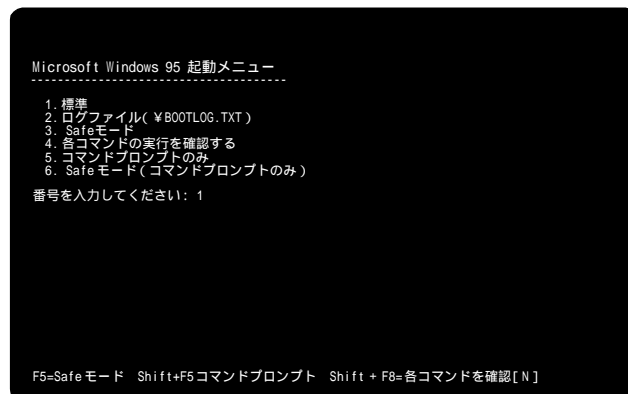
フォーマットしてもよい12HDフロッピーディスク1枚を準備しておいてください。このフロッピーディスクには「インストールディスク」と書いたラベルを貼っておきます。

 なお、インストールの作業を行う前に、「インストールディスク」のREADME.PCCファイルをよくお読みください。

- 1 本機の電源をONにします。

- 2** 「Windows 95を起動しています...」というメッセージが表示されている間にキーボードの **[F8]** を押します。

Windows 95起動メニューが表示されます。



- 3** キーボードの **[↑]** **[↓]** を使って、「コマンドプロンプトのみ」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

- 4** コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
CD ¥PCCARD [Enter]
CPCRD CFG <フロッピーディスクドライブ名> : [Enter]
```

- 5** 画面に表示されるメッセージにしたがって、フォーマットしてよい12HDフロッピーディスク(「インストールディスク」と書いたラベルを貼ったもの)をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

何かのキーを押します。

フロッピーディスクのフォーマットがはじまります。フォーマットした後、「インストールディスク」が作成されます。

(2) 「16ビット PCカードサポートソフトウェア」をインストールする

- 1 本機の電源をONにします。
- 2 「インストールディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 [スタート]ボタン [ファイル名を指定して実行]の順にクリックします。
- 4 名前の欄に次のように入力します。

<フロッピーディスクドライブ名>: ¥WINSTCRD 

WINSTCRDが起動し、「PCカードサポートソフトウェア」をインストールします。

(3) 「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を登録する



「16ビット PCカードサポートソフトウェア」を登録すると、32ビットでPCカードを使用できなくなります。

- 1 電源をONにします。
- 2 [スタート]ボタン [プログラム][PCカードユーティリティ][WCARDCFG]の順にクリックします。
- 3 「起動ドライブ」を指定し、「登録」ボタンをクリックするとCONFIG.SYSの設定が変更されます。
- 4 [スタート]ボタン [ヘルプ]の順にクリックします。
- 5 [キーワード]タブをクリックします。
- 6 [キーワード]の画面で「PC」と入力します。
- 7 表示された項目から「使用できないようにする」を選択します。

32ビットでPCカードを使用できないようにすると、「16ビット PCカードサポートソフトウェア」が使用できます。

以降は、「Windowsのヘルプ」の指示にしたがって、操作を行うと「16ビット PCカードサポートソフトウェア」が利用できます。

PCカードサポートの設定を変更する

16ビットから32ビットに変更する



本機では、購入時に32ビットPCカードサポートに設定されているため、通常は次の手順は必要ありません。16ビットPCカードサポートから32ビットPCカードサポートに変更する場合は次の手順を行ってください。

PCカードサポートを16ビットから32ビットに変更する場合は、次の操作を行ってWindowsのヘルプを参照してください。

- 1** 電源をONにします。
- 2** [スタート]ボタン [プログラム] [PCカードユーティリティ] [WCARDCFG]の順にクリックします。
- 3** 「起動ドライブ」を指定し、[削除]ボタンをクリックするとCONFIG.SYSの設定が変更されます。
- 4** [スタート]ボタン [ヘルプ]の順にクリックします。
- 5** [目次]の画面で[トラブルシューティング]をクリックします。
- 6** 表示された項目から[PCカード(PCMCIA)に関する問題]をクリックします。
- 7** [PCカードを挿入しても自動的にインストールされません]をクリックします。

以降はWindowsの[ヘルプ]の指示にしたがって操作を行ってください。32ビットでPCカードを利用することができます。



32ビットで利用するように設定すると16ビットは利用できなくなります。

32ビットから16ビットに変更する

PCカードサポートを32ビットから16ビットに変更するには前ページの手順で再度登録を行います。16ビットで利用するように登録すると、32ビットは利用できなくなります。

ディスプレイ/プロジェクタを使う

本機にCRTディスプレイやプロジェクタ、テレビを接続することができます。CRTディスプレイを接続して大画面で作業をしたり、プロジェクタを接続して効果的なプレゼンテーションをすることができます。

ディスプレイの種類と解像度.....

別売のディスプレイを使用する場合は、接続する前に次の表を参考にして変換アダプタの要/不要、解像度等を確認してください。

解像度(ドット)		640×400	640×480	800×600	1,024×768	1,280×1,024			
使用できる CRTディスプレイ 変換アダプタ*	水平走査周波数	24kHz	31kHz ^{*5}	31kHz	38kHz ^{*6}	47kHz ^{*7}	60kHz	64kHz	80kHz
	垂直走査周波数	56Hz	70Hz	60Hz	60Hz ^{*6}	75Hz ^{*7}	75Hz	60Hz	75Hz
	変換アダプタ*								
	PC-KD1511		-	-	-	-	-	-	-
	PC-KD1521		-	-	-	-	-	-	-
	PC-KD854N		-	-	-	-	-	-	-
	PC-KD1421		-	-	-	-	-	-	-
	PC-KD1522				-	-	-	-	-
	PC-KH1711				*2	-	*2	-	-
	PC-KH2021				*2	-	*2	-	-
	PC-KM141 ^{*3}	*4			*2			-	-
	PC-KM151				*2				-
	PC-KM152 ^{*3}				*2				-
	PC-KM153 ^{*3}				*3			-	-
	PC-KM153R ^{*3}	*4			*3				-
	PC-KM153R2 ^{*3}								-
	PC-KM154 ^{*3}								-
	PC-KM171				*2				-
	PC-KM172 ^{*3}				*2				-
	PC-KM173 ^{*3}	*4						-	-
	PC-KM173R								-
	PC-KM173R2								-
	PC-KM174 ^{*3}								-
	PC-KM174R								-
	PC-KM175								-
	PC-KM211 ^{*3}	-							-
	PC-KM212 ^{*3}	-							-
	PC-KM291 ^{*3}				-	-	-	-	-
	PC-TD151				-	-	-	-	-
	PC-TD211				-	-	-	-	-

- :要
- :不要
- :表示可能
- :表示不可能
- *1:別売のディスプレイインタフェース変換アダプタ(PC-9821-K06)
- *2:初めてこの解像度を使用する場合、画面位置補正(ディスプレイの前面スイッチ操作)が必要です。
- *3:このディスプレイはWindowsのパワーマネジメント機能に対応しています。
- *4:CRTディスプレイに添付されている変換アダプタを使用して接続します。
- *5:CRTディスプレイでのみ表示可能です。
- *6:PC-9821Nw150で液晶ディスプレイとの同時表示にした場合、このリフレッシュレートになります。
- *7:PC-9821Nw133で液晶ディスプレイとの同時表示にした場合、このリフレッシュレートになります。

液晶プロジェクタの種類と解像度.....

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、接続する前に次の表を参考にして解像度等を確認してください。

表示解像度	走査周波数		ViewLight S800	ViewLight V600
	水平(kHz)	垂直(Hz)		
640×400	24	56		
640×400	31	70		
640×480	31	60		
800×600	38	60		*
	47	75		
1,024×768	60	75	*	


：表示可能。ただし、ユーザ調整の必要あり。

：表示不可能。

*：簡易表示です。なお、ViewLight S800の表示画素数は800×600ドット、ViewLight V600の表示画素数は640×480ドットですので、それぞれの画素数と異なる解像度を表示する際、文字や罫線の大きさなどが不均一になったり、一部が欠ける場合があります。

プロジェクタと液晶ディスプレイを同時表示にする

640×480ドット表示固定のプロジェクタ等と本機の液晶ディスプレイで同時表示をする場合、次のようにしてプロジェクタ等の表示をフルスクリーンにすることができます。

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 2 [画面]アイコン  をダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]タブをクリックします。
- 3 [詳細プロパティ]ボタンをクリックします。
- 4 [アダプタ]タブをクリックし、さらに[変更]ボタンをクリックします。
- 5 [すべてのデバイスを表示]の をクリックし、 にします。
- 6 製造元から[NEC]を選択し、モデルから[スタンダードディスプレイアダプタ(9821シリーズ)]を選択します。
- 7 [OK]ボタンをクリックします。
[閉じる]ボタンをクリックします。
さらに[閉じる]ボタンをクリックします。

Windowsを再起動するダイアログボックスが表示されるので、他のアプリケーションが終了していることを確認してから、はい ボタンをクリックすると、プロジェクタ表示をフルスクリーンにすることができます。このとき、プロジェクタの最大発色数は256色になります。また、この方法でプロジェクタ等と本機の液晶ディスプレイの同時表示を行っている場合、液晶ディスプレイでは画面のまわりが黒く表示されます。もとの設定に戻す場合は、『困ったときにお読みください』の「ハードウェアウィザードを起動してドライバのインストールを実行して再起動したら、640×480ドットの表示になった」をご覧ください。そこに記載されている手順と同様の手順でもとに戻すことができます。

CRTディスプレイを接続する.....

⚠警告



雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



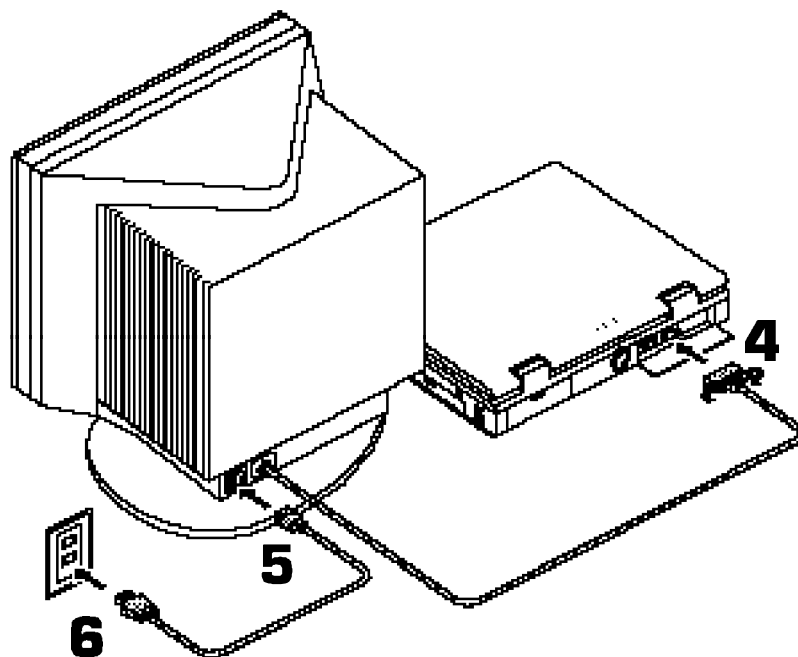
CRTディスプレイの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。
電源コードがACコンセントに接続されたまま、CRTディスプレイの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。




- 1 本機の電源をOFFにします。
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。
- 3 本機からACアダプタを取り外します。
- 4 ディスプレイ用ケーブルのコネクタを本機のCRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定します。
- 5 CRTディスプレイの電源ケーブルのコネクタを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込みます。

6 CRTディスプレイの電源ケーブルのプラグをACコンセントに接続します。

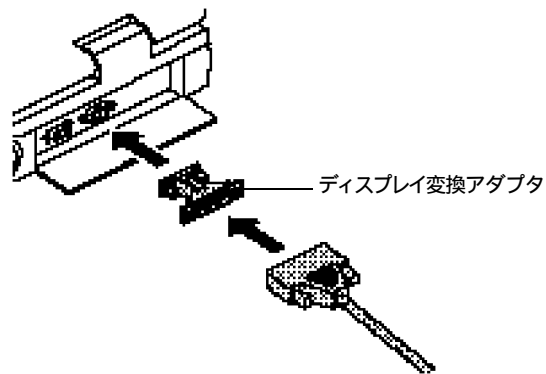


- ・ CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。また、本機とは別に、CRTディスプレイ用に電源が必要です。
- ・ 使用するディスプレイによっては、別売のディスプレイインタフェース変換アダプタ(PC-9821-K06)が必要です。
- ・ ディスプレイ用ケーブルをディスプレイに接続する場合、ディスプレイ側のアナログRGBコネクタは15ピンタイプを使用してください。21ピンタイプのコネクタは使用できません。
- ・ ディスプレイ用ケーブルのディスプレイ側コネクタには、「固定されているタイプ」と「着脱できるタイプ」があります。着脱できるケーブルのときには、手順5と同様にしてケーブルをディスプレイに接続してください。

 ディスプレイインタフェース変換アダプタを使用する場合の接続方法

ディスプレイインターフェイス変換アダプタを、本機のCRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定します。

ディスプレイ用ケーブルのコネクタをディスプレイインタフェース変換アダプタに差し込み、ネジを回して固定します。



テレビを接続する

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



感電注意

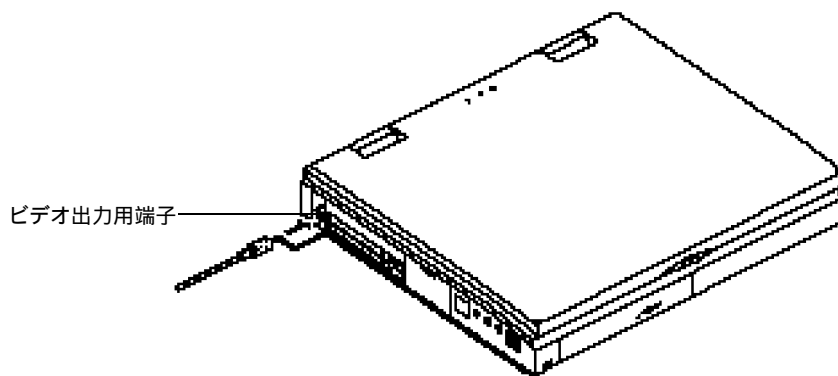
テレビの取り付け/取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

電源コードがACコンセントに接続されたまま、テレビの取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。



濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

- 1** 本機とテレビの電源をOFFにします。
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜きます。
- 3** 本機からACアダプタを取り外します。
- 4** 本機のビデオ出力用端子のカバーを開けます。
- 5** テレビのケーブルを本機に接続します。



- ・ テレビ側の接続についてはテレビのマニュアルをご覧ください。
- ・ テレビを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。また、本機とは別にテレビ用に電源が必要です。

ディスプレイに合わせて本機を設定する

別売のCRTディスプレイを使用する場合は、CRTディスプレイに合わせて、本機の設定を変更する必要があります。

- 1 CRTディスプレイが本機に正しく接続されていることを確認します。
640×400ドットの解像度を使用する場合は手順2へ、それ以外の場合は電源をONにしたあと手順3へ進んでください。
- 2 キーボードの **[GRPH]** と **[1]** または **[2]** のどちらかを同時に押しながら、本機の電源をONにします。**[1]** と **[2]** のどちらのキーを押すかは下の表を参照してください。すでに電源がONになっているときには、一度電源をOFFにしてからONにしておってください。


解像度(ドット)	水平走査周波数	設定方法
640×400	24kHz	[GRPH] と [1] を押しながら電源をONにする [ご購入時の設定]
	31kHz *	[GRPH] と [2] を押しながら電源をONにする

*: 水平走査周波数を31kHzにして別売のCRTディスプレイを接続すると本機の液晶ディスプレイには画面が表示されなくなります。また、別売のCRTディスプレイを接続していないときには、31kHzで起動しても自動的に24kHzになり、本機の液晶ディスプレイに表示可能になります。

- 3 Windows起動時に、新しいディスプレイが接続されていることを示すメッセージが表示されます。

これで設定は終了です。

表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイを使う場合には、次の操作が必要です。

- 1 [スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル] の順にクリックします。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
- 2 [画面] アイコン  をダブルクリックします。
[画面のプロパティ] が表示されます。
- 3 [ディスプレイの詳細] タブをクリックします。
- 4 [詳細プロパティ] ボタンをクリックします。
- 5 [モニター] タブをクリックし、[変更] ボタンをクリックします。

- 6** [すべてのデバイスを表示]がある場合はクリックします。
次の画面が表示されます。



- 7** [製造元] [モデル] を選択します。

製造元は、接続したディスプレイの製造元を選択してください。
モデルは、接続したディスプレイに対応した項目を選択してください。



ディスプレイ一覧に接続したディスプレイの種類が表示されない場合は、[製造元]で [(スタンダードモニター)] [モデル] では接続したディスプレイに対応している解像度を選んでください。

- 8** [OK] ボタンをクリックし、[閉じる] ボタンをクリックします。


- 9** 再び [OK] ボタンをクリックします。

- 10** Windowsを再起動するようメッセージが表示された場合は、他のアプリケーションソフトがすべて終了されていることを確認してから [はい] ボタンをクリックしてください。

これでディスプレイの設定ができました。

表示を切り替える

CRTディスプレイや液晶プロジェクタ、テレビなどを接続した場合、次のようにして画面の出力先を切り替えることができます。

- 1 起動しているアプリケーションソフトをすべて終了させます。
- 2 タスクバーの  をクリックします。
メニューが表示されます。
- 3 表示させたい出力先をクリックします。


項目	出力先
本体出力	液晶ディスプレイに表示。CRTディスプレイ接続時は液晶ディスプレイとCRTディスプレイに同時表示。
ディスプレイ出力*1	CRTディスプレイのみに表示。
テレビ出力*2	テレビ/ビデオ等のみに表示。

*1:640×480ドットのときには、フルスクリーン表示が可能です。
また、800×600ドットのときには、ディスプレイによってはコントロールパネルの設定により、より小さなサイズの少ない表示(垂直走査周波数75Hz)を選択することもできます。
*2:640×480ドットのときのみ選択可能です。

メッセージが表示されます。

- 4 フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、取り出します。
- 5 [OK] ボタンをクリックします。
画面が切り替わります。



「ディスプレイ出力」や「テレビ出力」が選択できない場合はタスクバーの  アイコンを右にクリックして [プロパティ] の設定を [使用する] にしてください。

表示画面の大きさを変える

本機の液晶ディスプレイとCRTディスプレイなどの画面の両方に同時に画面を表示させているとき、CRTディスプレイなどの画面が小さく表示されることがあります。このようなときには、次のような方法で画面を大きく表示させることができます。

「密度変換ユーティリティ」を使う



- ・ 密度変換ユーティリティは解像度が640×480ドットのときのみ使用できます。
- ・ 密度変換時には文字や罫線の太さが不均一になります。

1 起動しているアプリケーションソフトをすべて終了させます。

2 タスクバーの  アイコンをクリックします。

メニューが表示されます。



3 「密度変換」をクリックします。

密度変換ユーティリティが起動します。

4 表示モードを選択して [OK] ボタンをクリックします。

現在の解像度	変換できる表示方法
640×480ドット	拡大表示 (CRTディスプレイ + 本体液晶ディスプレイ)
	通常表示 (CRTディスプレイ + 本体液晶ディスプレイ)

本機が再起動し、画面が切り替わります。

MIDI対応機器/ジョイスティックを使う

本機には、MPU-401対応MIDI機器またはSoundBlaster16対応ジョイスティックを接続することができます。音楽やゲームを楽しむことができます。

MIDI対応機器/ジョイスティックを接続する...

本機にMIDI対応機器やジョイスティックを接続するには、次のうちどちらかの変換ケーブルが必要です(別売)

- ・ MIDI/JOYSTICK変換ケーブルA(PC-9821N-K07)
- ・ MIDI/JOYSTICK変換ケーブルB(PC-9821N-K08)

MIDI/JOYSTICK変換ケーブルAを使用するときには、プリンタは使用できません。MIDI/JOYSTICK変換ケーブルBを使用すると、プリンタとMIDI機器/ジョイスティックの両方を同時に使用することができます。

- 1** 本機の電源をOFFにします。
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから取り外します。
- 3** 本機からACアダプタを取り外します。
- 4** 本機のプリンタ用コネクタにMIDI/JOYSTICK変換ケーブルを差し込みます。
- 5** MIDI/JOYSTICK変換ケーブルにMIDI/JOYSTICK機器用のケーブルを接続します。



ジョイスティックの設定は、[スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル] の [ジョイスティック] アイコンで行います。詳しくは、ジョイスティックに添付されているマニュアルをご覧ください。

MIDI音源使用上の注意

- ・ 外部MIDI音源は、GENERAL MIDI規格対応音源の使用を推奨します。
- ・ MIDIデータの録音を行うには、別途アプリケーションソフトが必要です。

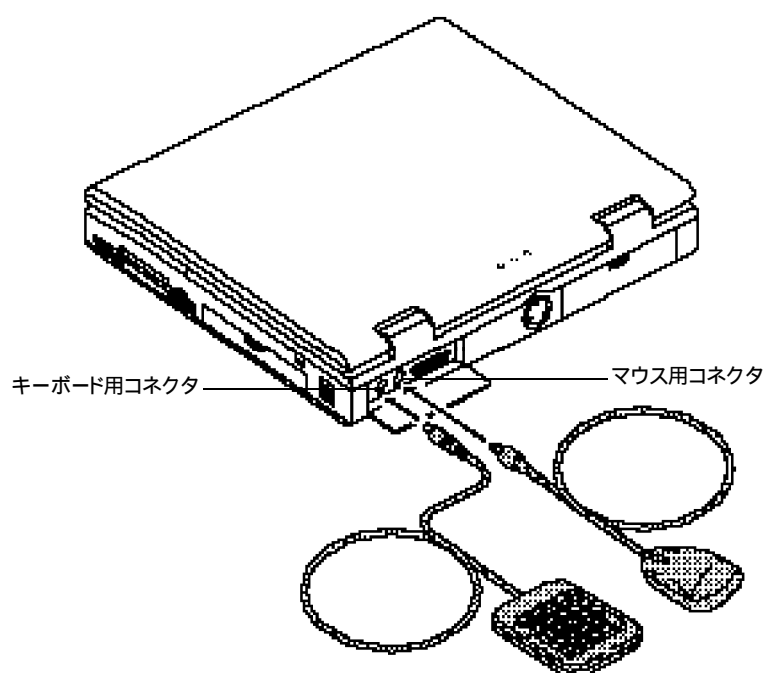
2

周辺機器を使う

入力装置を使う(マウス・キーボード・テンキーボード)

本機には、次のような別売の入力装置を接続して使用することができます。用途や使用する環境に合わせて入力装置を使い分けると便利です。

- ・マウス
- ・サムマウス
- ・キーボード
- ・テンキーボード



入力装置を接続する

- 1** 本機の電源をOFFにします。
- 2** それぞれのコネクタに印がある方を上にして差し込みます。



PC-9801-106またはPC-9801-119以外の外付けキーボードを接続しているときにはサスペンド機能やハイバネーション機能が使えない場合があります。

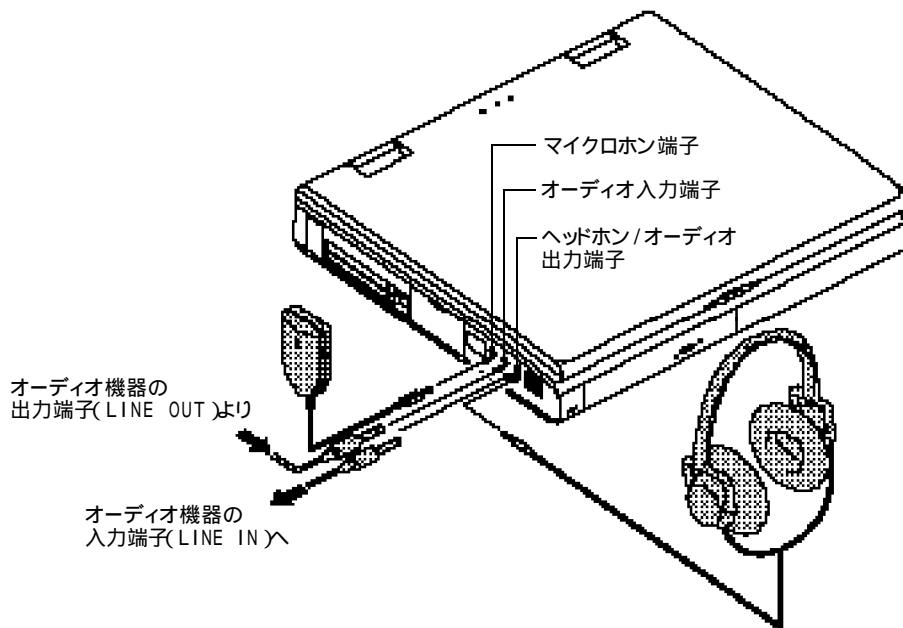


別売の入力機器と本機のキーボードやスライドパッドは同時に使うことができます。別売の入力機器だけを使いたいときには、98NOTEメニューで設定してください (P.118)。

オーディオ機器を使う

本機には、次のような別売のオーディオ機器を接続することができます。

- ・ヘッドホン
- ・マイクロホン
- ・オーディオプレーヤなど



2

周辺機器を使う



ハウリング

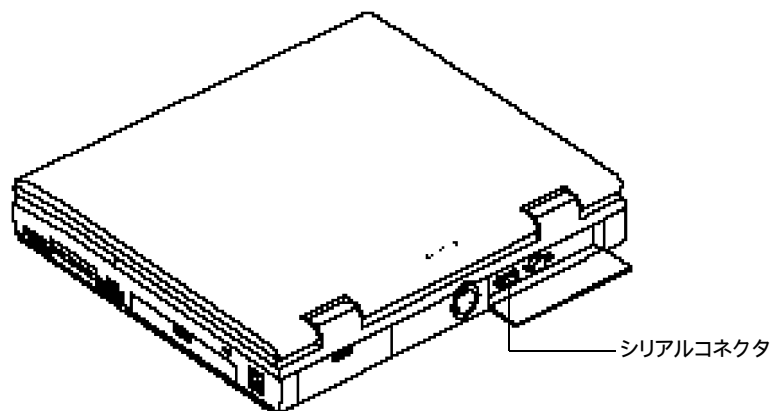
マイクロホンを本機の内蔵スピーカに近づけると、スピーカからキーンという大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいます。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・スピーカ音量調節つまみを回して、ボリュームを小さくする
- ・マイクロホンを内蔵スピーカから遠ざける
- ・[ボリュームコントロール]ウィンドウの[マイク]の音量つまみでボリュームを小さくする
- ・98NOTEメニューでマイクボリュームを下げる(MS-DOSで使用している場合)

シリアル対応機器を使う

本機のシリアルコネクタには、次のような通信用の拡張機器などを接続することができます。

- ・外付けモデム
- ・ターミナルアダプタ
- ・モデム内蔵の多機能電話
- ・音響カプラ
- ・デジタルカメラ
- ・イメージスキャナ



各機器の詳しい使用方法については各機器のマニュアルをご覧ください。



Part 3

システムの設定を変える

98NOTEメニューと
98NOTEメニューユーティリティ
割り込みレベル・DMAチャンネル・
ROMアドレス空間
メモリスイッチ(98環境設定ユーティ
リティ)

98NOTEメニューと98NOTEメニューユーティリティ

98NOTEメニューと98NOTEメニューユーティリティは、本機の使用環境を設定するための内蔵プログラムです。別売の機器を使用したいときなど、ご利用の状況に応じて設定を変更してください。

98NOTEメニューを起動する.....

98NOTEメニューは次の方法で起動します。

本機の電源がOFFになっているときの起動のしかた



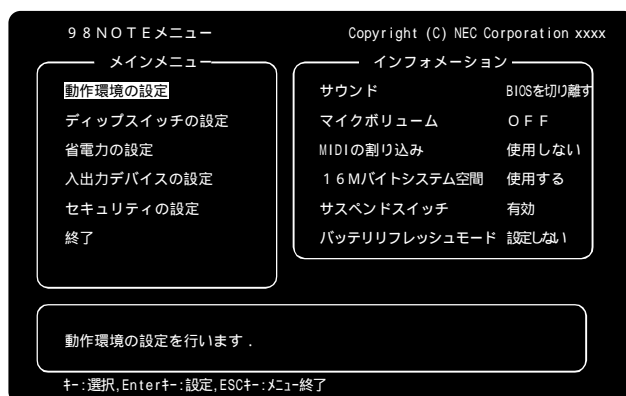
ハイバネーション状態のときには、この方法で98NOTEメニューを起動すると、保存されていた内容が失われます。
データを保存したいときには、一度電源をONにしてデータをファイルに保存してから電源をOFFにし、その後98NOTEメニューを起動してください。

1 キーボードの[HELP]を押しながら電源スイッチをスライドさせます。



電源をONにして「ピポッ」という音がしたら、キーボードの[HELP]から手を離してください。「ピポッ」という音がする前に手を離すと、98NOTEメニューが起動しません。また、このときスピーカのボリュームを最小にしていると「ピポッ」という音が鳴らないため注意してください。

98NOTEメニューの「メインメニュー画面」が表示されます。



サスペンド状態のときの起動のしかた



この方法で98NOTEメニューを起動すると、サスペンドの内容が失われます。

- 1 キーボードの **[HELP]** を押しながらサスペンドスイッチを押します。

98NOTEメニューの「メインメニュー画面」が表示されます。



「メインメニュー画面」が表示されてから、キーボードの **[HELP]** から手を離してください。

セットアップパスワード設定中の起動のしかた



ハイパーション状態のときには、この方法で98NOTEメニューを起動すると、保存されていた内容が失われます。

データを保存したいときには、一度電源をONにしてデータをファイルに保存してから電源をOFFにし、その後98NOTEメニューを起動してください。

- 1 キーボードの **[HELP]** を押しながら、電源スイッチをスライドさせて電源をONにします。

次のような画面が表示されます。

セットアップパスワード = █

- 2 キーボードから、設定されているパスワードを入力します。



パスワードの入力中に、キーボードの **[BS]** を押しても文字を修正することはできません。

3

システムの設定を変える

3 キーボードの を押します。

正しいパスワードが入力されると、98NOTEメニューが起動します。



- ・ 誤ったパスワードが入力されると、「パスワード不一致」と表示されます。正しいパスワードを入力してください。
- ・ パスワードの入力に3回失敗すると、「パスワードエラー」と表示され、「ピー」という警告音のあと、自動的に電源がOFFになりますので、最初からやり直してください。



- ・ パスワード設定中にハイバネーション状態にしたときも、上記と同様の手順で98NOTEメニューを起動することができます。
- ・ ハイバネーション状態から本機をONにして上記の手順を行った場合、パスワードの入力に3回失敗すると「パスワードエラー」と表示され「ピー」という警告音のあと、自動的に電源がOFFになってハイバネーション状態に戻ります。

セットアップパスワード設定中でサスペンド状態のときの起動のしかた



サスペンド状態のときに98NOTEメニューを起動すると、サスペンドの内容が失われます。
データを保存したいときには、一度レジュームしてデータをファイルに保存してから電源をOFFにし、その後98NOTEメニューを起動してください。

セットアップパスワードを設定しているときにサスペンド状態にした場合には、98NOTEメニューの起動時にセットアップパスワードを2回入力する必要があります。

1 キーボードの を押しながら、サスペンドスイッチを押します。

電源ランプが点灯します。

セットアップパスワードの入力を求める「ピッピッピッ」という警告音が鳴ります(画面には何も表示されません)。

2 セットアップパスワードを入力します。



- ・パスワードの入力中にキーボードの **[BS]** を押しても、文字を修正することはできません。
- ・誤ったパスワードが入力されると、「ピーッピッピッ」と警告音が鳴ります。正しいパスワードを入力してください。
- ・パスワードの入力に3回失敗すると「ピー」という警告音のあと、自動的にサスペンド状態に戻りますので、最初からやり直してください。

3 キーボードの **[Enter]** を押します。

正しいパスワードが入力されると、「セットアップパスワード = 」という画面が表示されるので、もう一度パスワードを入力し、**[Enter]** を押します。



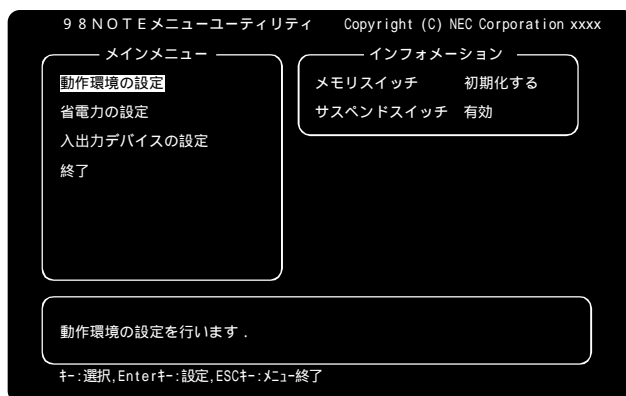
- ・誤ったパスワードが入力されると、「パスワード不一致」と表示されます。正しいパスワードを入力してください。
- ・パスワードの入力に3回失敗すると「パスワードエラー」と表示され、「ピー」という警告音のあと、自動的にサスペンド状態に戻りますので、最初からやり直してください。


98NOTEメニューが起動します。

98NOTE メニューユーティリティを起動する....

98NOTE メニューユーティリティを起動するには、次の方法があります。

- 1 [スタート]ボタン [プログラム] [アクセサリ] [98NOTEメニューユーティリティ]の順にクリックします。98NOTEメニューユーティリティが起動します。



 98NOTEメニューユーティリティは、MS-DOSプロンプトから起動することもできます。起動方法は次のとおりです。

- 1 [スタート]ボタン [プログラム] [MS-DOSプロンプト]の順にクリックします。
- 2 「POPMENU」と入力して[Enter]を押します。



98NOTEメニューと98NOTEメニューユーティリティの違い

98NOTEメニューはWindowsを終了させてからでないと使えません。98NOTEメニューユーティリティはWindowsから直接使うことができます。

98NOTE メニューの設定項目

動作環境の設定

サウンド	使用する	<input type="checkbox"/> BIOSを切り離す	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない
マイクボリューム ²		<input type="checkbox"/> OFF	<input checked="" type="checkbox"/> ON(レベル5/8)
MIDIの割り込み ²	使用する	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	
16Mバイトシステム空間	使用する	<input type="checkbox"/> 切り離す	
サスペンドスイッチ	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> 無効	
バッテリーフレッシュモード	設定する	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	

ディップスイッチの設定

SW1-5、SW1-6(シリアル伝送方式)	<input checked="" type="checkbox"/> 調歩同期	<input type="checkbox"/> 同期刻時	<input type="checkbox"/> ST2同期	<input type="checkbox"/> BCI同期
SW1-8(グラフィックモード)	基本モード	<input checked="" type="checkbox"/> 拡張モード		
SW2-5(メモリスイッチ)	<input checked="" type="checkbox"/> 初期化する	<input type="checkbox"/> 初期化しない		
SW2-6(内蔵ハードディスク)	使用する	<input type="checkbox"/> 切り離す		
SW2-7(vfキー)	使用する	<input type="checkbox"/> 使用しない		
SW2-8(GDCモード)	2.5MHz	<input checked="" type="checkbox"/> 5MHz		

省電力の設定

省電力モード	<input checked="" type="checkbox"/> フルパワー	<input type="checkbox"/> エコノミー	<input type="checkbox"/> カスタム
液晶ディスプレイ自動停止 ³	設定する(約11分)	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	
内蔵ハードディスク自動停止 ³	設定する(約3分)	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	
CPU自動停止 ³	設定する	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	
LCD連動サスペンド/レジューム	使用する	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	
オートサスペンド	設定する(約13分)	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	

入出力デバイスの設定

98スライドパッド	使用する	<input type="checkbox"/> 使用しない	
タップ&ドラッグ機能 ⁴	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> 無効	
キーボード指定 ⁵	<input checked="" type="checkbox"/> 内蔵	<input type="checkbox"/> 外付け	
NUMキーのロック機能	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> 無効	
赤外線通信機能	使用する	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	
モデム	<input checked="" type="checkbox"/> プラグ&プレイモード	<input type="checkbox"/> 従来互換モード 使用しない	

セキュリティの設定

パワーオンパスワード	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	使用する	<input type="checkbox"/> 変更する
セットアップパスワード	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	使用する	<input type="checkbox"/> 変更する
シリアルI/Oロック	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	設定する	<input type="checkbox"/>
赤外線通信機能I/Oロック ⁶	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	設定する	<input type="checkbox"/>
プリンタI/Oロック	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	設定する	<input type="checkbox"/>
FD I/Oロック	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	設定する	<input type="checkbox"/>

 ...工場出荷時の設定です。

3

システムの設定を変える

- 1: PC-9821Nw133/D14では「BIOSを切り離す」の項目はありません。{使用する}が既定値です。
- 2: 「サウンド」が「使用しない」と設定不可。
- 3: 「省電力モード」が「フルパワー」だと「設定しない」に、{エコノミー}だと「設定する」に固定される。
- 4: 「98スライドパッド」が「使用しない」と設定不可。
- 5: 別売のキーボード接続時のみ設定可。
- 6: 「入出力デバイスの設定」の「赤外線通信機能」が「使用しない」になっているときには設定不可。

98NOTEメニューユーティリティの設定項目...


動作環境の設定	
メモリスイッチ	<input checked="" type="button" value="初期化する"/> 初期化しない
サスペンドスイッチ	<input checked="" type="button" value="有効"/> 無効
省電力の設定	
省電力モード	<input checked="" type="button" value="フルパワー"/> エコノミー カスタム
液晶ディスプレイ自動停止 ¹	設定する(約11分) <input checked="" type="button" value="設定しない"/>
内蔵ハードディスク自動停止 ¹	設定する(約3分) <input checked="" type="button" value="設定しない"/>
CPU自動停止 ¹	設定する <input checked="" type="button" value="設定しない"/>
LCD連動サスペンド/レジューム	使用する <input checked="" type="button" value="使用しない"/>
オートサスペンド	設定する(約13分) <input checked="" type="button" value="設定しない"/>
入出力デバイスの設定	
98スライドパッド	<input checked="" type="button" value="使用する"/> 使用しない
タップ&ドラッグ機能 ²	<input checked="" type="button" value="有効"/> 無効
NUMキーのロック機能	<input checked="" type="button" value="有効"/> 無効

...工場出荷時の設定です。

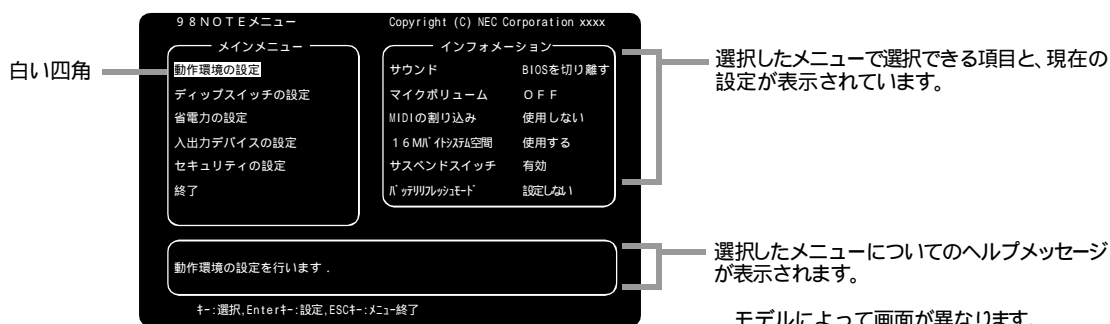
- 1: 「省電力モード」が「フルパワー」だと「設定しない」に、{エコノミー}だと「設定する」に固定される。
- 2: 「98スライドパッド」が「使用しない」と設定不可。

98NOTEメニューの使い方

98NOTEメニューを起動すると、まずメインメニューが表示されます。各項目の設定は、メインメニューから設定画面を表示させて行います。

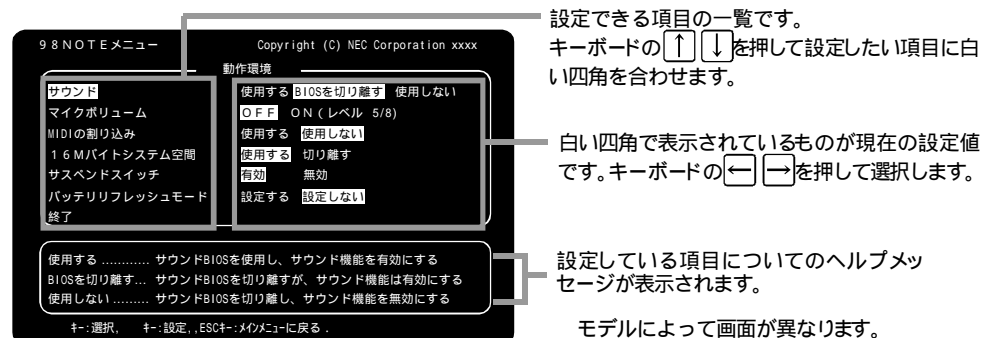
 98NOTEメニューおよび98NOTEメニューユーティリティではポインティングデバイスは使えません。操作はすべてキーボードで行ってください。

メインメニュー メインメニューには設定できるメニューの一覧が表示されます。



キーボードの \uparrow / \downarrow を押して白い四角を設定したいメニューに合わせて \rightarrow を押します。

設定画面 設定できる各項目と設定値が表示されます。

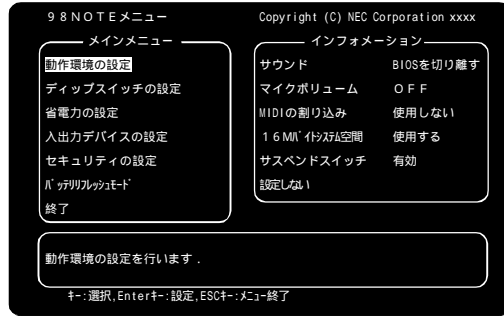


キーボードの ESC を押すか、 \uparrow / \downarrow を押して白い四角を「終了」に合わせて \rightarrow を押します。

3

システムの設定を変える

メインメニュー メインメニューに戻ります。



この画面でキーボードの[ESC]を押すか、[↑][↓]を押して白い四角を「終了」に合わせて[↵]を押すとメニューが終了します。

各項目の詳細

動作環境の設定

サウンド

内蔵のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。

PC-9821Nw150/S20でサウンドBIOSを使用する場合は、{使用する}に設定してください。



- ・PC-9821Nw150/S20でEMSを使用するアプリケーションソフトを起動すると、「メモリが足りません」と表示されるときは、{BIOSを切り離す}に設定してください。
- ・{使用しない}にすると留守番電話機能やスピーカホン機能は使用できません。

マイクボリューム

マイクロホンの入力レベルを調節します。

{0N(レベル5/8)}に設定した場合、レベルはキーボードの [ROLL UP]、[ROLL DOWN] で変更できます。[ROLL UP] を押すとボリュームが大きくなり、[ROLL DOWN] を押すとボリュームが小さくなります。入力レベルは8段階で調節できます。

「サウンド」を{使用しない}に設定している場合、「マイクボリューム」の項目は設定できません。

また、Windows 95で出力される音に対しては、ここでの設定は無効になります (P.43)。

MIDIの割り込み

本機にMIDI機器を接続して使用するときには「使用する」に設定します。「サウンド」を「使用しない」に設定している場合、「MIDIの割り込み」の項目は設定できません。

16Mバイトシステム空間

メモリアドレスF00000h ~ FFFFFFFhの空間を16Mバイトシステム空間と呼びます。このシステム空間を使用するOS、アプリケーションソフトを使う場合や、Windowsを使用する場合には「使用する」に設定してください。



「使用する」に設定し、メモリを16Mバイト(ユーザーズメモリ15.6Mバイト)以上搭載している場合、メモリチェック時に表示されるメモリ容量は、実際のメモリ容量より1Mバイト少ない容量が表示されます。


サスペンドスイッチ

サスペンドスイッチによるサスペンドができないようにするときには「無効」にします(「無効」にしてもサスペンドスイッチ以外の方法でのサスペンドやレジュームなどは可能)



「無効」のときには、バッテリー容量がなくなったときサスペンド状態にならずに電源がOFFになります。


バッテリーリフレッシュモード

バッテリーリフレッシュモードは、バッテリーを完全に放電させてバッテリーの能力を復旧させる機能です。バッテリー充電ランプ()がオレンジ色に点滅したら、この機能を実行してください。



バッテリー充電ランプがオレンジ色に点滅していないときにバッテリーリフレッシュをする場合は手順1は必要ありません。ACアダプタを取り外してから手順2に進んでください。

<バッテリーリフレッシュの手順>

- 1 本機から一度バッテリーパックを取り外し、再度取り付けます( P. 13)。ACアダプタは接続しないでください。
- 2 98NOTEメニューを起動します。
- 3 98NOTEメニューの「動作環境の設定」の画面で、バッテリーリフレッシュモードを「設定する」にします。

約3分後に液晶ディスプレイに「バッテリーリフレッシュ中」と表示されます。



- ・ バッテリリフレッシュモードを実行中に98NOTEメニューを終了すると、バッテリリフレッシュモードは中断されます。
- ・ バッテリリフレッシュモードの実行中には、本機からバッテリーパックを取り外さないでください。

4 自然に電源がOFFになるとバッテリリフレッシュモードの終了です。

5 ACアダプタを接続すると、バッテリ充電ランプがオレンジ色に点灯し、バッテリの充電が始まりますので、ランプが消灯するまで充電してください。



- ・ バッテリリフレッシュに必要な時間はP.180をご覧ください。
- ・ バッテリリフレッシュを行ってもバッテリ充電ランプが点滅するときには、ご購入元または最寄りのBit-INNIにご連絡ください。

ディップスイッチの設定

メインメニューで「ディップスイッチの設定」を選択すると、次のような画面が表示されます。

ディップスイッチは、本機を機器の構成に応じて正しく動作させたり、機能を変更したりするための重要なスイッチです。ディップスイッチは、一般的な使用条件にそって、あらかじめ設定されています。特に必要のない限りは、変更しないでください。

98NOTEメニュー Copyright (C) NEC Corporation xxxx

ディップスイッチ

SW1 SW2 SW3

OFF ON

1 2 3 4 5 6 7 8 1 2 3 4 5 6 7 8 1 2 3 4 5 6 7 8

[HOME CLR]キーで工場出荷時の設定に戻すことができます

メモリスイッチの初期化の指定を下記の通りに設定します
[初期化する]

←: 選択, →: 設定, ESC←: メインメニューに戻る.

キーボードの←→で設定したいスイッチに反転表示を合わせ、↑↓でON/OFFを設定します。

[HOME CLR]でご購入時の設定に戻ります。設定が終了したら、[ESC]を押してメインメニューに戻ります。

選択しているスイッチの説明と、現在の設定値が表示されています。

ご購入時の設定

ディップスイッチを変更した場合、SW2 5のみ設定と同時に有効になります。それ以外のディップスイッチについては、本機を起動しなおしたときから有効になります。

ディップスイッチの機能

それぞれのスイッチの機能とON/OFF時の設定値は次のとおりです。

SW 1

スイッチ番号	スイッチの機能	ON	OFF
1	未使用	常にONの状態で使用してください。	
2	未使用		常にOFFの状態で使用してください。
3			
4			
5	シリアル伝送方式	注1 参照	
6			
7	未使用	常にONの状態で使用してください。	
8	グラフィックモード	拡張モード	基本モード

ご購入時の設定

注1 SW1-5、SW1-6シリアルの伝送方式の選択

SW1-5	SW1-6		機能内容
ON	ON	BC1同期	送信タイミングに本機内部タイマを使用、受信タイミングにはモデムのクロックを使用
ON	OFF	ST2同期	送・受信タイミングとして、モデムより供給されるクロックを使用
OFF	ON	同期刻時	受信タイミングは受信データから作られるクロックを使用、送信は本機内部タイマを使用
OFF	OFF	調歩同期	送・受ともに本機内部タイマを使用

ご購入時の設定

SW1-5、SW1-6(シリアル伝送方式)

通信をするときの、送信タイミングと受信タイミングを設定します。

SW1-8(グラフィックモード)

液晶ディスプレイの画面表示を、拡張グラフィックモードで表示するか、基本グラフィックモードで表示するかを設定します。{ ON } (拡張モード) に設定すると4,096色中16色表示に、{ OFF } (基本モード) に設定すると8色中8色表示になります。

この設定はスタンダードディスプレイアダプタ使用時のみ有効です。

SW 2

スイッチ番号	スイッチの機能	ON	OFF
1	未使用		常にOFFの状態で使用してください。
2			
3	未使用	常にONの状態で使用してください。	
4			
5	メモリスイッチ	初期化しない	初期化する
6	内蔵ハードディスク	切り離す	使用する
7	vfキー	使用しない	使用する
8	GDCモード	5MHz	2.5MHz

ご購入時の設定

SW2-5(メモリスイッチ)

メモリスイッチは、ディップスイッチと同じように、本機の状態を設定するスイッチです。メモリスイッチの内容は、Windows 95では、[コントロールパネル]の[98環境]で設定します。また、MS-DOSの場合は、SWITCHコマンドで設定します。設定方法は「メモリスイッチ」(P.130)をご覧ください。

このディップスイッチでは、電源をONにしたときなどに、変更したメモリスイッチの内容を初期化するか、変更した内容を保持するかを設定します。

メモリスイッチを変更する場合には、メモリスイッチの変更の前に必ずこのSW2-5を{ON}初期化しない)にしてください。{OFF}初期化する)のままで、電源をOFFにすると、メモリスイッチの内容がご購入時の状態に戻ってしまいます。



メモリスイッチの内容は、本機内蔵のリチウムバッテリーによって保たれています。本機の電源をOFFにしたままの状態が2カ月ほど続くと、98NOTEメニューでメモリスイッチを{初期化しない}にしているにもかかわらず、ご購入時の設定に戻ってしまうことがあります。このような場合には、メモリスイッチを{初期化する}に設定し、一度98NOTEメニューを終了します。メニューが終了し、本機が再起動したのち、再度メモリスイッチを{初期化しない}にしてからメモリスイッチを設定しなおしてください。

SW2-6(内蔵ハードディスク)

本機内蔵のハードディスクを使用するかどうかを設定します。{ON}切り離す)にすると、内蔵のハードディスクは使用できなくなります。

SW2-7(vfキー)

キーボードのvfキーを使用するかどうかを設定します。vfキーを使用するかどうかは、お使いになるアプリケーションソフトによります。なお、vfキーを使用するときは、キーボードの[**NUM**]をロックしてください。

SW2-8(GDCモード)

グラフィック処理速度を選択します。

ご購入時には、高速にグラフィック描画ができるように{ON}5MHz)に設定されています。

市販のアプリケーションソフトの中には、まれにこの設定で正常に動作しないものがありますので、そのような場合は、{OFF} 2.5MHz)に設定してください。
この設定はスタンダードディスプレイアダプタ使用時のみ有効です。

S W 3

スイッチ番号	スイッチの機能	ON	OFF
1	未使用		常にOFFの状態で使用してください。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8	未使用	常にONの状態で使用してください。	

 ご購入時の設定

3

システムの設定を変える

省電力の設定



- ・次に本機を起動しなおしたときから設定内容が有効になります。
- ・Windows 95上で「液晶ディスプレイ自動停止」「CPU自動停止」「オートサスペンド」の機能を利用するときには、Windows 95のCD-ROMの自動挿入の設定をオフにしてください。CD-ROMの自動挿入の設定のオフのしかたはP.20をご覧ください。
- ・Windows 95上で「ディスクドライブの省電力モード」の機能を利用する場合には、Windows 95のパワーマネージメント機能の「ディスクドライブ」タブで設定してください（P.31）。98NOTEメニューの「内蔵ハードディスク自動停止」で設定してもWindows 95では、設定は有効になりません。

省電力モード





本機の動作モードを設定します。「エコノミー」または「カスタム」にすると消費電力を抑えることができます。通常は「フルパワー」の設定で使用してください。

項目	機能
フルパワー	本機の機能を最大限に使用するモードです。
エコノミー	液晶ディスプレイ自動停止(約1分)、内蔵ハードディスク自動停止(約1分)、CPU自動停止が自動的に設定されるモードです。
カスタム	液晶ディスプレイ自動停止、内蔵ハードディスク自動停止、CPU自動停止を自由に設定することができるモードです。



- ・「フルパワー」に設定すると、「液晶ディスプレイ自動停止」「内蔵ハードディスク自動停止」「CPU自動停止」は「設定しない」に固定されます。
- ・「エコノミー」に設定すると、「液晶ディスプレイ自動停止」「内蔵ハードディスク自動停止」「CPU自動停止」は「設定する」に固定されます。
- ・ Windows上でも省電力の設定をすることができます(P.28)。

液晶ディスプレイ自動停止





{設定する}に設定しておく、キーボードやポインティングデバイス、CD ROMドライブ、フロッピーディスクドライブ、ハードディスク、プリンタ、モデム(シリアルインターフェイス)を使用しないで設定した時間が経過すると、液晶ディスプレイのバックライトが自動的に消灯します。キーボードやポインティングデバイスを使うと、バックライトが再び点灯します。時間の設定は、キーボードの 、で行います。を押すと、時間が長くなり、を押すと、時間が短くなります。最小約1分から最大約13分まで設定することができます。



- ・ ディスプレイの制御は、本機の液晶ディスプレイに対してのみ機能します。別売のCRTディスプレイ(パワーマネージメント対応のものを含む)に対しては、機能しません。別売のCRTディスプレイの省電力機能についてはP.29をご覧ください。
- ・ Windows 95で本機能を使用する場合は、98NOTEメニューで「液晶ディスプレイ自動停止」を設定しないで、[コントロールパネル]の[画面]アイコン [スクリーンセーバー]タブで設定してください。

内蔵ハードディスク自動停止

内蔵のハードディスクのモータの制御時間を設定します。

{設定する}にしておく、アクセスしないで設定した時間を経過すると、内蔵のハードディスクの回転を自動的に停止します。再びアクセスを行うと、自動的に回転を始めます。時間の設定は、キーボードの 、で行います。を押すと、時間が長くなり、を押すと、時間が短くなります。最小約1分から最大約13分まで設定することができます。



Windows 95使用時にこの機能を有効にするには、Windowsのパワーマネージメント機能の[ディスクドライブ]タブで設定してください(P.31)。98NOTEメニューおよび98NOTEメニューユーティリティで設定してもWindowsでは無効になります。

CPU 自動停止

バッテリーで使用しているときに、消費電力を抑え、バッテリーでの使用時間をのばす機能です。



ACアダプタを接続しているときには、CPU自動停止は働きません。

LCD連動サスペンド/レジューム

{使用する}にすると、液晶ディスプレイの開閉でサスペンド/レジュームすることができます。液晶ディスプレイを閉じると、作業中の内容が自動的にサスペンドされます。また、液晶ディスプレイを開けると、自動的にレジュームされます。



- ・ 連続して液晶ディスプレイを開閉して、サスペンド/レジュームすると、本機に負担がかかります。フタの開閉は、サスペンドランプが点灯してから少なくとも5秒以上の間隔をあげてください。
- ・ [LCD連動サスペンド/レジューム]の設定を{使用する}にしている、Windows 95を終了させる場合は、本機の電源がOFFになったことを確認してから、液晶ディスプレイを閉じてください。

オートサスペンド

オートサスペンドは、キーボードやポインティングデバイス、CD-ROMドライブ、フロッピーディスクドライブ、ハードディスク、プリンタ、モデム(シリアルインタフェース)、赤外線通信機能を使用しないで設定した時間が経過すると、自動的に本機をサスペンド状態にする機能です。作業を再開したいときには、サスペンドスイッチを押すとレジュームされます。

時間の設定は、キーボードの **ROLL UP**、**ROLL DOWN** で行います。**ROLL UP** を押すと、時間が長くなり、**ROLL DOWN** を押すと、時間が短くなります。最小約5分から最大約29分まで設定することができます。



「オートサスペンド」はWindowsのパワーマネージメント機能の「自動中断」と同じ機能です。「オートサスペンド」と「自動中断」の設定は連動するため、あとから設定した方が有効になります(P. 18)。

入出力デバイスの設定

98スライドパッド

98スライドパッドを使用するかどうかを設定します。

{使用しない}にすると、98スライドパッドが使用できなくなり、ワープロなどのキー入力操作時の誤操作を防ぐことができます。

タップ&ドラッグ機能

98スライドパッドでのタップ&ドラッグの操作を有効にするかどうかを設定します。{無効}にすると、タップ&ドラッグの操作ができなくなります。

「98スライドパッド」を{使用しない}に設定している場合、「タップ&ドラッグ機能」の項目は設定できません。

キーボード指定

本機に別売の外付けキーボードを接続した場合、本機のキーボードと外付けのキーボードのどちらを使うかを設定します。



「キーボード指定」は本機に別売の外付けキーボードを接続している場合のみ設定できます。

NUMキーのロック機能

NUMのロック機能を使用するかどうかを設定します。

{無効}にすると、**NUM**をロックできなくなり、テンキー入力モードやvfキーが使用できなくなります。



98NOTEメニューユーティリティで設定するときに**NUM**がロックされていると「NUMキーのロック機能」を{有効}から{無効}に変更することはできません。98NOTEメニューユーティリティを終了させてから**NUM**を押してロックを解除し、再度設定してください。

赤外線通信機能

赤外線通信機能を使うとき{使用する}に設定します。

{使用しない}にすると、割り込みレベルINT1(IRQ5)が解放できます。



- ・「セキュリティの設定」で「赤外線通信機能I/Oロック」を「設定する」にしているときは「赤外線通信機能」の項目は設定できません。
- ・赤外線通信機能は、割り込みレベルINT1(IRQ5)でのみ使用できます。他の機器でこの割り込みを使用しているときは「赤外線通信機能」を{使用する}に設定することができなくなります。
- ・{使用する}に設定するときには、必ずINT1(IRQ5)が解放されていることを確認してください。

モデム

ご購入時には「プラグ&プレイモード」に設定されています。

WindowsNT3.51/4.0など、プラグ&プレイモードに対応していないソフトウェアを使用するときには「従来互換モード」に設定してください。「使用しない」にするとFAXモデムの割り込みを解放することができます。

セキュリティの設定



Windows 95でI/Oロックを使用する場合には、98NOTEメニューの設定の前に「I/Oロックを使用するときの注意」(P.124)をご覧ください。

パワーオンパスワード

パワーオンパスワードを設定すると、本機の電源をONにしたときに、パスワードの入力を求められます。パスワードを入力しないと、本機を使用することができません。パスワードを知らない人が、無断で本機を使用するのを予防することができます。

パワーオンパスワードの設定方法はP.121、変更方法はP.122をご覧ください。



パワーオンパスワードを忘れると、本機を使用できなくなります。設定したパスワードは忘れないよう控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要ですので、Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください(『98あんしんサポートガイド』をご覧ください)。

- ・ パスワード解除処置は保証期間内でも有償です。
- ・ パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- ・ パスワード解除処置を依頼されるときには、次のものをすべてご用意ください。

本機の購入を証明するもの(保証書等)

身分証明書(お客様ご自身を確認できるもの)

印鑑

- ・ パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身により専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応いたしかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

セットアップパスワード

セットアップパスワードを設定すると、98NOTEメニューを起動するときに、パスワードの入力を求められます。パスワードを入力しないと、98NOTEメニューを起動することができません。パスワードを知らない人が、無断で98NOTEメニューの設定を変えるのを予防することができます。

セットアップパスワードの設定、変更、解除方法はパワーオンパスワードと同じです（P. 121、122）。



- ・セットアップパスワードを設定していない場合、使用者以外が故意に、または誤ってパワーオンパスワードやセットアップパスワードを設定してしまうと、本機が使用できなくなったり、98NOTEメニューが起動できなくなります。このような恐れがある場合は、セットアップパスワードを設定しておいてください。
- ・セットアップパスワードを忘れると、98NOTEメニューを起動できなくなります。設定したパスワードは忘れないよう控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要ですので、Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションにご連絡ください（『98 あんしんサポートガイド』をご覧ください）。

- ・パスワード解除処置は保証期間内でも有償です。
- ・パスワード解除処置は原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- ・パスワード解除処置を依頼される際には、次のものをすべてご用意ください。

本機の購入を証明するもの（保証書等）

身分証明書（お客様ご自身を確認できるもの）

印鑑

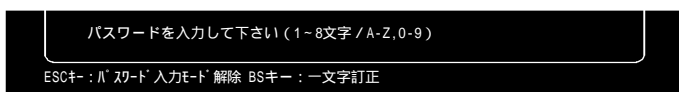
- ・パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身より専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応いたしかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

パスワードを設定する

パワーオンパスワード、セットアップパスワードとも、パスワードの設定方法は同じです。

1 キーボードの \uparrow \downarrow を押して、設定するパスワードの種類を選びます。

2 キーボードの \leftarrow \rightarrow を押して、使用する $\{$ を選びます。
画面の下部に、パスワードの入力画面が表示されます。



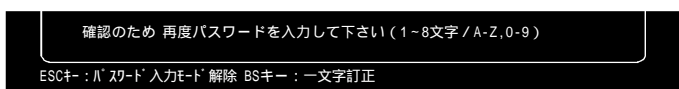
3 キーボードからパスワードを入力します。



- ・ 使用できる文字は、AからZまでのアルファベットと、0から9までの数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは、最小1文字から最大8文字まで入力できます。
- ・ キーボードの $\boxed{\text{ESC}}$ を押すと、パスワードの入力は中止され、 $\{$ 使用しない $\}$ に戻ります。

パスワードを入力すると、カーソルのところに「 * 」が表示されます。

4 キーボードの $\boxed{\text{ENTER}}$ を押します。
画面の下部に、次のように表示されます。



5 確認のため、手順3で入力したパスワードをもう一度入力します。
パスワードを入力すると、カーソルのところに「 * 」が表示されます。

6 キーボードの $\boxed{\text{ENTER}}$ を押します。
入力したパスワードが正しい場合は、「OK! 」と表示されパスワードの設定が終了します。



入力したパスワードが誤っている場合は、パスワードの設定は中止され、 $\{$ 使用しない $\}$ に戻ります。

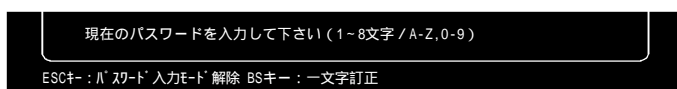
3

システムの設定を変える

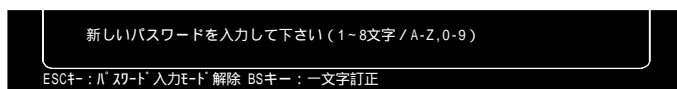
パスワードを変更する

パワーオンパスワード、セットアップパスワードとも、パスワードの変更方法は同じです。

- 1 キーボードの \uparrow \downarrow を押して、変更するパスワードの種類を選びます。
- 2 キーボードの \rightarrow を押して、 $\{$ 変更する $\}$ を選びます。
画面の下部に、パスワードの入力画面が表示されます。



- 3 キーボードから、現在使用しているパスワードを入力します。
パスワードを入力すると、カーソルのところに「*」が表示されます。
- 4 キーボードの \rightarrow を押します。
入力したパスワードが正しい場合は、次のように表示されます。



入力したパスワードが誤っている場合は、パスワードの変更は中止され $\{$ 使用する $\}$ に戻ります。

- 5 キーボードから、新しいパスワードを入力します。
 - 使用できる文字は、AからZまでのアルファベットと、0から9までの数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは、最小1文字から最大8文字まで入力できます。
 - キーボードの \rightarrow を押すと、パスワードの変更は中止され $\{$ 使用する $\}$ に戻ります。

パスワードを入力すると、カーソルのところに「*」が表示されます。

- 6 キーボードの \rightarrow を押します。
- 7 確認のため、手順5で入力したパスワードをもう一度入力します。
- 8 キーボードの \rightarrow を押します。

入力したパスワードが正しい場合、画面下部に「パスワードは変更されました」と表示されてパスワードの変更が終了し、 $\{$ 使用する $\}$ に戻ります。

パスワードを解除する

- 1 キーボードの \uparrow \downarrow を押して、「パワーオンパスワード または」セッアップパスワード」を選びます。
- 2 キーボードの \leftarrow を押して、「使用しない」を選びます。
画面の下部に、パスワードの入力画面が表示されます。
- 3 キーボードから現在使用しているパスワードを入力します。
- 4 キーボードの \rightarrow を押します。
入力されたパスワードが正しい場合は、画面下部に「OK! 」と表示され、パスワードが解除されます。



入力したパスワードが誤っている場合には、パスワードの解除は中止され、使用する」に戻ります。

シリアル I/Oロック

{ 設定する }にすると、次回起動時からはシリアルインターフェイスが使用できません。この機能により、シリアルインターフェイスからプログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。

この機能を使用するときは、必ずセッアップパスワードを設定してください。



Windows 95使用時に「シリアルI/Oロック」を{ 設定する }にすると、本機内蔵モデムがCOM1に自動的に割り当てられます。シリアル通信に使用する通信ポートをCOM1に戻すには、次の方法で設定します。

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブで、モデムの「NEC PC-9821NR-B05」を削除します。
- 3 98NOTEメニューで「シリアルI/Oロック」を{ 設定しない }に設定します。
- 4 98NOTEメニューで「赤外線通信機能I/Oロック」を{ 設定する }に設定します。
- 5 98NOTEメニューを終了して、Windows 95を起動します。
- 6 98NOTEメニューを起動して、「赤外線通信機能I/Oロック」を{ 設定しない }に設定します。
- 7 98NOTEメニューを終了してWindows 95を起動します。

なお、割り当ててある通信ポートは次の方法で確認します。

- 1 [スタート] ボタン [設定] [コントロールパネル] の順にクリックし、[システム] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ] タブをクリックして、「ポート (COMとLPT)」で確認します。

赤外線通信機能 I/Oロック

{ 設定する } にすると、次回起動時からは赤外線通信機能が使用できません。この機能により、赤外線通信を利用してプログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。この機能を使用するときは、必ずセットアップパスワードを設定してください。



「入出力デバイスの設定」の「赤外線通信機能」が「使用しない」になっているときにはこの項目は設定できません。

プリンタ I/Oロック

{ 設定する } にすると、次回起動時からはプリンタが使用できません。この機能により、プリンタからプログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。この機能を使用するときは、必ずセットアップパスワードを設定してください。

FD I/Oロック

{ 設定する } にすると、次回起動時からはフロッピーディスクドライブが使用できません。この機能により、フロッピーディスクドライブを利用してプログラム、データなどが不正に流出するのを予防できます。この機能を使用するときは、必ずセットアップパスワードを設定してください。



Windows 3.1でFD I/Oロックを{ 設定する }にした場合、メモリカードは使用できません。また、CONFIG.SYSに以下の行がある場合、この行を削除してご使用ください。


```
DEVICEHIGH=A: ¥DOS ¥MCDRV.SYS
```

I/Oロックを使用するときの注意


「セキュリティの設定」でI/Oロックを設定した場合、外部記憶装置 (ハードディスク、光磁気ディスク装置等) を接続しないでください。

PCカードで接続されている外部記憶装置ではI/Oロック機能を使用することはできません。

シリアル I/Oロック以外のI/Oロックを設定する場合には、98NOTEメニューを起動する前に必ず次の操作を行ってください。

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 2 [システム]アイコン  をダブルクリックします。
[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 3 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 4 I/Oロックの対象となる装置にマウスポインタを合わせクリックします。
- 5 [削除(E)]ボタンをクリックします。
対象となる装置が削除されます。
- 6 [OK]ボタンをクリックします。
デバイスマネージャが終了します。
- 7 Windows 95を終了します。

誤って、上記の操作を行わずにWindows 95を起動してしまったとき、[ディスプレイ]の競合エラーダイアログが表示される場合があります。この場合、次の操作を行ってください。

- 1 エラーダイアログの[キャンセル]ボタンをクリックします。
- 2 [ディスプレイ]の設定ダイアログが表示されますが、そのままの状態
で[OK]ボタンをクリックします([OK]ボタンをクリックした後、再起動を促す
ダイアログボックスが表示されますが[キャンセル]を選択し、再起動を行いま
せん)。
- 3 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 4 [システム]アイコン  をダブルクリックします。
[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 5 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 6 I/Oロックの対象となる装置にマウスポインタを合わせクリックします。

7 [削除(E)]ボタンをクリックします。
対象となる装置が削除されます。

8 [OK]ボタンをクリックします。
デバイスマネージャが終了します。


9 Windows 95を終了します。

I/Oロックを[設定]の状態から[設定しない]に変更する場合は次の操作を行ってください。

1 98NOTEメニューの[セキュリティの設定]で、I/Oロックを[設定しない]にします。

2 Windows 95を起動します。

3 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

4 [ハードウェア]アイコンをダブルクリックします。
[ハードウェアウィザード]ウィンドウが起動します。
ハードウェアの自動検出を実行し、I/Oロックを[設定しない]に変更した装置の登録を行います。

5 [OK]をクリックします。
デバイスマネージャが終了します。

6 [スタート]ボタンをクリックし、[Windowsの終了(U)...]をクリックします。

7 [コンピュータを再起動する(R)]をクリックします。

8 [OK]ボタンをクリックします。
本機が再起動されます。



ハードウェアウィザード実行後再起動したあとに、本機の解像度が640×480ドットで表示された場合は、ディスプレイアダプタが「スタンダードディスプレイアダプタ(9821シリーズ)」に変更されていることが考えられます。その場合は、『困ったときにお読みください』をご覧のうえ、ディスプレイアダプタを本機に適したものに变更してください。

割り込みレベル・DMAチャネル・ROMアドレス空間

ここでは、本機内蔵の各種インターフェイスで使っている「割り込みレベル」「DMAチャネル」「ROMアドレス空間」について説明しています。

設定の変更.....

本機に周辺機器を接続して使用する場合は、周辺機器のインターフェイスが本機内蔵のインターフェイスと同じ「割り込みレベル」、「DMAチャネル」、「ROMアドレス空間」(次ページ参照)を使用しないように、設定を変更してから取り付けてください。なお、周辺機器のインターフェイスが使用する「割り込みレベル」、「DMAチャネル」、「ROMアドレス空間」や設定の変更方法などについては、周辺機器に添付されているマニュアルをご覧ください。

3

システムの設定を変える



割り込みレベルとI/Oポート

パーソナルコンピュータで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく「割り込みレベル(IRQ)」、「I/Oポートアドレス」、「DMA」の3つの種類があります。

割り込みレベルのことを、Windows 95ではIRQといいます。これは、複数の機器から同時にCPUにアクセスした際、どのような順序で処理していくかを定めるものです。

I/Oポートアドレスは、CPUと周辺機器がアクセスする際の「接点」のことです。例えば、CPUから伸びている何番のケーブルにどんな機器が繋がっているか、その番号を表すようなものと考えればよいでしょう。

DMAとは、CPUを経由せずにデータをメモリへ送る機能のことです。ほとんどの周辺機器は、メモリからデータを読み出したり、書き込んだりするとき、CPUへ処理を依頼します。しかし、一度に大量のデータを転送すると、CPUは作業を中断して、データの転送にかかりっきりになってしまいます。そこで、CPUの作業を中断させずにデータの転送を行う機能が必要になります。この機能のことを、DMA(Direct Memory Access)といいます。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定にしなければなりません。リソースが複数の機器で重複して割り当てられている状態を、「リソースの競合」といいます。リソースが競合していると、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

本機が使用している「割り込みレベル」

割り込みレベル		INT0 (IRQ3)	INT1 (IRQ5)	INT2 (IRQ6)	INT3 (IRQ9)	INT41 (IRQ10)	INT42 (IRQ11)	INT5 (IRQ12)	INT6 (IRQ13)
インターフェイス									
フロッピーディスク インターフェイス	1Mバイト・1.44Mバイト インターフェイス	×	×	×	×	×		×	×
内蔵マウスインターフェイス		×	×	×	×	×	×	×	
内蔵ハードディスクインターフェイス		×	×	×		×	×	×	×
MIDI インターフェイス ¹		×	×	×	×		×	×	×
赤外線通信機能		×		×	×	×	×	×	×
内蔵サウンド機能 ²		×	×	×	×	×	×		×
内蔵FAX モデム ³					×		×		×
PCカードスロット ⁴					×		×		×
PCI-1131 Card Bus Controller PCI ステアリング用IRQホルダー ⁵					×		×		×

： 工場出荷時の設定(変更不可)

： 工場出荷時の設定(解放可)

： 設定可

×： 設定不可

1: MIDI音源を使うときには、INT41(IRQ10)の割り込みを使います。PCI-1131 Card Bus Controller、PCIステアリング用IRQホルダーの割り込み[INT41(IRQ10)]を解放してください。

2: 内蔵サウンド機能の割り込みは、98NOTEメニューの「動作環境の設定」の「サウンド」を「使用しない」にすると他の機器で使えます。

3: モデムの割り込みは、98NOTEメニューの「入出力デバイスの設定」の「モデム」を「使用しない」にすると他の機器で使えます。

モデムの割り込みは、使用するOSによって変更してください。

4: 16ビットのPCカードサポートソフトウェアを使うPCカードでは、PCカードスロットを使用するアプリケーションソフト、またはPCカードに添付のドライバで割り込みを設定してください。このとき、PCカードが使用する割り込みをあらかじめ予約しておいてください。割り込み予約についてはWindows 95のヘルプをご覧ください。

5: PCIの割り込みを管理している仮想デバイスです。

Card BusコントローラおよびCard Busカードの割り込みレベルの変更手順

Card Busコントローラ(PCI-1131)およびCard Bus対応のPCカード(PC-9821-CS01など)の割り込みを変更する場合は必ず次の手順で行ってください。



Card Busコントローラのプロパティの「リソース」タブ、およびCard Busカードのプロパティの「リソース」タブからはIRQを変更しないでください。本機が正常に動作しなくなります。

1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[システムアイコン]をダブルクリックします。

2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、「システムデバイス」をダブルクリックします。

3 「PCIステアリング用IRQホルダー」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。

[PCIステアリング用IRQホルダー]は、PCカードの-slot0、slot1に対してそれぞれ一つずつあります。

Card Busコントローラの設定を変更したい場合は、設定を変更したいCard Busコントローラに対応した[PCIステアリング用IRQホルダー]を選択してください。

Card Bus対応のPCカードの設定を変更したい場合は、設定を変更したいCard Bus対応のPCカードを挿入しているslotに対応した[PCIステアリング用IRQホルダー]を選択してください。

なお、Card Busカードの割り込みを変更した場合は、対応しているCard Busコントローラの割り込みも自動的に変更されます。

4 [リソース]タブをクリックします。[自動設定]のチェックボックスが (オン)の場合はクリックして (オフ)にします。**5** [設定の編集]ボタンをクリックします。

[IRQの編集]が表示されます。

6 「値」の項目を変更したいIRQの値に変更します。

[競合の情報]の項目に「競合デバイスなし」と表示されていることを確認して[OK]ボタンをクリックします。

「競合デバイスなし」と表示されていない場合は、その割り込みを設定することはできません。「競合デバイスなし」と表示される割り込みを選択してください。

7 [OK]ボタンをクリックします。**8** [PCIステアリング用IRQホルダーのプロパティ]で[OK]ボタンをクリックします。**9** [変更の不可の環境設定の作成]が表示された場合は[はい]ボタンをクリックします。

これでCard BusコントローラおよびCard Busカードの割り込みが変更されます。再起動の必要はありません。

本機が使用している「DMA チャンネル」

DMA チャンネル インターフェイス	#0	#1	#2	#3
内蔵フロッピーディスクインターフェイス				
内蔵サウンド機能				
赤外線通信機能(FIR)				

:工場出荷時の設定

本機が使用している「ROM アドレス空間」

インターフェイス	使用しているROM アドレス空間
ハードディスク/ CD-ROM インターフェイス	D8000h ~ DBFFFFh
内蔵サウンド機能 (PC-9821Nw150/S20のみ)	CC000h ~ CFFFFh



リソースの競合が起こったら

最も競合を起こしやすいのは、本機に新しい機器を追加するときです。また、通常Windows 95は、新しい機器を見知した際にシステムの状態を調べます。新しい機器がプラグ&プレイに対応している場合は、リソースが競合しないように自動的に設定されます。新しい機器がプラグ&プレイに対応していない場合でも、リソースが競合する場合にはドライバを組み込みません。本機が起動しなくなるような競合に対しては、二重三重の保護機能が働いています。

リソース競合の発生は「コントロールパネル」の「デバイスマネージャ」で確認することができます。ドライバの異常、リソースの競合など何らかの障害があると、アイコンに「！」マークか赤い「x」マークが表示されます。

異常が表示された場合は、まずその機器のプロパティを開いてください。「デバイスの状態」の欄に、異常の原因が表示されます。異常の原因がリソースの競合であった場合は、次の方法で解決することができます。

- 1 [リソース]タブを開きます。
- 2 「自動設定」の欄にチェックマークがついていたら、 をクリックして外します。
- 3 「リソースの種類」から競合しているリソースを選び、ダブルクリックします。
- 4 表示されたリソースの設定値を、 を押して変更します。

選択した機器やリソースの種類によっては、設定値を変更できない場合があります。その場合、競合を起こしているもう一方の機器の設定値を変更してください。

メモリスイッチ (98環境設定ユーティリティ)

メモリスイッチは、コンピュータ本体内の専用メモリにあるソフトウェア的なスイッチです。98NOTEメニューと同様、本機の状態を設定することができます。通常はご購入時の状態のままで使用します。Windows 95をお使いの場合は、「98環境設定ユーティリティ」を使ってメモリスイッチを変更することができます。ここでは、変更する方法について説明しています。

メモリスイッチでは、次の設定を変更することができます。

- ・RS-232Cのボーレートなどを設定する
- ・起動するドライブの検索順序を変更する(BOOT装置を変更する)



SWITCHコマンドを利用すると、上記の設定に加えて、次の項目の設定を変更することができます。

- ・プリンタ
- ・画面の表示色
- ・数値データプロセッサの設定

SWITCHコマンドは、MS-DOSプロンプト画面から次のように入力して起動します。

SWITCH

なお、Windows 95でSWITCHコマンドを使用するときは、MS-DOSモードから起動してください。[MS-DOSプロンプト]ウィンドウから起動しても設定は有効になりません。MS-DOSモードと[MS-DOSプロンプト]ウィンドウについてはP.136をご覧ください。

98環境設定ユーティリティをインストールする...

98環境設定ユーティリティは、出荷時の状態ではインストールされていません。98環境設定ユーティリティを利用する場合は、次の手順でインストールしてください。インストールするには、Windows 95がインストールされているドライブに0.2Mバイトの空き容量が必要です。インストールする前に十分な空き容量があるか確認してください。

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [セットアップと削除]タブの一覧の中から[ユースフルパックセットアップ]をクリックし、[追加と削除]ボタンをクリックします。
- 3 [次へ]ボタンをクリックします。
- 4 セットアップ方法の選択画面で[カスタム]をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。

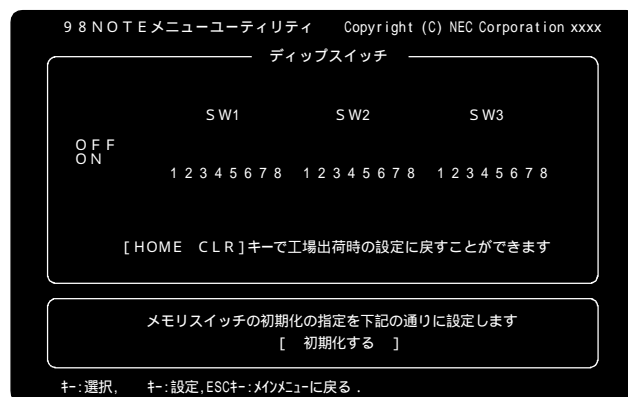
- 5 [ユースフルパックユーティリティ] をクリックし、[詳細] ボタンをクリックします。
- 6 [ファイルの種類] から [98環境設定ユーティリティ] をクリックし、[OK] ボタンをクリックします。
- 7 CD-ROMドライブに「チュートリアルCD-ROM」をセットします。
- 8 しばらく待ってから [次へ] ボタンをクリックして、[完了] ボタンをクリックします。再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動してください。

メモリスイッチを変更する




メモリスイッチの内容は、本機内蔵のリチウムバッテリーによって保たれています。本機の電源をOFFにしたままの状態が2ヵ月ほど続くと、98NOTEメニューでメモリスイッチを「初期化しない」にしても、ご購入時の設定に戻ってしまうことがあります。このような場合には、メモリスイッチを「初期化する」に設定し、一度98NOTEメニューを終了します。メニューが終了し、本機を再起動したら、再度メモリスイッチを「初期化しない」にしてから、メモリスイッチを設定しなおしてください。このとき、ACアダプタを接続して本機の電源を約40時間ONのままにして、内蔵のリチウムバッテリーを充電してください。



- 1 98NOTEメニューを起動し、「ディップスイッチの設定」を選択します。
- 2 「SW2」の「5」を選択し、 でスイッチをON(下)にします。



- 3 キーボードの **[ESC]** を押してメインメニューに戻ったら、もう一度 **[ESC]** を押して、98NOTEメニューを終了させます。

- 4 Windows 95が起動したら、[スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
- 5 [98環境]アイコンをダブルクリックします。
[98環境の設定のプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 6 各項目を設定します。画面上の各項目にある▼をクリックし、表示された中から選択したいものをクリックします。設定を変更するごとに[更新]ボタンをクリックします。

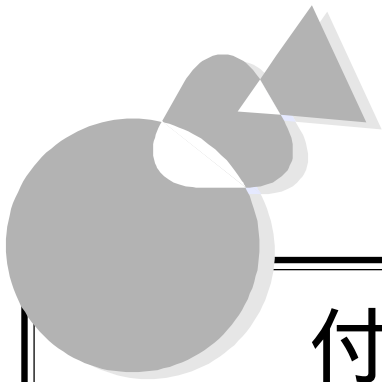


 各項目の詳細については、ボタンをクリックしてから、目的の項目をクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

- 7 設定を有効にする場合は、[OK]ボタンをクリックしてください。変更しない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。
- 8 本機を再起動させます。

[スタート]ボタンをクリックし、[Windowsの終了]をクリックします。表示された [Windowsの終了]ウィンドウで [コンピュータを再起動する]をクリックして、[はい]ボタンをクリックします。

本機が再起動したらメモリスイッチの変更の作業は終了です。



付 録

各部の名称と役割について説明しています。

Windows 95でMS-DOSモードを
利用する

ATコマンド(電話回線接続時)

本機のお手入れ

消耗品一覧

オプション品一覧

本製品の譲渡について

本機の廃棄方法について

目的別索引

索引

機能仕様

内蔵FAXモデムボード機能仕様



Windows 95でMS-DOSモード を利用する

ここでは、Windows 95でMS-DOSモードを利用するために便利な、ユーティリティやMS-DOSコマンド、ドライバの使用方法や注意事項について説明しています。

コマンド書式の説明では、次のような意味で記号を使用しています。
< >この中の項目は、必ず入力します。
[]この中の項目は、必要に応じて入力します。
|この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。

MS-DOSモードを利用する

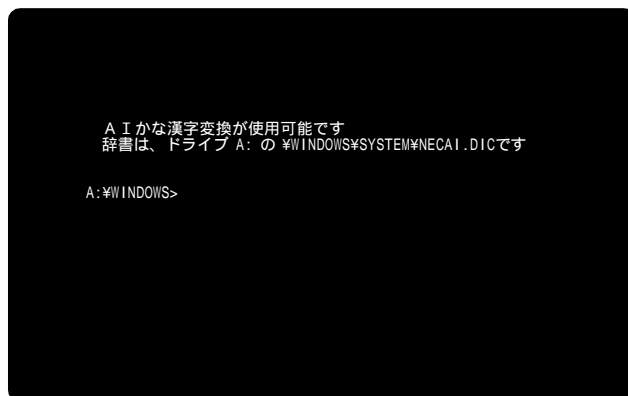
MS-DOSモードを利用すると、従来のMS-DOSで起動したときと同じような環境で本機を使うことができます。

MS-DOSモードを利用するには、次のように操作します。

本機をMS-DOSモードで再起動する

- 1 [スタート]ボタン [Windowsの終了]の順にクリックします。
- 2 [MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]をクリックして、[はい]ボタンをクリックします。

本機がMS-DOSモードで再起動し、次の画面が表示されます。



MS-DOSモードを終了する

- 1 コマンドプロンプトの画面から次のように入力してください。

EXIT 

Windows 95が再起動します。



MS-DOSモードとMS-DOSプロンプト

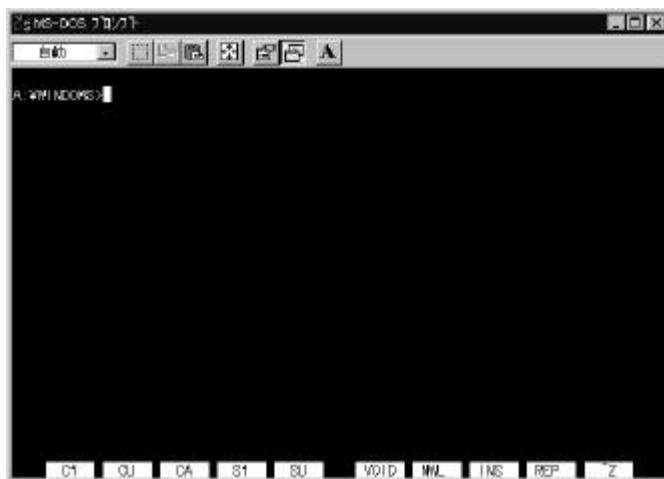
MS-DOSを利用するには、「MS-DOSモード」と「MS-DOSプロンプト」があります。

「MS-DOSモード」は、従来のMS-DOSで起動したときと同じような環境になるため、他のアプリケーションと一緒に使うことはできません。

「MS-DOSプロンプト」は、MS-DOSをWindows 95上でマルチタスクのアプリケーションとして使用できるようにしたものです。

「MS-DOSプロンプト」を利用するには、次のように操作します。

- 1 [スタート]ボタン [プログラム] [MS-DOSプロンプト]の順にクリックします。
「MS-DOSプロンプト」ウィンドウが表示されます。



なお、コマンドやアプリケーションによっては、[MS-DOSプロンプト]からは使用できないものもあります。

DOS環境設定ユーティリティ

従来からのMS-DOSの環境やMS-DOSアプリケーションを引き続きご利用になる方のために、DOS環境設定ユーティリティを用意しています。

DOS環境設定ユーティリティは、システム構築ファイル(CONFIG.SYS)と自動起動ファイル(AUTOEXEC.BAT)をMS-DOSモードで快適にご利用になるための設定を変更します。

Windows 95の起動ドライブのルートディレクトリにCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを作成します。既にCONFIG.SYSが存在する場合はそれを更新します。



Windows 95は、従来のWindows 3.XのようにMS-DOSをベースに動作はしていませんので、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定変更による影響はWindows 95にはありません。

DOS環境設定ユーティリティをインストールする

DOS環境設定ユーティリティは、ご購入時の状態ではインストールされていません。DOS環境設定ユーティリティを利用する場合は次の手順でインストールしてください。インストールするにはWindows 95がインストールされているドライブに0.3Mバイトの空き容量が必要です。インストールする前に十分な空き容量があるか確認してください。


- 1** [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
- 2** [セットアップと削除]タブの一覧の中から [ユースフルパックセットアップ] をクリックし、[追加と削除]ボタンをクリックします。
- 3** [次へ]ボタンをクリックします。
- 4** セットアップ方法の選択画面で [カスタム] をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。
- 5** [ユースフルパックユーティリティ] をクリックして、[詳細]ボタンをクリックします。
- 6** [ファイルの種類] から [DOS環境設定ユーティリティ] をクリックし、[OK]ボタンをクリックします。
- 7** CD-ROMドライブに「チュートリアルCD-ROM」をセットします。
- 8** しばらく待ってから [次へ]ボタンをクリックして、[完了]ボタンをクリックします。再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動してください。

CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集する

CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATはテキスト形式のファイルなので、[メモ帳]などのテキストエディタで編集/更新することができます。このDOS環境設定ユーティリティを使用すると、より簡単に編集/更新することができます。

CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの編集

DOS環境設定ユーティリティで、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを編集します。

- 1 [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックします。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 2 [DOS環境 アイコン]をダブルクリックします。
[DOS環境のプロパティ]ウィンドウが表示されます。



- 3 [設定項目]の[CD-ROM] [EMSメモリ] [BREAK]を設定し、
[CONFIG.SYSの内容]を変更し、[詳細]ボタンをクリックします。

[EMSメモリの設定]ウィンドウが表示されます。



4 [ページ数] [/ E オプション] [/ UMB オプション] [/ HIGHSCAN オプション] を設定した後、[OK] ボタンをクリックします。

5 編集したい内容を直接入力して設定するには、[編集] ボタンをクリックします。

[CONFIG.SYS の内容] [AUTOEXEC.BAT の内容] が表示されます。



6 入力した変更内容を有効にするには、[保存] ボタンをクリックします。

[DOS 環境のプロパティ] ウィンドウに戻ります。

7 今までの CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT の設定を有効にする場合は、[OK] ボタンをクリックします。また、もとに戻す場合は、[元に戻す] ボタンをクリックします。

CONFIG.SYS の設定内容

CONFIG.SYS は、MS-DOS モードで使用するハードウェアの構成やメモリの環境を設定するファイルです。

CONFIG.SYS は、Windows 95 の起動するドライブのルートディレクトリに作成されます。CONFIG.SYS の設定項目については、次のとおりです。

CD-ROM

MS-DOS モードで使用する CD-ROM のドライバを組み込みます。次の書式で指定されます。

```
DEVICE=A: ¥WINDOWS ¥COMMAND ¥NECCD.SYS /D: CD_101
```

オプションスイッチ	機 能
/D: CD_101	CD-ROM を使用するための指定をします。



MS-DOSモードでCD-ROMを使用するには、CD-ROMドライバを組み込んだ後に、MSCDEX.EXEを実行する必要があります。
ただし、AUTOEXEC.BATにMSCDEX.EXEの記述を入れしないでください（MSCDEXはコマンドラインから実行するか、またはDOSSTART.BATに記述します）

<書式例>

A: ¥WINDOWS ¥COMMAND ¥MSCDEX.EXE /D: CD_101

なお、Windows 95用のCD-ROMドライバがインストールされていなければ、CD-ROMのチェックボックスは選択できません。

BREAK

プログラムまたは処理の実行を中止する[CTRL] + [C]の機能を、ディスクを対象とした読み書き作業などに拡張したり、設定の解除をします。次の書式で指定されます。

BREAK=[ON | OFF]

オプションスイッチ	機 能
ON	プログラムまたは処理の実行を中止する機能を拡張します。
OFF	拡張する設定を解除します。

EMSメモリ

プロテクトメモリをEMSメモリとして使えるようにします。また、コンベンショナルメモリを節約するために、UMBメモリを使用できます。次の書式で指定されます。

DEVICE=A: ¥WINDOWS ¥EMM386.EXE [RAM | /P=XXX | /E=XXXX-YYYY | /UMB | /HIGHSCAN]

オプションスイッチ	機 能
RAM	上位メモリの未使用メモリ領域をコンベンショナルメモリのように利用できます。
/P=XXX	使用するページ数を指定します。指定できる範囲は、0～664です。
/E=XXXX-YYYY	UMBとしてアロケートしない範囲を設定します（MS-DOSと同様）。
/UMB	RAMと同等です。
/HIGHSCAN	RAMまたはUMBと同時に指定し、上位メモリの未使用メモリ領域をチェックします。

MS-DOSモード用のDOSコマンドおよびドライバを利用できるようにする.....

本機では、MS-DOSモード用に、次のDOSコマンドおよびドライバを用意しています。

- ・USKCGMコマンド
- ・MS-DOSモード用拡張グラフィックドライバ(AVGDRVコマンド)
- ・MS-DOSモード用サウンドドライバ(AVSDRVコマンド)

これらのファイルは、ご購入時の状態ではハードディスクにありません。
これらのコマンドおよびドライバを使用したい場合は、次の手順で所定の場所にこれらのコマンドおよびドライバをコピーしてください。

DOSコマンドおよびドライバをハードディスクにコピーする

それぞれWindows 95がインストールされているドライブに、次のような空容量が必要です。コピーする前に十分な空容量があるか確認してください。

- ・ USKCGMコマンド 0.1Mバイト
- ・ MS-DOSモード用拡張グラフィックドライバ(AVGDRVコマンド) .. 0.1Mバイト
- ・ MS-DOSモード用サウンドドライバ(AVSDRVコマンド) 0.1Mバイト

- 1** [スタート]ボタン [設定] [コントロールパネル]の順にクリックし、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
- 2** [セットアップと削除]タブの一覧の中から[ユースフルパックセットアップ]をクリックし、[追加と削除]ボタンをクリックします。
- 3** [次へ]ボタンをクリックします。
- 4** セットアップ方法の選択の画面で[カスタム]をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。
- 5** [DOSコマンド]をクリックして、[詳細]ボタンをクリックします。
- 6** [ファイルの種類]からそれぞれ利用したい項目名をクリックし、[OK]ボタンをクリックします。
- 7** CD-ROMドライブに「チュートリアルCD-ROM」をセットします。
- 8** しばらく待ってから[次へ]ボタンをクリックして、[完了]ボタンをクリックします。再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動してください。

USKCGM コマンド.....

USKCGMコマンドは、ユーザが定義する文字パターン(ユーザ定義文字、または外字)を作成したり、ファイルへの保存やファイルから読み出したりするユーティリティです。また文字パターンをメモリに読み込んだり、プリンタに送って印字したりすることもできます。



USKCGMコマンドはご購入時の状態ではハードディスクにはありません。このコマンドを利用する前に、本書の「MS-DOSモード用のDOSコマンドおよびドライバを利用できるようにする」(P.142)をご覧ください。所定の場所にコピーしてください。

USKCGM コマンドの書式

USKCGMコマンドは、次の書式でコマンドプロンプトから実行します。

USKCGM [[<ドライブ名: >] <パス名>]<ファイル名> [/P]

<ファイル名>を指定すると、指定されたファイルを外字ファイル(ユーザ定義文字パターンを格納したファイル)として読み込み、その内容をパーソナルコンピュータ本体内のメモリに登録します。また、すべてのパラメータを省略すると、機能を選択するメニューが表示されます。

USKCGM コマンドのオプションスイッチ

オプションスイッチ	機 能
/P	<ファイル名>で指定した外字ファイルの内容をプリンタに送ります。以後そのプリンタはその文字パターンを印字できるようになります。

USKCGM コマンドを使用する

ここでは、メニューを利用してUSKCGMコマンドを実行します。

USKCGM コマンドの起動

コマンドプロンプトからUSKCGMコマンドを起動します。

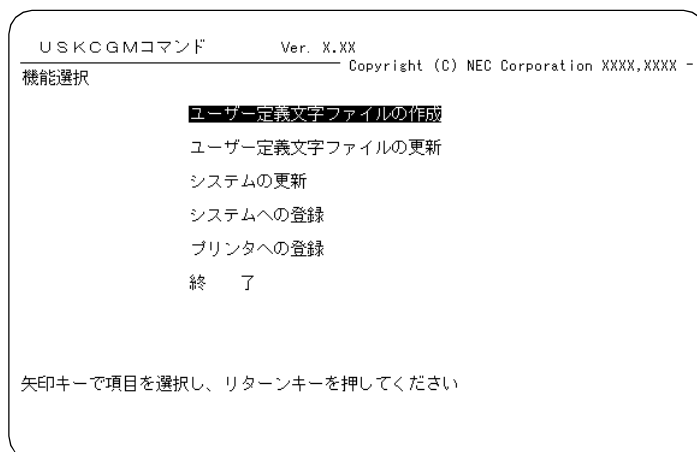
1 [スタート ボタン [プログラム][MS-DOSプロンプト]の順にクリックします。

MS-DOSのコマンドプロンプトが表示されます。

2 コマンドプロンプトから次のように入力します。




USKCGM 

ユーザ定義文字管理ユーティリティ(USKCGM)が実行されます。
ユーザ定義文字管理ユーティリティの機能を選択するメニューが表示されます。



ユーザ定義文字ファイルの作成

ユーザ定義文字ファイルを作成します。

- 1 機能選択画面で、[ユーザ定義文字ファイルの作成]にキーボードの   で合わせた後、 を押します。

ユーザ定義文字ファイルの作成画面が表示されます。



- 2 ユーザ定義文字ファイルの作成画面で、[文字パターンサイズ]と[出力ファイル名]を設定します。
- 3 ユーザ定義文字ファイルの作成を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの[Y] [Enter]を押してください。ユーザ定義文字ファイルが作成されます。

ユーザ定義文字ファイルの更新

ユーザ定義文字ファイルを更新します。

- 1 機能選択画面で、[ユーザ定義文字ファイルの更新]にキーボードの[↑] [↓]で合わせ、[Enter]を押します。

ユーザ定義文字ファイルの更新画面が表示されます。

USKCGMコマンド Ver. X.XX Copyright (C) NEC Corporation XXXX,XXXX -

ユーザー定義文字ファイルの更新

入力対象 ファイル

入力ファイル名 #USKCG16.SYS

出力ファイル名 #USKCG16.SYS

矢印キーで入力対象を選択し、リターンキーを押してください
(ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)

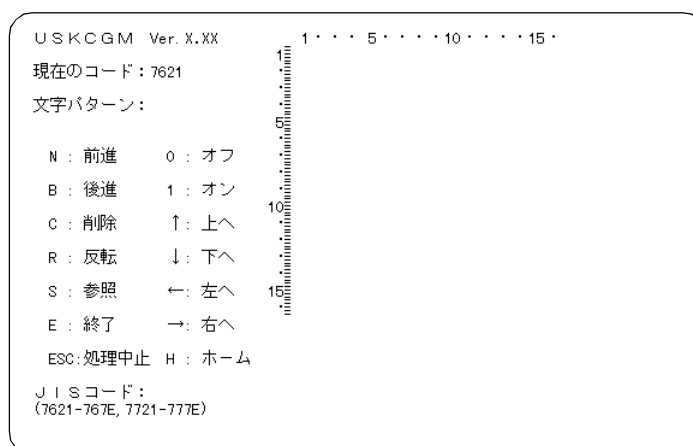
ファイル システム

- 2 ユーザ定義文字ファイルの更新画面で、[入力対象] [入力ファイル名] [出力ファイル名]を設定します。
 - 3 ユーザ定義文字ファイルの更新を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの[Y] [Enter]を押します。
- ユーザ定義文字ファイルが更新されます。

システムの更新

システムを更新します。

- 1 機能選択画面で、[システムの更新]にキーボードの \uparrow \downarrow で合わせ、 \rightarrow を押します。システムの更新画面が表示されます。



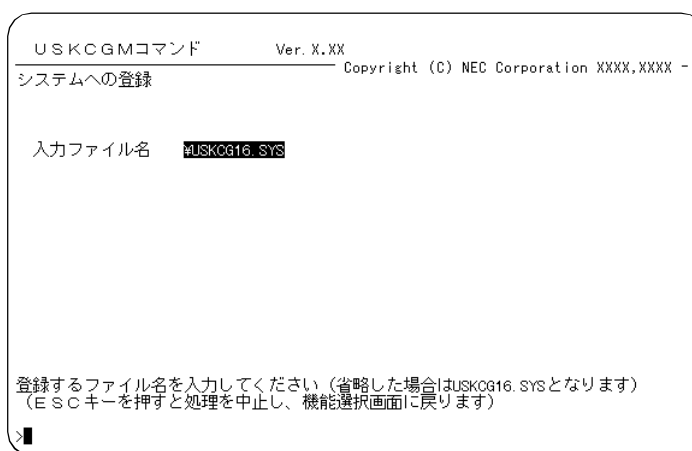
- 2 システムの更新画面で、システムの更新を設定します。
- 3 システムの更新を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの \downarrow \rightarrow を押します。
システムが更新されます。

ユーザ定義文字ファイルのシステムへの登録

ユーザ定義文字ファイルをシステムに登録します。

- 1 機能選択画面で、[システムへの登録]にキーボードの \uparrow \downarrow で合わせ、 \rightarrow を押します。

システムへの登録画面が表示されます。



- 2 システムへの登録画面で、[入力ファイル名]を設定します。
- 3 システムへの登録を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの \downarrow \rightarrow を押します。

ユーザ定義文字がシステムへ登録されます。



ユーザ定義文字をシステムへ登録するには、コマンドプロンプトから次のように入力する方法もあります。

USKCGM <ドライブ名> <パス名> <入力ファイル名> \rightarrow

ユーザ定義文字ファイルのプリンタへの登録

ユーザ定義文字ファイルをプリンタに登録します。

- 1 機能選択画面で、[プリンタへの登録]にキーボードの \uparrow \downarrow で合わせ、 \rightarrow を押します。

プリンタへの登録画面が表示されます。

USKCGMコマンド Ver. X.XX Copyright (C) NEC Corporation XXXX,XXXX -

プリンタへの登録

入力対象	ファイル
入力ファイル名	#USKCG24.SYS

登録するファイル名を入力してください。(省略した場合はUSKCG24.SYSとなります)
(ESCキーを押すと処理を中止し、機能選択画面に戻ります)

>

- 2 プリンタへの登録画面で、[入力ファイル名]を設定します。
- 3 プリンタへの登録を確認するメッセージが表示されますので、確認の後キーボードの \rightarrow \rightarrow を押します。

ユーザ定義文字がプリンタへ登録されます。



ユーザ定義文字をプリンタへ登録するには、コマンドプロンプトから次のように入力する方法もあります。

USKCGM <ドライブ名> <パス名> <入力ファイル名> /P \rightarrow

マルチメディア機能の利用



AVGDRV コマンドおよびAVSDRV コマンドはご購入時の状態ではハードディスクにはありません。これらのコマンドを利用する前に、「MS-DOSモード用のDOSコマンドおよびドライバを利用できるようにする」(CP.142)をご覧ください。所定の場所にコピーしてください。

MS-DOSモードでマルチメディアアプリケーションを利用する場合は、マルチメディア対応ドライバ(拡張グラフィックドライバと拡張サウンドドライバ)を、必要に応じて組み込まなければなりません。

拡張グラフィックドライバを組み込むと、256色を使用したグラフィックが描画できるようになります。また、拡張サウンドドライバを組み込むと、FM音源6音、SSG音源3音、リズム音源6音を使用する音楽演奏や、録音、再生を行うアプリケーションを利用できるようになります。組み込みには、次の3つの方法があります。

- ・ コマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込む(メモリを有効活用できます)
- ・ ADDDRV コマンドでデバイスドライバとして組み込む
- ・ CONFIG.SYSファイルでデバイスドライバとして組み込む

ここでは、それぞれの組み込む手順を説明します。

コマンドプロンプトから常駐プログラムとして組み込む

MS-DOSモードのコマンドプロンプトからマルチメディア対応ドライバを常駐プログラムとして組み込む方法と、必要がなくなったときに常駐を解除する方法を説明します。

拡張グラフィックドライバ(AVGDRV.EXE)を組み込む

コマンドプロンプトから次のように入力します。入力後は、AVGDRVが組み込まれて常駐します。

AVGDRV [Enter]

拡張サウンドドライバ(AVSDRV.EXE)を組み込む

コマンドプロンプトから次のように入力します。入力後は、AVSDRVが組み込まれて常駐します。

AVSDRV [Enter]

プログラムの常駐を解除する

組み込んだドライバが必要でなくなれば、組み込んだ逆の手順で次のように入力して常駐を解除します。

AVSDRV /R 

AVGDRV /R 



- ・ コマンドプロンプトから組み込んだものは、DELDRVを使って解除することはできません。
- ・ 拡張グラフィックドライバの組み込み、および解除は、Windows上の [MS DOS プロンプト] からは行わないでください。Windowsを実行中の場合は、かならず終了させてから行ってください。
- ・ 拡張サウンドドライバでは、拡張FM音源機能はご利用になれません。

拡張グラフィックドライバと拡張サウンドドライバの書式

・拡張グラフィックドライバの書式

AVGDRV [/E][/C][/S][/R]

/E ドライバの一部をEMSメモリに読み込み、メインメモリの消費を抑えます。

/C 数値演算コプロセッサを使います。数値演算コプロセッサが実装されている場合にのみ指定できます。

/S 設定系の機能のみを組み込み、描画系の機能は組み込みません。

/R 常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSファイルで組み込んだものは解除できません。

・拡張サウンドドライバの書式

AVSDRV [/E][/F][/P][/R]

/E ドライバの一部をEMSメモリに読み込み、メインメモリの消費を抑えます。

/F FM音源機能のみを組み込みます。

/P PCM音源のみを組み込みます。

/R 常駐を解除します。ただし、ADDDRVコマンドやCONFIG.SYSファイルで組み込んだものは解除できません。



拡張グラフィックドライバおよび拡張サウンドドライバの組み込みにあたって、/Eスイッチを指定する場合は、次の条件を満たしている必要があります。

- ・ あらかじめEMSドライバを組み込んであること
- ・ ページフレームがC000H ~ CFFFHの連続した64Kバイトであること
- ・ 連続した4ページ以上のEMSメモリが使用可能なこと

ADDDRV コマンドでデバイスドライバとして組み込む

次のADDDRV 定義ファイルを作成することで、マルチメディア対応ドライバをADDDRVコマンドにて組み込むことができます。

なお、/R以外のスイッチ(/E、/F、/P、/C、/S)を指定して組み込むこともできます。

```
ファイル名[ ADDAVD DEV ]
DEVICE=AVSDRV SYS [/E][ /F ][ /P ]
DEVICE=AVGDRV SYS [/E][ /C ][ /S ]
```

- 1 「AVSDRV SYS」と「AVGDRV SYS」のあるディレクトリを、CDコマンドを使って、カレントディレクトリにします。
- 2 コマンドプロンプトから、次のように入力します。

```
ADDDRV ADDAVD DEV 
```

組み込んだドライバが必要なくなったときは、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
DELDIV 
```

CONFIG SYS ファイルで、デバイスドライバとして組み込む

CONFIG SYSファイルに変更を加えることで、マルチメディア対応ドライバを組み込むことができます。

次の書式をメモ帳やDOS環境設定ユーティリティなどのテキストエディタを利用して、CONFIG SYSに記述します。

なお、/R以外のスイッチ(/E、/F、/P、/C、/S)を指定して組み込むこともできます。

```
DEVICE=¥WINDOWS¥COMMAND¥AVSDRV SYS [/E][ /F ][ /P ]
DEVICE=¥WINDOWS¥COMMAND¥AVGDRV SYS [/E][ /C ][ /S ]
```

日本語入力機能.....

[MS-DOSプロンプト]上ではWindows 95のかな漢字変換またはDOSかな漢字変換を使用し、日本語の入力が行えます。DOSかな漢字変換が組み込まれていない場合は、自動的にWindows 95のかな漢字変換が動作し、入力できるしくみになっています。DOSかな漢字変換の組み込み方法は次のとおりです。

1 [スタート]ボタン [プログラム] [MS-DOSプロンプト]の順にクリックします。

2 [プロパティ]ボタンをクリックします。

[MS-DOSプロンプトのプロパティ]ウィンドウが表示されます。



3 [プログラム]タブをクリックし、[バッチファイル]に次のように入力します。

```
DOSIME.BAT
```

4 [OK]ボタンをクリックします。


NECAI DOSかな漢字変換はWindows 95のNECAIME95と辞書を共有しており、登録した単語や学習情報をそのまま使用することができます。辞書を切り替えたい場合は、Windows 95のNECAIME95、環境設定の[辞書]タブで行ってください。なお、Windows 95がインストールされているドライブ(通常は「A:」)のルートディレクトリにあるDOSIME.SYSファイル(ADDDRV用定義ファイル)の内容を書き替えれば、好みのDOSかな漢字変換に変更することもできます。



- Windows 95上でWindows 3.1のかな漢字変換をお使いの場合は、[MS-DOSプロンプト]ではDOSかな漢字変換による日本語入力しか行えません。
- ADDDRVによりMS-DOSかな漢字変換を組み込む場合は、Windows 95用の「KKCFUNC.SYS」を使用してください。通常「KKCFUNC.SYS」は、WINDOWSディレクトリにあります。なお、従来のMS-DOS用KKCFUNC.SYSは使用できません。

CD-ROMドライバ.....

MS-DOSモードでCD-ROMドライブを使用するには設定が必要です。本機でCD-ROMドライブをMS-DOSモードで使用するには次の手順で行ってください。

 外付けのCD-ROMドライブを使用する場合には、次の作業を行う前に、本機にSCSIカードを接続した上でSCSIカードドライバの設定を行ってください。

1 [スタート]ボタン [プログラム] [MS-DOSプロンプト]の順にクリックします。

2 コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
CD ¥WINDOWS¥COMMAND 
```

カレントディレクトリが変更されます。

外付けのCD-ROMドライブを使用する場合には、さらに次のように入力してNECCDB.SYSのファイル名をNECCD.SYSに変更してください。

```
COPY NECCDB.SYS NECCD.SYS
```

3 CONFIG.SYSに次の内容を追加し、接続されているCD-ROMドライブに対応したCD-ROMドライブを登録します(Windows 95がインストールされているドライブおよびディレクトリをA: ¥WINDOWS、インストールしたCD-ROMドライブをNECCD.SYSとします)。

<追加する内容>

```
DEVICE=A: ¥WINDOWS¥COMMAND¥NECCD.SYS /D: CD_101
```

4 Windowsディレクトリ内のDOSSTART.BATに次の内容を追加します(CD-ROMを割り当てるドライブをQドライブとします)。

<追加する内容>

```
A: ¥WINDOWS¥COMMAND¥MSCDEX /D: CD_101 /L: Q
```

5 [Windowsの終了]から[コンピュータを再起動する]を選択し、本機を再起動してください。

6 [Windowsの終了]から[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択するか、[MS-DOSプロンプトのプロパティ]ウィンドウの詳細設定で、[MS-DOSモード]をクリックして[現在のMS-DOS設定を使う]チェックボックスをオンに設定し、MS-DOSモードを起動します。



前ページの手順を行うと本機に内蔵のCD-ROMドライブは使用できなくなります。本機に内蔵のCD-ROMドライブを使用する場合は、次の手順でCD-ROMドライブをもとに戻してください。

1 [スタート] ボタン [プログラム] [MS-DOSプロンプト] の順にクリックします。

2 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを変更します。

```
CD ¥ W I N D O W S ¥ C O M A N D
```

3 次のように入力します。

```
COPY NECCD.ORG NECCD.SYS
```

「上書きしますか」のメッセージが表示されたら、「 Y N」と入力してください。

CD-ROMドライブの注意事項

インストール時に2種類以上のドライブを同時に選択した場合、ドライブが正しくインストールされないことがあります。必ず1種類のみ選択してください。



ファイルを編集する

CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATは、DOS環境ユーティリティを使って簡単に編集することができます（P.139）。その他のファイルは、メモ帳やワープロなど、テキストデータを扱うことができるソフトウェアで編集します。

ここでは、DOSSTART.BATファイルをメモ帳で編集する方法を、例をあげて説明します。

- 1 [スタート]ボタン-[プログラム]-[アクセサリ]-[メモ帳]の順にをクリックします。
- 2 [ファイル]メニューの[開く]をクリックします。
- 3 「ファイルの種類」を[すべてのファイル(*.*)]にします。
- 4 [ファイルの場所]に[A:¥WINDOWS]を選択します。
- 5 [Dosstart.bat]をクリックして、[開く]ボタンをクリックします。
DOSSTART.BATファイルが表示されます。
- 6 ファイルを編集します。ファイルの編集にはキーボードを使用します。

```

REM - You MUST explicitly specify the CD-ROM Drive L
REM - The string following the /D: statement must e
REM - the string in CONFIG.SYS following your CD-ROM

REM MSOEM.EXE /D:OEMCD001 /L:d
REM MOUSE.EXE

A:¥WINDOWS\COMMAND\MSOEM.EXE /D:CD_101 /L:0
  
```

- 7 ファイルの編集が終了したら、[ファイル]メニューの[メモ帳の終了]をクリックします。
- 8 変更を保存するかどうかを選択する画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。
メモ帳が終了し、DOSSTART.BATの内容が変更されます。



ATコマンド(電話回線接続時)

ATコマンドとは、電話回線に対してDTE(パソコンなどの端末機器)からのコマンドにより自動発着信を行うために米国Hayes社が開発したコマンド体系で“AT”で始まることからこのように呼ばれています。

コマンドの構成.....

ATコマンドセット(A/コマンドを除く)では、DTEが送る各コマンドラインはキャラクターシーケンスATで始まり、キャリッジリターンで終了しなければなりません。

ATシーケンスは、いくつものコマンドをその次に続けることができます。ただし、Z、D、Aのようなコマンドは除きます。コマンドラインの最大キャラクタ数は36です。もしコマンドラインのどこかで構文エラーが見つかった場合には、ラインの残りは無視されます。

A	T	コマンド列	CR
---	---	-------	----

ATコマンド一覧.....

基本ATコマンド

種類	ATコマンド	機能
アンサーモードで回線接続	A	アンサーモードで回線に接続し、通信状態になる。自動応答にしていないう状態で、応答する場合に使用する。
コマンドの再実行	A /	直前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドの値には「AT」はつけない。また、最後の「@」もつけない。
ITU-T規格の設定	B	300、1200bpsのスピードで接続する場合の通信規格を指定する。 B0 ITU-T規格(初期値)、初期値で使用してください。
ダイヤルの実行	D	指定された電話番号にダイヤルし、接続する。 Pパルスダイヤル(ダイヤル回線) Tトーンダイヤル(プッシュ回線) W第2ダイヤルトーンを検出する(DDX等のダイヤルトーンを検出する) @5秒間の無音状態を検出する。検出できない場合は「NO ANSWER」を返す。 ,S8レジスタで指定された時間、ダイヤルを待つ。構内交換機、ゼロ発信等でダイヤルを待つ場合に使用する。 0~9,*,# ...相手の電話番号をダイヤルする。ダイヤル番号を見やすくするために、スペース、「-」、「()」、「[]」等が使用できる。なお、「*」、「#」はトーンダイヤルのみ使用できる。 ;ダイヤル後コマンドモードに戻る。 !0.5秒間、回線をオンフック(回線断)する。 S=n&Znで登録した電話番号にダイヤルする。 L最後にかけた番号にリダイヤルする。 ^V.25コーリングトーンを出力する。断続の1300Hzコーリングトーンを出力する(データモード)、連続の1300Hzコーリングトーンを出力する(FAXモード)。
コマンドエコー有無の設定	E	DTE(パソコン側)から送られたコマンドのエコー(文字をそのまま送り返す)の有無を指定する。 E0 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。 E1 コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す(初期値)。
回線の接続/切断	H	H0 回線を切断(オンフック)する。 H1 回線を接続(オフフック)する。
識別コード表示	I	モデムの識別コードを表示する。 I0 製品コードを表示する。 I1 ROMのチェックサムコードを表示する。 I2 ROMのチェックを実行する。 I3 PCコードを表示する。
モニタースピーカ最大音量設定	L	本機のボリュームが最大位置にあるときのスピーカの音量を設定する。 L0 音量小。 L1 音量小。 L2 音量中。 L3 音量大(初期値)。

AT & Wn でバックアップ可能

種 類	AT コマンド	機 能
モニタースピーカの動作設定	M	内部モニタースピーカのON/OFFのタイミングを指定する。 M0 スピーカを常にOFFにする。 M1 キャリアを検出するまでONにする(初期値) M2 スピーカを常にONにする。 M3 ダイヤル終了からキャリア検出までONにする。
自動モードの設定	N	相手モデムとの通信速度決定の方法を指定する(+MSコマンドも参照) N0 相手モデムとの通信速度決定を自動で行わない。 +MSの自動モード=0と同じ。 N1 相手モデムとの通信速度決定を自動で行う。 +MSの自動モード=1と同じ。
オンラインモードに戻る	O	オンラインモード中にエスケープコマンド(+++)によってコマンドモードになったときに、再びオンラインモードに戻るのに使用する。 O0 オンラインモードに戻る。 O1 トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。
パルス回線(ダイヤル回線)モードの設定	P	ダイヤルをパルスで行うモードに設定する。
リザルトコードの設定	Q	リザルトコードをDTE(パソコン側)に返すか、返さないかのモードを指定する。 Q0 リザルトコードをパソコンに返す(初期値) Q1 リザルトコードをパソコンに返さない。
Sレジスタの読み出し	Sr?	Sレジスタrの内容を読み出す。ATS0? [Q]でS0レジスタの内容を読み出す。
Sレジスタの設定	Sr=n	Sレジスタnを設定する。 ATSr=n [Q]でrに設定したいレジスタの番号、nにレジスタの値を10進数で設定する。 ATS2=43 [Q]でS2レジスタに43(10進数)を設定する。
トーン回線(プッシュ回線)モードの設定	T	ダイヤルをトーンで行うモードに設定する。
リザルトコードタイプの設定	V	ATコマンドのリザルトコードの形式を指定する。 V0 リザルトコードを数字表示に設定する。 V1 リザルトコードを文字表示に設定する(初期値) V0を指定した場合は、Vコマンドによる拡張は無効となり、CONNECT XXXXに対応する数字のみが返る(S95による指定は除く)
接続リザルトコード拡張(エラー訂正)の設定	W	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 W0 接続時にDTEスピードのみを返す(初期値) (例 CONNECT 19200) W1 接続時にキャリアスピード、エラー訂正プロトコル、DTEスピードの順に返す。 W2 接続時にDCEスピードのみを返す。 本指定はS75のb0が0の場合のみ有効。
接続時のリザルトコードの設定	X	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 X0 リザルトコードの拡張は行わない。 X1 リザルトコードに接続時のスピードを付加する。1200bps以上のスピードで接続された場合、「CONNECT XXXX」とスピードを表示する。 X2 X1に加えて、ダイヤル時にダイヤルトーンの検出を行う。ダイヤル時に5秒以内にダイヤルトーンを検出できなかったら「NO DIAL TONE」を表示する。 X3 X1に加えて、ビジートーン(話中音)の検出を行う。ビジートーンを検出したら「BUSY」と表示する。 X4 X2、X3をあわせて表示、または検出する(初期値)

AT & Wn でバックアップ可能

種 類	ATコマンド	機 能
ブレイク信号の動作指定	Y	ブレイク信号に関する動作を指定する。 Y0 ブレイク信号を受信しても、回線を切断しない(初期値) Y1 ブレイク信号を1.6秒間以上受信すると、回線を切断する。回線切断時(ATH等のコマンド)は、ブレイク信号を相手モデムに4秒間送出する。 ダイレクト、ノーマルモード接続時のみ有効。エラー訂正プロトコル(V42、MNP)で接続されている場合は、プロトコルの動作に従う。
モデムの初期化	Z	モデムを不揮発性メモリの保存内容で初期化する。 Z0 不揮発性メモリのプロファイル0の保存内容で初期化する。 Z1 不揮発性メモリのプロファイル1の保存内容で初期化する。 このコマンドは完了までに約2秒かかり、実行中に他のコマンドは受け付けられない。 なお、コマンド列の中にこのコマンドが含まれているときは、それ以降のコマンドは無視される。
キャリア検出信号(CD)の動作	& C	CD信号(DCD)の動作を指定する。 &C0 CD信号を常にONにする。 &C1 CD信号はキャリアが検出されるとONになる(初期値)。
データ端末レディ(DTR)の動作	& D	DTR信号がONからOFFに変化した場合の動作を指定する。 &D0 DTR信号は無視し、常にONとして扱う。 &D1 DTR信号がOFFになると、コマンドモードになる。 &D2 DTR信号がOFFになると、回線を切断しコマンドモードになる(初期値) &D3 DTR信号がOFFになると、初期化される。 (ATZコマンド実行状態になる)
リザルトコードのスピード表示	& E	リザルトコードのスピード表示を指定する。 &E0 DCEスピードを表示する(初期値) &E1 DTEスピードを表示する。 S75のb0が1の場合のみ有効。
パラメータの初期化	& F	各種パラメータを工場出荷時の設定に戻す。 AT&Yコマンドは初期化されない。
ガードトーンの設定	& G	モデムのガードトーンの有無を指定する。 &G0 ガードトーンなし(初期値) &G1 ガードトーンなし。 &G2 1800Hzのガードトーンあり。
DTEのフロー制御	& K	DTE(パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS、XON/XOFF)を指定する。 &K0 フロー制御をしない。 &K3 RTS/CTSフロー制御をする(初期値) &K4 XON/XOFFフロー制御をする。 &K5 透過XON/XOFFフロー制御をする。 &K6 RTS/CTSとXON/XOFFフローを同時に行う。
通信モードの設定	& M	通信モードを指定する(&Qの一部コマンドと同様) &M0 ダイレクト非同期モードで接続する。
ダイヤルパルススピードの設定	& P	ダイヤルパルスのスピードを指定する。 &P0 ダイヤルパルス速度を10PPSにする(表示は&P1) &P1 ダイヤルパルス速度を10PPSにする。 &P2 ダイヤルパルス速度を20PPSにする(初期値)。
通信モードの設定	& Q	通信モードを指定する。 &Q0 ダイレクト非同期モードで接続する。 &Q5 エラー訂正プロトコルで接続する(初期値) &Q6 ノーマルモードで接続する。

AT &Wn でバックアップ可能

種 類	AT コマンド	機 能
RTS/CTSの設定	& R	RTS/CTSの制御で、モデムがCTS線をどのように制御するかを指定する。 &R0 V25bisのハンドシェイクに従って動作する。 &R1 CTSはフロー制御が必要な場合のみOFFになる(初期値)
データセットレディ(DSR)の制御	& S	DSR信号の動作を指定する。 &S0 DSR信号は常にON。 &S1 DSR信号が回線接続中にONになる(初期値)
テストモードの設定	& T	モデムのテストを行う。 &T0 テストを終了する。 &T1 ローカルアナログループバックテストを行う。 &T3 ローカルデジタルループバックテストを行う。 &T4 相手側モデムとして、リモートデジタルループバックテストを許可する。 &T5 相手側モデムとして、リモートデジタルループバックテストを禁止する。 &T6 リモートデジタルループバックテストを行う(自己診断は行わない) &T7 リモートデジタルループバックテストと、自己診断を行う。 &T8 自己診断と、ローカルアナログループバックテストを行う。 テストコマンド実行後(AT&T0以外)は、必ず AT&T0を実行すること。 ATS18レジスタと合わせて使用する。 ループバックテストの詳細に関してはITU-TのV54を参照。 ノーマルモード、またはダイレクトモードで実行すること。
パラメータの書き込み	& W	現在の設定されている状態を、不揮発性メモリに書き込む。 &W0 不揮発性メモリのプロファイル0に書き込む。 &W1 不揮発性メモリのプロファイル1に書き込む。 この値は、電源をオンしたとき(AT&Ynコマンドで0、1を指定)またはATZnコマンドで初期化したときに使われる。各々のコマンドを参照。
プロファイルの設定	& Y	電源立ち上げ時のプロファイル読み込みを設定する。 &Y0 プロファイル0を指定する。 &Y1 プロファイル1を指定する。
電話番号の保存	& Z	ATDS= n コマンドでダイヤルする場合の、電話番号を指定する。 &Zn=XXXXXXXX n=0~3、XXXXは電話番号(30桁以下) 例) AT&Z2=03-1234-5678 ダイヤル番号バッファ2に指定の番号を保存する。 電話番号として使用できるのは、ATDコマンドの電話番号のうち、 \backslash 「S=n」以外のコマンド。
データ圧縮の指定	% C	データ圧縮の方法を指定する。 %C0 データ圧縮をしない。 %C1 MNP5のデータ圧縮を行う。 %C2 V42bisのデータ圧縮を行う。 %C3 V.42bis/MNP5のデータ圧縮を行う(初期値)
リトレーニング等の自動再実行	% E	回線の状態を監視して、状態が変化した場合や悪い場合に、トレーニングシーケンスの再実行(リトレーニング)回線速度を変更するかどうかの指定をする。 %E0 リトレーニングを自動で再実行しない。 %E1 リトレーニングを自動で再実行する。 %E2 回線速度の変更を可能にする(初期値) %E3 リトレーニングの自動再実行を行うが、回線状態が切断レベルまで悪化した場合はすぐに回線を切断する。 データエラーが多い場合のリトライ動作を指定するものではない。

AT &Wn でバックアップ可能

種 類	ATコマンド	機 能																					
最大ブロックサイズの設定	¥A	MNPで接続するときのブロックサイズを設定する。 ¥A0 最大ブロックサイズ64 ¥A1 最大ブロックサイズ128(初期値) ¥A2 最大ブロックサイズ192 ¥A3 最大ブロックサイズ256																					
ブレーク信号を送信	¥B	$n \times 100\text{ms}$ のブレーク信号を送信する。 $n=1-9$																					
ブレーク信号の動作	¥K	ブレーク信号を受けたときの動作を指定する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>オンラインモード時パソコンからブレーク信号を受けた</th> <th>オンラインモード時に相手モデムからブレーク信号を受けた</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>$n=0$</td> <td>コマンドモードになる。相手モデムにはブレークを送らない。</td> <td>データバッファを空にして、パソコンにブレークを送る</td> </tr> <tr> <td>$n=1$</td> <td>データバッファを空にして、相手モデムにブレークを送る。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>$n=2$</td> <td>¥K0と同じ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>$n=3$</td> <td>バッファのデータより優先して相手モデムにブレークを送る</td> <td>バッファのデータより優先してパソコンにブレークを送る</td> </tr> <tr> <td>$n=4$</td> <td>¥K0と同じ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>$n=5$</td> <td>バッファのデータを送った後で相手モデムにブレークを送る</td> <td>バッファのデータを送った後で、パソコンにブレークを送る</td> </tr> </tbody> </table>		オンラインモード時パソコンからブレーク信号を受けた	オンラインモード時に相手モデムからブレーク信号を受けた	$n=0$	コマンドモードになる。相手モデムにはブレークを送らない。	データバッファを空にして、パソコンにブレークを送る	$n=1$	データバッファを空にして、相手モデムにブレークを送る。		$n=2$	¥K0と同じ		$n=3$	バッファのデータより優先して相手モデムにブレークを送る	バッファのデータより優先してパソコンにブレークを送る	$n=4$	¥K0と同じ		$n=5$	バッファのデータを送った後で相手モデムにブレークを送る	バッファのデータを送った後で、パソコンにブレークを送る
	オンラインモード時パソコンからブレーク信号を受けた	オンラインモード時に相手モデムからブレーク信号を受けた																					
$n=0$	コマンドモードになる。相手モデムにはブレークを送らない。	データバッファを空にして、パソコンにブレークを送る																					
$n=1$	データバッファを空にして、相手モデムにブレークを送る。																						
$n=2$	¥K0と同じ																						
$n=3$	バッファのデータより優先して相手モデムにブレークを送る	バッファのデータより優先してパソコンにブレークを送る																					
$n=4$	¥K0と同じ																						
$n=5$	バッファのデータを送った後で相手モデムにブレークを送る	バッファのデータを送った後で、パソコンにブレークを送る																					
通信モードの設定	¥N	エラー訂正プロトコルの動作を設定する。 ¥N0 ノーマルモードで通信する。V.42、MNP等は使用しない。 ¥N1 ダイレクトモードで通信する。 ¥N2 V.42、MNPモードで接続する。 相手モデムがV.42、MNPモードでない場合は接続しない。 ¥N3 V.42、MNPモードで接続する(初期値)。 相手モデムがV.42、MNPでない場合は、ノーマルモードで接続する。 ¥N4 V.42モードで接続できる。 相手モデムがV.42でない場合は、接続しない。 ¥N5 MNPモードで接続する。 相手モデムがMNPでない場合は、接続しない。 V.42、MNPの場合は、V.42 MNPの順に相手モデムとの接続を試す。 &M、&Qコマンドも参照。																					
DTEのフロー制御	¥Q	DTE(パソコン側)のフロー制御(RTS/CTS、XON/XOFF)を指定する。 ¥Q0 フロー制御をしない。 ¥Q1 XON/XOFFフロー制御をする。 ¥Q2 RTS/CTSフロー制御をする。 ¥Q4 RTS/CTSとXON/XOFFフロー制御を同時に行う。 &Kコマンドを参照。																					
モデムの状態表示	¥S	現在設定されているコマンドの一覧を表示する。 ¥S0 現在の状態を表示する。 ¥S1 保存されている状態を表示する。																					

AT &Wnでバックアップ可能

種 類	AT コマンド	機 能
拡張リザルトコードの指定	¥V	<p>拡張リザルトコードを指定する。</p> <p>¥V0 拡張リザルトコードを使用しない。</p> <p>¥V1 拡張コードにエラー訂正の表示をする。 /REL</p> <p>¥V2 拡張コードにエラー訂正、圧縮を含んだ表示をする(初期値) /MNP、/LAPM /MNP5、/V42bis、</p> <p>¥V3 拡張コードに圧縮、またはエラー訂正を含んだ表示をする。 例えば、CONNECT 28800/LAPM/V42bis このコマンドはS75のb0が1の場合のみ有効。</p>
変調方式の指定	+MS	<p>+MS = 変調方式、自動モード、最低スピード、最高スピード 2番目以降のパラメータは、省略可能(途中の省略は不可)</p> <p>相手モデムとの通信方式、手順、スピード等を指定する。</p> <p>変調方式</p> <p>0 :V.21 300bpsで接続される。</p> <p>1 :V.22 1200bpsで接続される。</p> <p>2 :V.22bis 2400/1200bpsで接続される。</p> <p>9 :V.32 9600/4800bpsで接続される。</p> <p>10:V.32bis 14400~4800bpsで接続される。</p> <p>11:V.34 33600~2400bpsで接続される(初期値)</p> <p>自動モード 接続時の自動ネゴシエーションの指定を行う。</p> <p>0:自動モード(V.8)を使用しない。</p> <p>1:自動モード(V.8)を使用する(初期値)</p> <p>最低スピード 最低の変調速度を指定する(初期値300)</p> <p>300、1200、2400、4800、7200、9600、12000、14400 16800、19200、21600、24000、26400、28800、31200、33600が指定できる。</p> <p>最高スピード 最高の変調速度を指定する(初期値28800)</p> <p>300、1200、2400、4800、7200、9600、12000、14400、 16800、19200、21600、24000、26400、28800、31200、33600が指定できる。</p>
エスケープ	+++	<p>オンラインモードのとき、パソコンから前後1秒間(S12レジスタで設定可能)の時間をあけて、「+++」のコマンドが入力されると、回線を切断することなく、コマンドモードに移る。「+++」の前後に他の文字が入力されるとエスケープコマンドと判断されないのので☒等は入力しないこと。</p>

AT & Wn でバックアップ可能



相手FAXが音声応答のFAXの場合、接続できない可能性があります。その場合は次のコマンドによりBUSYトーン検出をオフにしてください。

コマンド構文: ATX0

リザルトコード

数字	文 字	内 容
0	O K	コマンドを実行した
1	C O N N E C T	回線接続した(X0～X4時)
2	R I N G	呼び出し信号を検出した
3	N O C A R R I E R	キャリアが検出できないか、キャリアが消滅した
4	E R R O R	<ul style="list-style-type: none"> ・ コマンド エラー ・ Iコマンドに値するチェックサムがNG ・その他、動作不可のコマンドを実行した
5	C O N N E C T 1200	1200bpsで接続した(X1～X4時)
6	N O D I A L T O N E	ダイヤルトーンが検出できない ・X2、X4、Wコマンド設定時
7	B U S Y	話中音を検出された
8	N O A N S W E R	@コマンド使用時に、5秒間無音状態が検出できなかった
10	C O N N E C T 2400	DCE-DCE、DTE-DCE間を2400bpsで接続した
11	C O N N E C T 4800	DCE-DCE、DTE-DCE間を4800bpsで接続した
12	C O N N E C T 9600	DCE-DCE、DTE-DCE間を9600bpsで接続した
13	C O N N E C T 7200	DCE-DCE、DTE-DCE間を7200bpsで接続した
14	C O N N E C T 12000	DCE-DCE、DTE-DCE間を12000bpsで接続した
15	C O N N E C T 14400	DCE-DCE、DTE-DCE間を14400bpsで接続した
16	C O N N E C T 19200	DTE-DCE間を19200bpsで接続した
17	C O N N E C T 38400	DTE-DCE間を38400bpsで接続した
18	C O N N E C T 57600	DTE-DCE間を57600bpsで接続した
19	C O N N E C T 115200	DTE-DCE間を115200bpsで接続した
24	D E L A Y E D	リダイヤル不可(S75 b1=0の場合)
33	F A X	自動モードでFAXモードになった
35	D A T A	自動モードでDATAになった
40	C A R R I E R 300	0～300bpsのデータレートが検出された
46	C A R R I E R 1200	1200bpsのデータレートが検出された
47	C A R R I E R 2400	2400bpsのデータレートが検出された
48	C A R R I E R 4800	4800bpsのデータレートが検出された
49	C A R R I E R 7200	7200bpsのデータレートが検出された
50	C A R R I E R 9600	9600bpsのデータレートが検出された
51	C A R R I E R 12000	12000bpsのデータレートが検出された
52	C A R R I E R 14400	14400bpsのデータレートが検出された
53	C A R R I E R 16800	16800bpsのデータレートが検出された
54	C A R R I E R 19200	19200bpsのデータレートが検出された
55	C A R R I E R 21600	21600bpsのデータレートが検出された
56	C A R R I E R 24000	24000bpsのデータレートが検出された
57	C A R R I E R 26400	26400bpsのデータレートが検出された

数字	文 字	内 容
58	CARRIER 28800	28800bpsのデータレートが検出された
59	CONNECT 16800	DTE-DCE間を16800bpsで接続した
61	CONNECT 21600	DTE-DCE間を21600bpsで接続した
62	CONNECT 24000	DTE-DCE間を24000bpsで接続した
63	CONNECT 26400	DTE-DCE間を26400bpsで接続した
64	CONNECT 28800	DTE-DCE間を28800bpsで接続した
66	COMPRESSION:CLASS 5	MNPクラス5で接続した
67	COMPRESSION:V.42BIS	V.42bisで接続した
69	COMPRESSION:NONE	圧縮無しで接続した
70	PROTOCOL:NONE	エラー訂正無しで接続した
77	PROTOCOL:LAP-M	エラー訂正 V.42LAPMで接続した
78	CARRIER 31200	31200bpsのデータレートが検出された
79	CARRIER 33600	33600bpsのデータレートが検出された
80	PROTOCOL:ALT	エラー訂正 MNP4で接続した
84	CONNECT 33600	33600bpsで接続した
91	CONNECT 31200	31200bpsで接続した
+F4	+FCERROR	FAXコマンドエラー

Sレジスタ

Sレジスタ	機能	説明
S0	自動着信する呼び出し回数設定	呼び出し音(リング)の何回目かで自動着信するかを設定。 S0=0 自動着信しない(初期値) S0=1~255 n回目の呼び出しを受けると自動着信。
S1	呼び出し回数のカウント	呼び出し音の回数をカウント。呼び出し音が検出されると、S1レジスタの値が+1される。なお、呼び出し音が止まってから8秒たつとS1は0になる。S0が0の場合は、S1は+1されない。初期値はS1=0。
S2	エスケープコードの文字設定	エスケープコードに使うキャラクタコードを0~127の値の間で設定。初期値はS2=43(キャラクタ「+」)。
S3	復帰(キャリッジリターン)コードの文字設定	復帰コードのキャラクタコードを0~127の値の間で設定。初期値はS3=13(16進数で0D)。
S4	改行(ラインフィード)コードの文字設定	改行コードのキャラクタコードを0~127の値の間で設定。初期値はS4=10(16進数で0A)。
S5	バックスペースコードの文字設定	バックスペースコードのキャラクタコードを設定。コマンドの1文字訂正に使用。0~32および127が設定可能。このレジスタには表示可能なコード(33~126)は設定できない。初期値はS5=8(16進数で08)。
S6	ダイヤル開始までの待ち時間	オンフックしてからダイヤルするまでの待ち時間を設定。Xコマンドがダイヤルトーンを検出しない場合(X0、1、3)に有効。ダイヤルトーンを検出する場合(X2、4)はS6レジスタの値は無効。3~10の値を秒単位で指定。初期値はS6=4(4秒)。
S7	接続待ち時間の設定	ダイヤルしてから接続されるまでの接続待ち時間を30~58の間で秒単位で設定。設定した時間内に接続されないと「N0 CARRIER」がパソコンに返される。初期値はS7=50(50秒)。
S8	ポーズコマンドの時間設定	ダイヤル時のポーズコマンド「,」の待ち時間を2~255の値で秒単位で設定。初期値はS8=2(2秒)。
S9	キャリア検出の時間設定	相手モデムからのキャリアを検出する時間を設定。接続時に、設定した時間以上連続してキャリアが検出されると、回線を接続。1~255の値を0.1秒単位で設定。初期値はS9=6(0.6秒)。
S10	キャリア断検出の時間設定	回線の接続中に、設定した時間以上連続してキャリアが検出できない場合にキャリア断として回線を切断。1~255の値を0.1秒単位で設定。S10=255の場合はキャリア断を無視(キャリアが切れても回線を切断しない)。初期値はS10=14(1.4秒)。
S12	エスケープコードのガードタイムの設定	エスケープコマンド(++)の前後のガード時間を設定。エスケープコマンドの前後には、設定されたガード時間以上データの無い時間が必要であり、++の間はこの時間より短くなければならない。0~255の値を1/50秒単位で設定。初期値はS12=50(1秒)。
S18	テスト時間の設定	AT&Tで行われるテスト時間を設定。S18=0の場合は、テストは中断されるまで連続して行われる。0~255の値を1秒単位で設定。初期値はS18=0。
S24	スリープ時間の設定	モデムがスリープモードに入るまでの時間を設定。0~255の値を1秒単位で設定。0の場合はスリープモードに入らない。初期値はS24=190。

AT&Wnでバックアップ可能

Sレジスタ	機 能	説 明
S25	DTR 遅延設定	DTRが変化したことを検出するまでの遅延時間を0～255の値の間で0.01秒単位で設定。初期値はS25=5。
S30	無通信タイマ	データの送受信が行われない場合の回線切断タイマで、0～255の値の間で10秒単位で設定。S30=0の場合はデータの送受信が行われない場合でも回線切断は行われない。初期値はS30=0。
S38	回線切断の時間設定	切断コマンドATH0(DTR信号で切断するようにコマンドされているとき)によって切断されるまでの時間を設定。 S38=0～254の場合 設定した時間リモートモデムを待機させ、バッファ内のデータを読みとってから切断。データを送る前にタイムアウトしたときは「NO CARRIER」となり、タイムアウト前にすべてのデータを送出したときは「OK」を返す。 S38=255の場合 タイムアウトしないで、接続が切れるまで、またはデータを送り終わるまでバッファ内のデータを送信。 初期値はS38=20(20秒)
S75	拡張リザルトコード	リザルトコードの形式を指定。 b0 リザルトコードの形式を指定。 =0 S95の指定に従う。 =1 1行ですべてのリザルトを返す(初期値) b1 リダイヤル規制のリザルトコードの形式を指定。 =0 「DELAYED」で返す。 =1 「NO CARRIER」で返す(初期値)
S95	拡張リザルトコードの設定	リザルトコードの返し方を指定。 b0 CONNECTのスピードをDCEスピードで返す(W2) b1 /ARQのエラー訂正をCONNECTの後ろにつける。 b2 接続中にCARRIER XXXXのリザルトを返す。 b3 接続中にPROTOCOL XXXXのリザルトを返す。 b5 接続中にCOMPRESSION XXXXのリザルトを返す。 このSレジスタの指定は、S75のb0が0の場合のみ有効。初期値はS95=0。

AT & Wn でバックアップ可能

本機のお手入れ

⚠警告



雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



お手入れの前には、本機の電源をOFFにして電源コードを抜いてください。

電源コードのプラグがACコンセントに接続されたままお手入れすると、感電の原因となります。



電源コードのプラグにほこりがたまった状態で本機を使用しないでください。

電源コードのプラグにほこりがたまったら長い間清掃しないと、プラグのピン間で放電（トラッキング現象）が起こり、火災の原因となります。

電源コード

電源コードのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがありますので、定期的に清掃することをおすすめします。

本機外側

乾いたきれいな布で拭いてください。

汚れがひどい場合は、水か中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。



- ・水や中性洗剤は、絶対に本機に直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本機の外装を傷めたり、故障の原因となります。

液晶ディスプレイ

乾いた柔らかいきれいな布で、軽く拭いてください。



- ・水や中性洗剤は、絶対に使用しないでください。故障の原因となります。
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。液晶ディスプレイを傷めたり、故障の原因となります。
-

フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブは、ひと月に一回程度を目安として、清掃することをおすすめします。

フロッピーディスクドライブの清掃用として、クリーニングディスクがあります(別売)。クリーニングディスクについては、ご購入元またはNECサービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

キーボード

乾いたきれいな布で拭いてください。

汚れがひどい場合は、水か中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。

キーのすきまにゴミなどが入った場合は、掃除機で吸い出すなどして、取り除いてください。ゴミがとれない場合は、最寄りのNECサービスセンター、サービスステーションにご相談ください。



- ・水や中性洗剤は、絶対にキーボードに直接かけないでください。故障の原因となります。
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本機の外装を傷めたり、故障の原因となります。
-

スライドパッド

パッド上に汚れが付着した場合は、乾いたきれいな布で軽く拭いてください。

汚れがひどい場合は、水かうすめた中性洗剤を布に含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。



- ・水や中性洗剤は、絶対に本機に直接かけないでください。故障の原因となります。
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。パッドを傷めたり、故障の原因となります。
 - ・水や中性洗剤を使用した場合、乾いてから操作してください。濡れたままだと、マウスポインタが移動しなくなる場合があります。
-



消耗品一覧

本機の添付品のうち、消耗品と消耗部品は次のとおりです。

種類	概要	本機の場合
消耗品	使用頻度あるいは経過年数により消耗し、一般的には再生が不可能なもので、お客様ご自身で購入し、交換していただくものです。保証期間内であっても、有料です。	バッテリーパック フロッピーディスク(媒体) CD-ROM(媒体)
消耗部品(有償交換部品)	使用頻度あるいは経過年数により消耗し、摩耗、または劣化し、修理再生が不可能な部品です。NEC サービスセンター、サービスステーションなどで交換し、お客様に部品代を請求するものです。保証期間内であっても、有料の場合があります。	液晶ディスプレイ

本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後7年です。
また、再入手可能な添付品は次のとおりです(有料)

- ・フロッピーディスク(媒体)
- ・CD-ROM(媒体)
- ・『ステップアップガイド』(PC-9821NW-GB)



付録

オプション品一覧

本機に接続できる代表的なオプション品は次のとおりです。

	型名	品名	仕様
増設メモリ	PC-9821NR-B01	増設RAMボード(8MB)	本体内の増設RAMボード用コネクタに実装可能
	PC-9821NR-B02	増設RAMボード(16MB)	
	PC-9821NR-B03	増設RAMボード(32MB)	
ACアダプタ	PC-9821NR-U01	ACアダプタ	本体に1個標準添付
バッテリー	PC-9821NR-U02	バッテリーパック(ニッケル水素)	バッテリースロットに実装可能
PCカード	PC-9801N-J03R	SCSIカード	本体内のPCカードスロットに実装可能
	PC-9801N-J09	R8100インタフェースカード	
	PC-9801N-J12*1	B4680インタフェースカードT	
	PC-9801N-J13	デジタルセルラカード9600	
	PC-9801N-J15	FAXモデムカードセット	相当品内蔵済
	PC-9801N-J16	FAXモデムカードセット	
	PC-9821-CS01	100BASE-TXインタフェースカード	本体内のPCカードスロットに実装可能
	PC-9821-CS02	ビデオキャプチャカード	スロット0のPCカードスロットで使用可能
	PC-9821-CS02-01	TVチューナアダプタ	ビデオキャプチャカード(PC-9821-CS02)専用TVチューナ
	PC-FH02L/FH04L FH10L/FH20L/FH40L	フラッシュメモリカード (容量:2MB/4MB/10MB/20MB/40MB)	本体内のPCカードスロットに実装可能
ケーブル	PC-9801N-J03-01	SCSI機器接続用ケーブル	ピンタイプのSCSI周辺機器接続用
	PC-9821N-K04	RS-232C変換ケーブル	D-Sub25ピン ハーフピッチ14ピンコネクタ変換用
	PC-9821N-K05	RS-232Cケーブル(リバース)	ハーフピッチ14ピンコネクタを持つPC本体との接続用
	PC-9821N-K07	MIDI/JOYSTICK変換ケーブルA	MIDI対応機器、ジョイスティック接続用
	PC-9821N-K08	MIDI/JOYSTICK変換ケーブルB	(ケーブルBはプリンタと併用可)
	PC-CA202	プリンタケーブル	ケーブル長:1.5m, ハーフピッチ36ピン
	PC-CA204	プリンタケーブル	ケーブル長:4m, ハーフピッチ36ピン
	PC-98HA-15	RS-232Cケーブル(ノーマル)	D-Sub25ピンコネクタを持つモデム等との接続用
PC-98HA-16	RS-232Cケーブル(リバース)	D-Sub25ピンコネクタを持つPC本体との接続用	
マウス	PC-H98-U01	マウス	マウス用コネクタに接続可能
	PC-9821NL-02	サムマウス	
キーボード	PC-9801-106	98標準キーボード	キーボード用コネクタに接続可能
	PC-9801-119	98標準キーボード(95)	
テンキー	PC-9801N-23	テンキーボード	ファンクションキー付
液晶プロジェクタ	PC-PJ631	View Light S800	800×600ドット対応 1,024×768ドット簡易表示可能
	PC-PJ612	View Light V600	640×480ドット対応800×600ドット簡易表示可能

*1:PC-9801N-J12を使用する際はP.60の手順に沿ってドライバをインストールしてください。

本製品の譲渡について

本製品を第三者に譲渡される場合は、所定の条件に従ってください。また、譲渡を受けられた場合には、所定の手続きに従って、登録内容の変更を行ってください。

譲渡されるお客様へ

本製品を第三者に譲渡（売却）される場合は、次の条件を満たす必要があります。

本体に添付されている全てのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと

各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと

譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除したあと、譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェアの使用条件適用一覧」をご覧ください）

譲渡を受けられるお客様へ

NECからお客様へお知らせを送付することがありますので、必ず登録内容の変更に必要な次の事項を記入し、官製ハガキまたは封書でご返送ください。

ただし、「98 OFFICIAL PASS お客様登録申込書」が未使用で残っている場合は、そのお客様登録申込書をご返送ください。

ご返送いただきましたお客様へは、適時、展示会、イベント、キャンペーン、セミナーなどのご案内や、ソフトメーカー様からの新作ソフトのご紹介等をお送りいたします。

記載内容

本体保証書番号（製造番号）および当社が添付しているフロッピーディスクラベル上の「Serial No.」（いずれのソフトも同一）

「Serial No.」がない場合は不要です。

以前に使用されていた方の氏名、住所、電話番号もしくは中古購入されたお店の名称、住所、電話番号

あなたの氏名、住所、電話番号

返送先

〒108-01 東京都港区芝五丁目7番1号

N E C

98 OFFICIAL PASS登録センター係行

本機の廃棄方法について

本機を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。



バッテリーパック、サブバッテリーは、本機から取り外して、地方自治体の条例に従って廃棄してください。

バッテリーパックの廃棄について.....

本機に添付されているバッテリーパックは、ニッケル水素バッテリーです。本機から取り外して廃棄してください。バッテリーパックの取り外し方は、P. 13をご覧ください。

⚠ 警告



発火注意



破裂注意



毒物注意

バッテリーパックは、分解しないでください。
分解すると、破裂したり液もれしたりすることがあります。

バッテリーパックには強い衝撃を加えないでください。また、このマニュアルの指定の方法で充電してください。

衝撃を加えたり、指定以外の方法で充電したりすると、発熱、発火、破裂、液もれすることがあります。

バッテリーパックは、火の中に入れてください。
火の中に入れると、爆発したり、破裂したりすることがあります。

サブバッテリーの廃棄について.....

本機には、サブバッテリー（ニッケル水素バッテリー）が内蔵されています。サブバッテリーは、本機から取り外して廃棄してください。

サブバッテリーの取り外し

サブバッテリーは、次の手順で取り外してください。



サブバッテリーの取り外しには+(プラス)ドライバが必要です。

⚠警告



毒物注意

サブバッテリーは、絶対に口に入れないでください。

サブバッテリー内部には、人体に有害な物質が含まれています。万一、口に入れたり飲み込んだりした場合は、すぐに吐き出し、うがいをして、医師に相談してください。



サブバッテリーは、短絡(ショート)防止対策をしてください。また、他の電池と混ぜないでください。

端子に絶縁テープを貼るなどの短絡(ショート)防止対策をせずに乾電池など他の電池と混ぜると、化学反応がおこり、内部の液が漏れて皮膚などを痛めることがあります。



感電注意

雷が鳴り出したら、電源コードに触れないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



感電注意

機器の取り外しをするときは、電源コードを抜いてください。

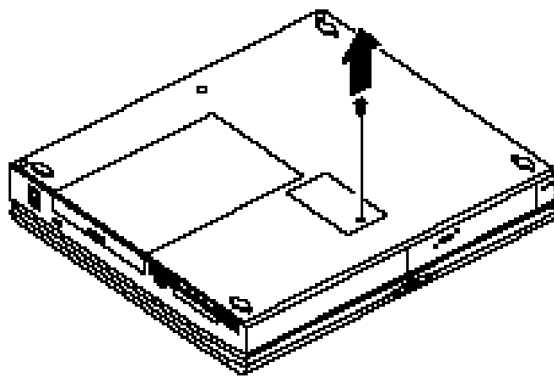
電源コードがACコンセントに接続されたまま機器の取り外しをすると、感電の原因となります。



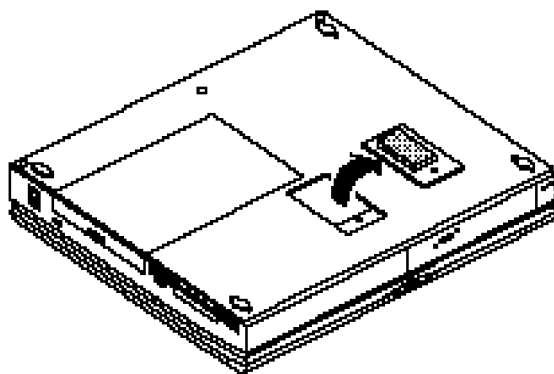
濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

- 1** 本機の電源をOFFにして、電源コードのプラグをACコンセントから取り外します。
- 2** ACアダプタを本機から取り外します。
- 3** 本機にケーブル類が接続されている場合はすべて取り外します。
- 4** 本機のフタ 液晶ディスプレイ を閉じて本機を裏返します。
- 5** バッテリパックが取り付けられている場合は取り外します。
- 6** 図の位置のネジ1カ所をプラスドライバで取り外します。



- 7** カバーを取り外します。



カバーの裏側にサブバッテリーが接着されているのではがして捨てます。

目的別索引

本機を手入れする

液晶ディスプレイを手入れする	167
キーボードを手入れする	168
スライドパッドを手入れする	168
フロッピーディスクドライブを手入れする	168
電源コードを手入れする	167

本機の機能を使いこなす

各部の名前と役割	
コネクタやボタンの位置	2
キーの名前と働き	5
表示ランプ	4
フロッピーディスクドライブ	6
CD-ROMドライブ	8
通信機能を使う	
電話回線に接続する	35
赤外線通信機能を使う	39
ATコマンドについて	156
ダイヤルの設定を確認する	38
サウンドを楽しむ	
本機で使えるサウンド	43
サウンドデバイスを切り替える	46
VSC-88を使う	46
MIDI音源を使う	46
音量を調節する	43
トーンを調節する	45
サウンドドライバの注意	58
外部オーディオ機器を接続する	99
マイクロホンに接続する	99
ヘッドホンを接続する	99
バッテリーで本機を使う	
バッテリーを充電する	10
バッテリーの充電時間	180
バッテリー残量を確認する	12
バッテリーでの使用時間	180
バッテリーの交換時期	13
バッテリーを交換する	13
本機で使えるバッテリーパック	13、170
省電力で使う	28
サスペンド/レジューム機能を使う	
サスペンドする方法	16

レジュームする方法	16
サスペンドできないとき	20
ハイバネーション機能を使う	
ハイバネーションの設定をする	22
ハイバネーション機能を使う	24
大切なデータを守る	
セキュリティ機能の使い方	32
セットアップパスワード	32、120
パワーオンパスワード	32、119
I/Oロック	32、123
パスワードを設定する	121
パスワードを変更する	122
パスワードを解除する	123
省電力で本機を使う	
CPUの節電	28、117
ハードディスクの節電	31、116
ディスプレイの節電	29、116
98NOTEメニューで設定できる省電力	115
表示のしかたを変える	
本機で表示できる解像度と表紙色	50
密度変換機能を使う	96
出力先を切り替える	95

周辺機器を使う

本機で使える周辺機器	54
周辺機器用のドライバ	57
周辺機器用のドライバの状態を調べる	62
周辺機器を接続するケーブル	56
紙に出力する	
プリンタを接続する	63
プリンタの設定をする	64
プラグ&プレイ対応プリンタを使う	68
ネットワーク上の共有プリンタを使う	69
メモリ容量を増やす	
利用できる増設メモリを確認する	170
増設RAMボードを取り付ける	71
増設できたかを確認する	75
他の入力装置を使う	
キーボード/テンキーボードを使う	98
マウスを使う	98
オーディオ機器を使う	
ヘッドホンを使う	99
マイクロホンを使う	99

外部オーディオ機器を使う	99
音量を調節する	43
大きな画面に表示させる	
ディスプレイを接続する	89
テレビを接続する	91
表示できる解像度と表示色を確認する ...	50、87
ディスプレイに合わせて設定をする	93
フルスクリーン表示に切り替える	88
表示先を切り替える	95
省電力機能を使う	28、116
密度変換ユーティリティを使う	96
PCカードを使う	
PCカードの出し入れ	78
PCカードサポートソフトウェアの設定をする ..	80
MIDI機器を使う	
MIDI機器を接続する	97
サウンドデバイスを選択する	46
ジョイスティックを使う	97

本機の設定を変更する

98NOTEメニュー	
98NOTEメニューを起動する	102
98NOTEメニューユーティリティを起動する ..	106
98NOTEメニューを操作する	109
各メニューの詳細	110
メモリスイッチ	
98環境設定ユーティリティをインストールする	131
メモリスイッチを変更する	132
割り込みレベル・DMAチャンネル・ROMアドレス空間	
設定を変更する	127

別売の機器について

本機で使える別売の機器	170
消耗部品について	169

本機が不要になったとき

本機を譲渡するには	171
本機を廃棄するには	172

索引

ア

ウィンドウアクセラレータ機能	50
液晶ディスプレイ	2
液晶ディスプレイ自動停止	29、116
液晶プロジェクタ	88
オートサスペンド	18、117
オーディオ出力端子	3、99
オーディオ入力端子	3、99
オプション品一覧	170
音量調節つまみ	3、43

カ

解像度	50
外部オーディオ機器	99
かなキー	5
かなキーロックランプ	4
輝度調節つまみ	2
キーボード	2、5、98、118
キーボード用コネクタ	3、98
キャップスキー	5
キャップスキーロックランプ	4
クリックボタン	2
ケーブル	56
コントラスト調節つまみ	2

サ

サウンド機能	43、110
サウンドデバイス	46
サウンドドライバ	58
サスペンド	16
サスペンドランプ	4
サスペンドスイッチ	2、111
サブバッテリー	173
サムマウス	98
自動中断	18
周辺機器	54
省電力機能	28、115
省電力モード	115
ジョイスティック	97
譲渡について	171
消耗品一覧	169
シリアルコネクタ	3、100
シリアル I/O ロック	123
スピーカ	2
赤外線通信ポート	3、41
赤外線通信機能	39、118
赤外線通信機能 I/O ロック	124
セキュリティ機能	32、119
セットアップパスワード	32、120
増設RAM ボード	70

タ

タップ&ドラッグ機能	118
通信機能	35
ディスクドライブの省電力モード	31
ディスプレイ	87
ディップスイッチ	112
テレビ	91
テンキーボード	98
トーン	45
電源スイッチ	2
電源ランプ	4
動作環境の設定	110
盗難防止用ロック	2、3
ドライバ	57

ナ

内蔵ハードディスク自動停止	31、116
入出力デバイスの設定	117

ハ

廃棄について	172
ハードディスク	179
ハードディスクアクセスランプ	4
ハイバネーション機能	22
バッテリー充電ランプ	4
バッテリースロット	2、14
バッテリー	10
バッテリーリフレッシュモード	111
パワーオンパスワード	32、119
ビデオ出力用端子	3、92
表示色	50
表示ランプ	2、4
ファン	3
フォーマット	7
プリンタ	63
プリンタ I/O ロック	124
プリンタ用コネクタ	3、63
フロッピーディスクイジェクトボタン	6
フロッピーディスクドライブ	2、6
フロッピーディスクアクセスランプ	4
ヘッドホン端子	3、99

マ

マイクボリューム	110
マイクロホン	2、99
マイクロホン端子	3
マウス	98
マウス用コネクタ	3、98

密度変換ユーティリティ	96
メモリスイッチ	131
メモリ容量	75、179
モジュラーコネクタ	3
モデム	119

ヤ

ユーザーズメモリ	179
----------	-----

ラ

レジューム	16
-------	----

ワ

割り込みレベル	127
---------	-----

英数字

16Mバイトシステム空間	111
16ビットPCカード	83
32ビットPCカード	81
98スライドパッド	2、117
98NOTEメニュー	102
98NOTEメニューユーティリティ	106
98環境設定ユーティリティ	131
ADDRV コマンド	149、150
AT コマンド	156
AUTOEXEC .BAT	139
AVGDRV .EXE	149
AVSDRV .EXE	149
CAPS キーロックランプ	4
Card Bus	77
CD-ROM アクセスランプ	8
CD-ROM ドライバ	153
CD-ROM ドライブ	2、8
CDトレイジェクトボタン	8
CPU 自動停止	28、117
CPU の速度調整	28
CONFIG .SYS	139
CRT 用コネクタ	3、89
CRT ディスプレイ	89
DC コネクタ	2
DMA チャンネル	127
DOS 環境設定ユーティリティ	138
FAX モデムボード	181
FD I/O ロック	124
FM 音源	43
Hibernation 設定ユーティリティ	22
I/O ロック	32、123
LCD 連動サスペンド/レジューム	117

MIDI 音源	46、97
MIDI 対応機器	97
MIDI の割り込み	111
MS-DOS モード	136
NUM キーのロック機能	118
NUM キーロックランプ	4
PC カード	77
PC カードイジェクトボタン	3、79
PC カードサポートソフトウェア	80
PC カードスロット	3、78
PC Card Standard	77
PCM 録音/再生機能	43
ROM アドレス空間	127
TranXit	39
USKCGM コマンド	142、143
VSC-88	46
ZV ポート	77

機能仕様

モデル		PC-9821Nw150/S20	PC-9821Nw133/D14
CPU		MMX® テクノロジPentium®プロセッサクロック150MHz キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ256Kバイト	MMX® テクノロジPentium®プロセッサクロック133MHz キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ256Kバイト
メモリー	ROM	BIOS、98NOTEメニュー 128Kバイト	
	RAM	搭載メモリ32Mバイト(最大64Mバイトまで増設可能) *ユーザーズメモリ31.6Mバイト(最大63.6Mバイト)	
ディスプレイ表示機能	ビデオRAM	2Mバイト	
	表示素子	バックライト付 12.1インチTFTカラー液晶ディスプレイ ¹	バックライト付 12.1インチデュアルスクリーンカラー液晶ディスプレイ(高速版) ¹
	テキスト表示	英数カナ80文字×25行、80文字×20行 / 漢字40文字×25行、40文字×20行いずれか選択 文字単位にリバース、プリンク、シークレット指定可能、カラー8色表示(キャラクタ単位に指定可)	
	グラフィック表示	640×400ドット 4,096色中16色 640×400ドット 4,096色中256色* 640×480ドット 4,096色中256色 *: Windows 95のMS-DOSモードおよびMS-DOS 6.2で、拡張グラフィックドライバ使用時のみ表示可能	
	アクセラレータ機能	グラフィックアクセラレータチップ: Trident社製Cyber 9385-1w搭載(ビデオアクセラレーション機能搭載) *: インストール済みのWindows 95でソフトウェアMPEG再生機能を利用した場合のみ有効(ただし、密度変換時は使用不可)	
		640×480ドット 26万色中256色 ^{注1}	800×600ドット 65,536色 ^{注1}
	640×480ドット 1,677万色 ^{注1}	1,024×768ドット 26万色中256色 ^{注2}	1,024×768ドット 65,536色 ^{注2}
	800×600ドット 26万色中256色 ^{注1}	1,280×1,024ドット 26万色中256色 ^{注2}	
	注1: ウィンドウアクセラレータのデザイン機能により実現 注2: CRTディスプレイ(別売)接続時のみ表示可能		
	画面合成	テキスト画面とグラフィック画面の合成表示が可能	
	漢字表示	JIS第1、第2水準漢字ROM標準装備、JIS第1、第2水準漢字 7,600字 ユーザ定義文字 188字、40×20/25行、テキスト画面とグラフィック画面の合成表示が可能	
キーボード		JIS標準配列(英数、かな)、本体との一体型 コントロールキー、12ファンクションキー Windowsキー、アプリケーションキー、HELP、COPY、BS、INS、DEL、XFER、NFER、NUMキー、NUMキー キャンセル機能(98NOTEメニュー切り替え)	
ポインティングデバイス		98スライドパッド標準装備	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	640K/1M/1.44Mバイトタイプの3モード対応3.5インチフロッピーディスクドライブ内蔵 (ドライブ番号: Cドライブ)	
	ハードディスク	2Gバイトタイプハードディスク1ドライブ内蔵 ^{2, 3}	1.4Gバイトタイプハードディスク1ドライブ内蔵 ^{2, 3}
オーディオ	入力	マイク入力(モノラル)、ライン入力(ステレオ) 入力インピーダンス20k、入力レベル最大2Vrmsゲイン+6dB	
	出力	ヘッドホン/ライン出力(ステレオ) 出力インピーダンス56、出力レベル最大0.85Vrms	
インターフェイス	マウスインターフェイス	内蔵 98スライドパッドと同時使用可能)	
	プリンタインターフェイス	パラレルインターフェイス(ハーフピッチ36ピンコネクタ) 別売のMIDI/JOYSTICK変換ケーブル(PC-9821N-K07またはPC-9821N-K08)によりMIDI機器/ジョイスティックを接続可能	
	CRTインターフェイス	アナログRGBセパレート信号出力 75 アナログインターフェイス・カラー)	
	ビデオ出力	ビデオ入力を持つ機器(TV、ビデオ等)へPC画像を出力可能	
	シリアルインターフェイス	1ch内蔵(最高115.2Kbps対応)	
	赤外線通信ポート	IrDA規格に準拠、データ転送速度最大4Mbps	
	FAXモデム	ライン(モジュラージャック)(PC-9821NR-B05相当内蔵)	
	テンキーインターフェイス	キーボード、テンキーボード接続可能	
通信機能	モデム	データ転送速度最大33.6Kbps(V.34) エラー訂正 V.42/MNP4、データ圧縮 V.42bis/MNP5 ハンズフリー電話機能、スピーカホン、留守電機能、ボイス機能対応	
	FAX	データ転送速度最大14.4Kbps(V.17) FAX制御 EIAクラス1	
セキュリティ機能		あり	
サスペンド/レジューム機能		あり、LCD連動サスペンド/レジューム機能搭載(98NOTEメニューにより設定可能)	
ハイバネーション機能		あり	
98NOTEメニュー		本体ROMに内蔵(ディップスイッチの設定、動作環境の設定等)	
カレンダー時計		リチウムバッテリーによるバックアップ	
サウンド機能		PCM録音 / 再生機能、エンハンスドFM音源機能(標準FM音源 FM音源6音、リズム音源6音、SSG音源3音) 拡張FM音源 FM音源20音)装備、オーディオ入出力端子(ヘッドホン端子と共用)対、ステレオスピーカ内蔵	PCM録音 / 再生機能、エンハンスドFM音源機能(拡張FM音源 FM音源20音)装備、オーディオ入出力端子(ヘッドホン端子と共用)対、ステレオスピーカ内蔵
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能 再生ソフトウェア標準添付	
デジタル動画(MPEG)再生機能			

モデル	PC-9821Nw150/S20	PC-9821Nw133/D14
CD-ROMドライブ	CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応(ドライブ番号:Qドライブ)	
	最大16倍速(平均13倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で8倍速、最外周で16倍速となります	最大11倍速(平均10倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で6.6倍速、最外周で11倍速となります
PCカードスロット	TYPE ×2スロット内蔵(TYPE ×1スロットとして使用可)(PC Card Standard準拠) CardBus / ZVポート対応(ZVポートはスロット0のみ対応)	
電源	AC 100V ±10%、50/60Hz (ACアダプタ 経由) またはニッケル水素バッテリー (バッテリーパックDC9.6V、3,300mAh)	
サブバッテリー	ACアダプタ未接続時、バッテリー未接続時に、サスペンドの内容を保持(7.2V、70mAh)	
温湿度条件	10 ~ 35 °C、20 ~ 80% (ただし結露しないこと)	
外形寸法	306(W) × 243(D) × 47(H)mm(突起部含まず)	
重量	約3.4kg(本体にバッテリーパック取り付け時)	
消費電力	約20W(内蔵オプション最大接続時) 約45W	

バッテリーパックの充電時間 ⁷

	本機電源ON時	本機電源OFF時
充電時間	約2.3時間	約2.1時間

バッテリーリフレッシュ時間 ⁷

PC-9821Nw150	約1.7時間
PC-9821Nw133	約1.8時間

バッテリーパックでの使用時間 ⁷

PC-9821Nw150	約1.5 ~ 2.3時間
PC-9821Nw133	約1.5 ~ 2.5時間

バッテリーによるサスペンド内容の保持時間 ⁷

本機の状態	保持時間
バッテリーフル充電時	約5日
バッテリーパックを本機から取り外してから ⁸	約1時間

- 液晶ディスプレイは消耗部品です。
液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
また、輝度やコントラストの調整具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- ハードディスク容量は1Mバイト = 1,000,000バイトで計算したときのMバイト値です。OSによっては1Mバイト = 1,048,576バイトでMバイト値を計算するため、この値よりも小さな値で表示される場合があります。
- 本機のハードディスクは、あらかじめ2つの領域に分割されています。それぞれの領域は別のドライブとして扱われます(ドライブ番号:Aドライブ/Bドライブ)。領域を変更する場合は『再セットアップガイド』をご覧ください。
- ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。
- バッテリーパックは消耗品です。
- 18 ~ 28 °C、45% ~ 75%での使用を推奨。
- 時間は本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- サブバッテリーのみの保持時間です。

内蔵FAXモデムボード機能仕様

機能概要

CPU I/F	<ul style="list-style-type: none"> ・16550A相当(I/Oアクセス、割り込み) ・プラグ&プレイモード対応
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> ・回線接続切り替え機能 ・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> ・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V 34 V 32bis V 32、V 22bis、V 22、V 21 V 42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V 42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 -V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット -AT -Sレジスタ ・ビルトインDTEインタフェース -最高115.2KbpsのDTEスピード -パラレル16550A UARTインタフェース ・回線品質モニタリングおよびオートトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・最高115.2Kbpsの自動フォーマット/スピード検出 ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング(DTMフトーン、ダイヤルパルス制御)

付録

FAXモデム機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM: 14400/12000/9600/7200bps DPSK: 4800/2400bps FSK: 300bps
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-34dBm以上
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格	ITU-T V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM: 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM: 9600/7200bps DPSK: 4800/2400bps FSK: 300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-34dBm以上
制御コマンド	HayesATコマンド準拠

回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

N C U 機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
N C U 形式	AA(自動発進 / 自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

98 NOTE

ステップアップガイド
PC-9821Nw150/Nw133

1997年5月 初版

NEC

P

808-875488-045-A